

こまきのけんこう

令和 8 年
(令和 7 年度実績)

小 牧 市



キミと一緒に、育っていきたい。
Komaki



市 章

左よりかたかなで「コマキ」を表し、市章全体は、空港都市小牧の象徴である航空機の機関部正面を表し、将来への飛躍を物語っています。

(昭和30年4月1日制定)

小牧市民憲章 市政施行30周年

わたくしたち小牧市民は、小牧を

- 1.健康で生きがいのある明るいまちにしましょう。
- 1.感謝と思いやりのあるあたたかいまちにしましょう。
- 1.緑とやすらぎのある美しいまちにしましょう。
- 1.高い文化と教養のある豊かなまちにしましょう。
- 1.希望と働く喜びのある活気あふれるまちにしましょう。

小牧市民憲章は、市民の道しるべとして、健康で明るい生活を送るため、また、市民一人ひとりの心構えや果たすべき役割を明確化し、心ふれあう豊かな社会を形成するため、小牧市制施行30周年を記念し、昭和60年5月15日に制定されました。

こども夢・チャレンジNo.1都市宣言（要約）市政施行60周年

私たちは、こどもの夢への挑戦をまち全体で応援することで、こどもを中心に世代を超えて市民がつながり、支え合う、すべての市民が暮らしやすい、あたたかいまちになっていくと確信します。

そこで、私たち小牧市民は、

- 一.こどもの夢への挑戦を応援することで元気になるまち
- 一.世代を超えて市民のつながりが生まれるまち
- 一.支え合うことでさらに住みよくなっていくまち

このようなまちの実現に向け、小牧市を「こども夢・チャレンジNo.1都市」とすることを、ここに宣言します。

こども夢・チャレンジNo.1都市宣言は、小牧市の特徴である「子育て支援が充実している」姿を一層高め、「こどもを中心に世代を超えて市民がつながり、支え合う、すべての市民が暮らしやすい、あたたかいまち」を小牧市全体で目指し、市内外に発信していくため、小牧市制施行60周年を記念し、平成27年5月17日に宣言しました。

目 次

第1	小 牧 市 の 概 要	1
第2	保健センターの機構及び事務分掌	2
第3	保 健 事 業 の 変 遷	3
第4	衛 生 統 計	19
第5	成 人 保 健 事 業	20
1	成人保健事業一覧	21
2	健 康 手 帳 交 付	22
3	人 間 ド ッ ク	22
4	健康診査（生活保護受給者）	22
5	肝炎ウイルス検診	23
6	が ん 検 診	24
7	骨粗しょう症検診	33
8	健 康 教 育 事 業	33
(1)	乳がん検診時健康教育	33
(2)	地区健康教育	34
(3)	職域健康教育	35
(4)	出前講座（国保協力事業）	35
(5)	自分・家族の健康を考える食生活講座（ヘルスマイト養成講座）	37
9	健 康 相 談 事 業	38
(1)	医師健康相談	38
(2)	保健師等健康相談	38
(3)	保健師・管理栄養士による生活習慣病予防相談	39
(4)	精神保健福祉士による心の健康相談	40
10	訪 問 指 導	40
11	ヤ ン グ 健 診	44
12	重層的支援体制整備事業	48
13	地域支援事業 一般介護予防事業	50
14	小牧市健康づくり推進プランの推進	55
15	こまき健康いきいきポイント事業	59
16	ウォーキングアプリ「alko」	61
第6	予防接種事業及び結核予防事業	63
1	予防接種事業一覧	63
2	結核予防事業	64
3	愛知県広域予防接種	65
4	指定医療機関外定期予防接種	65
5	定期外予防接種	65

6	おたふくかぜワクチン予防接種費用助成事業	65
7	風しんワクチン予防接種費用助成事業	66
8	予防接種特別再接種費用助成事業	66
9	带状疱疹予防接種費用の助成事業	66
第7	母子保健事業	67
1	母子保健事業一覧	68
2	親子健康手帳（母子健康手帳）交付	69
3	妊婦・産婦・乳児個別健康診査	71
4	健康診査事業	73
(1)	4か月児健康診査	73
(2)	1歳6か月児健康診査	75
(3)	3歳児健康診査	77
(4)	5歳児健康診査	79
(5)	乳幼児健診未受診者支援事業	81
5	健康教育事業	85
(1)	離乳食教室（初期：ごっくん教室、後期：かみかみ教室）	85
(2)	健康教育	86
(3)	生と性に関するカリキュラムの推進への取り組み	89
6	相談事業	90
(1)	母乳相談	90
(2)	市内児童館巡回育児相談、妊産婦健康相談	91
(3)	2歳3か月児歯科健康診査時育児相談	94
(4)	栄養相談	95
(5)	母子電話相談	95
(6)	臨床心理士による相談	97
(7)	運動発達相談	98
(8)	なかよし教室	100
(9)	おひさまサロン	102
7	訪問事業	104
(1)	保健センター保健師による妊婦・産婦・乳幼児訪問	104
(2)	助産師による妊婦・産婦・新生児・乳児訪問	105
(3)	管理栄養士による訪問	107
8	中学生ピロリ菌検査事業	108
9	外国人通訳の配置	109
10	産後ケア事業	110
11	1stアニバーサリー事業	112
12	利用者支援事業（こども家庭センター型（母子保健機能））	114
13	すくすく子育て応援事業	115
14	こまき巡回バス「こまくる」マタニティフリーパス配布事業	116
15	初回産科受診料助成支援事業	116
第8	歯科保健事業	117
1	歯科保健事業一覧	117
2	各事業の内容	118

(1)	妊婦個別歯科健診	118
(2)	4か月児歯科指導及び母親歯科健診	119
(3)	1歳6か月児歯科健康診査	120
(4)	2歳3か月児歯科健康診査	121
(5)	3歳児歯科健康診査	122
(6)	離乳食教室：後期かみかみ教室	123
(7)	にこにこむし歯予防教室	124
(8)	保育園歯みがき教室	125
(9)	8020歯っぴースマイル！歯みがき教室	126
(10)	学校歯科健診	126
(11)	歯周病予防個別健診	127
(12)	いきいき世代個別歯科健診	129
(13)	ヤング健診及び結果説明会	131
(14)	知って得するフレイル予防講座～おくち編～	132
(15)	防ごう誤嚥性肺炎！これであなたも歯(し)あわせ講座	133
(16)	フレイル改善個別相談	133
(17)	歯の健康相談	134
(18)	歯科電話相談	135
(19)	歯科健康教育	135
(20)	訪問口腔衛生指導	136
(21)	8020表彰	137
(22)	口腔がん検診	138
第9	地 区 組 織 活 動	139
1	保健連絡員活動	139
(1)	保健連絡員設置数	139
(2)	保健連絡員会議	139
(3)	個人活動	139
(4)	地区活動	140
(5)	グループ活動	146
(6)	地区懇談会	148
(7)	保健連絡員全体の学習	148
(8)	保健連絡員養成講座	149
(9)	保健連絡員役員会	150
2	小牧市食生活改善協議会	151
3	牧連体操クラブ	154
4	楽育相談	155
第10	救 急 医 療 活 動	156
1	救急医療活動	156
(1)	救急医療情報システム	156
(2)	救急医療情報センター利用状況	156
(3)	休日急病診療所	157

第 1 1	そ	の	他		159
1	各種協議会等開催状況				159
2	不妊治療等助成事業（一般不妊治療）				161
3	不妊治療等助成事業（生殖補助医療）				162
4	不育症治療等助成事業				163
5	小牧市自殺対策計画の推進				164
6	骨髄提供者等助成事業				165
7	がん患者医療用補整具購入費助成金				166
8	若年がん患者在宅療養助成金				167

編集・発行

令和 8 年 8 月

小牧市常普請一丁目318番地

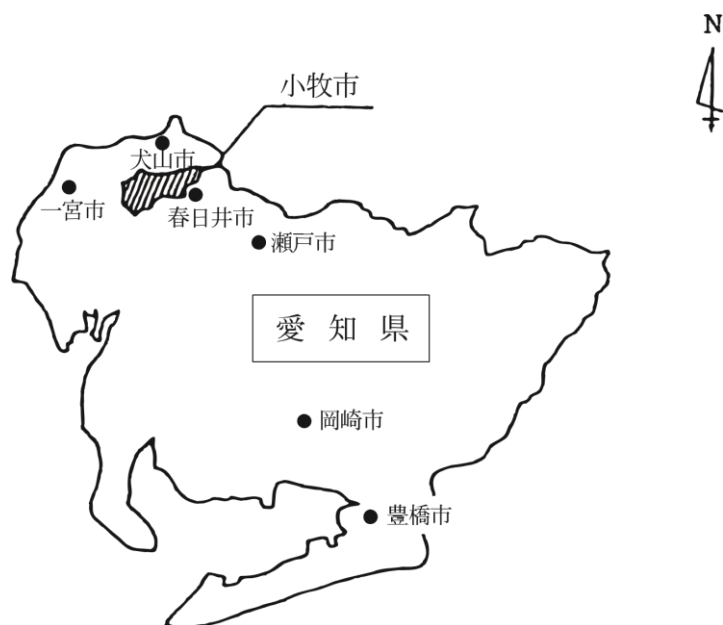
小牧市保健センター

☎ (0568) 7 5 - 6 4 7 1

第1 小牧市の概要

第1 小牧市の概要

- (1) 市制施行 昭和30年1月1日
- (2) 市役所所在地 小牧市堀の内三丁目1番地
東経 136度54分
北緯 35度17分
- (3) 面積 62.81平方キロメートル
東西 14.82キロメートル
南北 9.22キロメートル



昭和30年1月、小牧町・味岡村・篠岡村の1町2村の合併により県下21番目の市として市制を施行し、その後昭和38年9月には北里村を編入して現在の市域となる小牧市は、愛知県の北西部、名古屋市の北約15kmに位置している。

市制施行後、東名・名神高速道路及び中央自動車道の結節点という陸上交通の要衝と空の玄関口である県営名古屋空港を併せ持つ地の利に恵まれ、田園都市から内陸工業都市・尾張北部の中核都市へと飛躍的な発展を続けている。

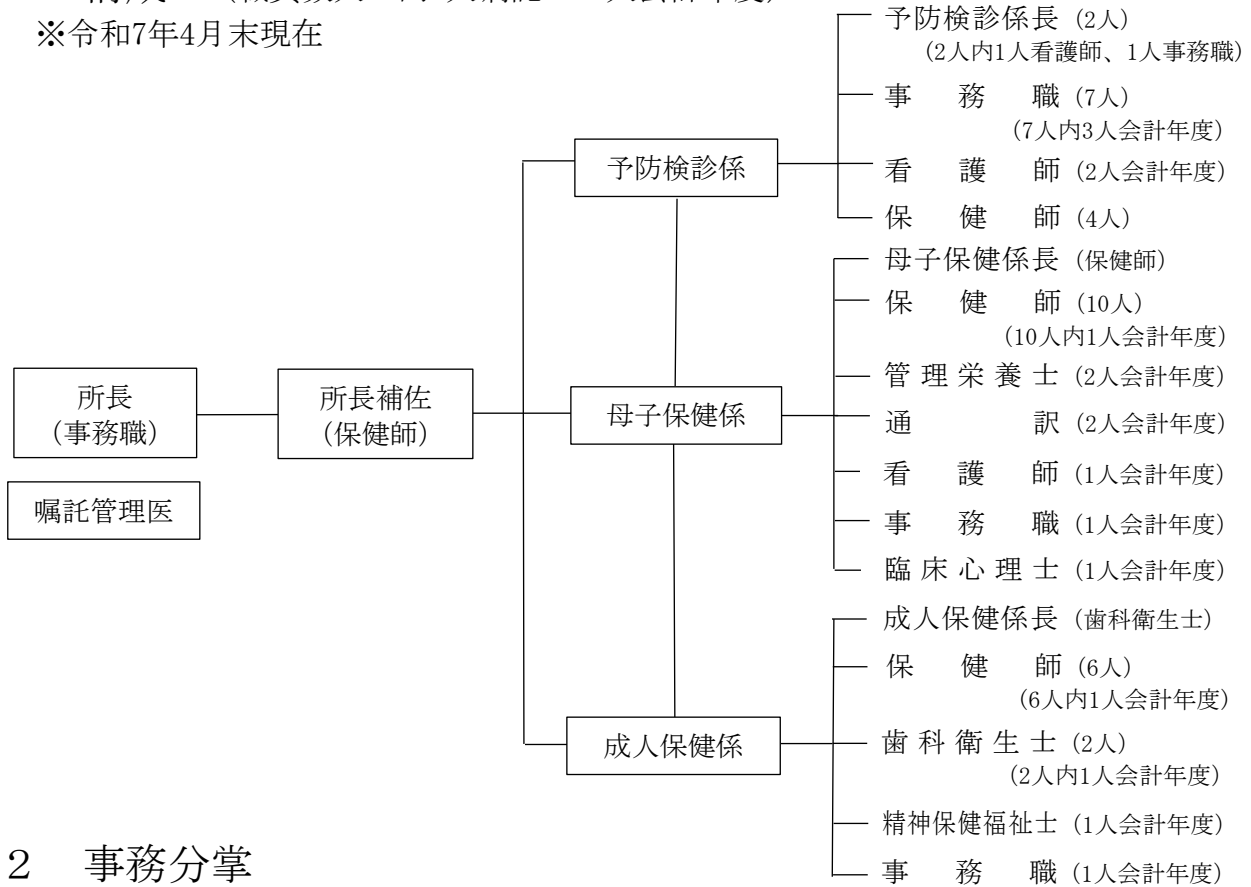
現在、小牧市は、「こども夢・チャレンジNo.1都市」「健康・支え合い循環都市」「魅力・活力創造都市」をまちづくりの機軸として掲げ、更に“誰一人取り残さない”持続可能で多様性と包摂性のある社会の実現を目指すSDGsや、ダイバーシティの考えも取り入れて、まちづくりを進めている。

第2 保健センターの機構及び事務分掌

第2 保健センターの機構及び事務分掌

1 構成 (職員数人47内1人嘱託・17人会計年度)

※令和7年4月末現在



2 事務分掌

	予防検診係	母子保健係	成人保健係
成人保健	1 健康手帳交付 2 健康診査 3 がん検診 4 肝炎ウイルス検診 5 骨粗しょう症検診 6 結核検診 7 予防接種		1 健康教育 2 健康相談 3 訪問指導 4 ヤング健診 5 歯周病予防個別健診 6 いきいき世代個別歯科健診 7 口腔がん検診
母子保健	1 予防接種 2 中学生ピロリ菌検査事業	1 乳幼児健康診査 2 健康教育 3 保育・教育現場との連携事業 ① 歯みがき教室 (保育園・幼稚園・こども園) ② 園児対象う蝕対策普及啓発活動 ③ 8020歯っぴースマイル! 歯みがき教室 (小学校) ④ フッ化物洗口 (保育園・市立幼稚園・小学校) ⑤ 生と性に関するカリキュラム 4 相談事業 ① 育児相談 ② 電話相談 ③ 臨床心理士による相談 ④ 運動発達相談 5 訪問事業 6 妊婦個別歯科健診	
地域保健 組織育成			1 保健連絡員養成 2 保健連絡員教育・学習 3 保健連絡員・OB活動 4 食生活改善推進員育成
その他	1 感染症予防 2 休日急病診療所 3 骨髄提供者等助成事業 4 がん患者医療用補整具購入費助成事業 5 若年がん患者在宅療養助成事業	1 不妊不育症治療等助成事業	1 介護保険地域支援事業 (介護予防事業) 2 自殺対策事業 3 小牧市健康づくり推進プラン (各種専門部会を含む)

第 3 保健事業の変遷

第 3 保健事業の変遷

年度	成 人 ・ 老 人 保 健	母 子 保 健	予 防 接 種	そ の 他	人口(人)
昭和40年	・農夫症対策開始	・新生児全戸訪問 (国保対策)		・保健婦3人	63,365
41年	・そさいグループ健診 開始 ・老人クラブ保健指導 開始 ・高血圧料理講習会 開始 ・健康相談室開催				64,091
42年			・腸・パラチフス廃止 ・百日咳・ジフテリアに 破傷風が入り2種混 合から3種混合に変 わる		67,052
43年	・胃がん検診開始		・種痘切皮法から多圧 法に変わる ・BCG切皮法から管 針法に変わる	・看護婦1人	71,900
44年	・そさいグループ健診 終了 ・子宮がん検診開始		・ハイジェット使用開始 (61年まで)		75,962
45年	・農夫症対策終了	・赤ちゃん教室開始 ・乳児健診開始(1回)	・問診票使用開始 ・予防接種事故救済 制度始まる	・看護婦2人体制 ・保健婦4人体制	79,842
46年	・糖尿病料理講習会 開始	・乳児健診(2回) ・2歳児講習会開始	・日本脳炎1歳から3 歳、日本脳炎小2、 中1、55～64歳に 改正	・消毒室開設	85,006
47年					88,537
48年	・成人病健康診査開 始				92,697
49年		・1歳児健診開始	・ツベ・BCG 0～4 歳、小1、中1、中2に 改正 小2、中2は前年BC Gのみ		95,884
50年	・保健衛生推進協議 会設置	・乳児健診(4回)	・百日咳中止 ・種痘廃止		98,528
51年	・住民健診に血圧、検 尿を導入	・2歳児講習会終了	・2種混合3期入学前 廃止		99,566
52年		・1歳児健診終了 ・1歳6か月児健診 10回	・風しん開始(中学3 年女子)		100,236
53年	・小牧市民健康づくり 推進協議会設置	・1歳6か月児健診 24回	・風しん中学1・2年女 子に改正 ・日本脳炎55歳～ 64歳中止 ・予防接種事故調査 委員会発足	・保健婦国保から市 町村に移管 ・休日急病診療所 開設	100,837
54年	・住民健診ポスター作 成	・1歳6か月児健診 36回 ・事後検診開始 3回	・麻しん個別接種開始	・保健婦3人体制	102,160
55年	・保健健康づくりモデ ル地区活動開始 ・コミュニティースポ ーツ振興会における健 康づくり開始 ・糖尿病予防教室開 始	・1歳6か月児健診に 歯科健診を導入 ・なかよし教室(6回) ・幼児教室開始 (6回)	・百日咳復活(3種混 合) ・風しん中学1年女子 に改正 ・ポリオ投与法スプ ーンからピペットに改 正	・救急医療情報シ ステムスタート ・保健婦4人体制	103,985

年度	成 人 ・ 老 人 保 健	母 子 保 健	予 防 接 種	そ の 他	人口(人)
55年	・肥満教室開始 ・高血圧教室開始				
56年	・コンピュータードック開始 ・肥満教室、高血圧教室等シリーズ開始				106,630
57年	・保健衛生推進協議会廃止 ・乳がん自己検診法開始	・妊婦貧血教室開始(2回)	・一般会場一針一筒となる		108,885
58年	・健康手帳交付開始 ・北里支所健康相談中止 ・一般健診開始 ・小牧市健康まつり開始	・妊婦貧血教室(3回)		・保健婦3人体制	110,281
59年	・成人病教室の充実 ・コンピュータードック終了 ・大腸がん検診開始 ・子宮がん施設検診開始 ・保健連絡員養成講座開始	・妊婦貧血教室(4回) ・小冊子の作成 ・なかよし教室(12回)	・予防接種事故調査委員会廃止		112,097
60年	・肺がん検診開始 ・保健連絡員活動開始 ・一般健診ポスター作成開始	・妊婦貧血教室を妊婦栄養教室に改正(5回)			113,670
61年	・一般健診対象者へ個人通知 ・乳がん検診開始	・妊婦栄養教室(6回) 人形劇開始、尿中塩分量測定、みそ汁塩分測定 ・2語文アンケート		・保健婦4人体制	115,211
62年	・肺がんX線開始		・ハイジェットタ使用全面廃止 ・麻しん無料化 ・インフルエンザ任意、保護者同意となる	・保健婦1人増員 保健婦5人 看護婦2人	117,198
63年	・基本健診の開始 ・リハビリ教室開始 ・人間ドックの開始	・1歳6か月児健診に精密検査を導入 ・2語文アンケートを2歳児アンケートに改正	・予防接種電算調査	・保健センター開設 ・栄養士1人配置 ・看護婦1人増員(職員13人)	119,935
平成元年		・妊婦栄養教室を妊婦教室に変更 歯の健診を導入(12回) ・1歳6か月児健診に心理相談を導入	・MMR開始	・看護婦3人体制 ・補佐職配置 ・保健指導係長兼務(職員14人)	122,913
2年	・訪問生活リハビリ開始 ・40歳無料大腸がん検診開始 ・食生活相談紹介状の導入により医師会との食事指導の連携ができる ・「生きがいの会」発足		・予防接種協議会の設置	・保健婦1人増員 ・保健婦6人体制(職員15人)	125,261
3年	・乳がん検診にDMRを導入 基本健診に尿酸、総蛋白を加える		・MMR凍結		129,267

年度	成 人 ・ 老 人 保 健	母 子 保 健	予 防 接 種	そ の 他	人口(人)
4年	・成人歯科健診 ・がん死亡撲滅地区事業開始 モデル地区 ＝岩崎原区、市之久田区 ・歯科衛生士による訪問指導開始				131,024
5年	・成人健康管理システム稼働 基本健診に HDL・中性脂肪・クレアチニン追加 ・がん死亡撲滅モデル地区 ＝三ツ渕区、野口区 ・成人歯科健診を3回から6回に拡大 ・ボランティア健康劇団「ほたる」発足 ・地域ケアボランティア「ともしび」発足			・補佐職兼務を解く ・歯科衛生士1人配置 ・看護婦1人退職（職員数16人） 保健婦6人 看護婦2人 栄養士1人 歯科衛生士1人	133,723
6年	・人間ドック300人増加（総数 1,800 人） ・人間ドック受診料 5,660 円→6,000 円 ・人間ドック検便を2日法に変更 ・骨粗しょう症検診健康教育 ・がん死亡撲滅モデル地区 ＝小牧原区、北外山県住区 ・ボランティア「つつじ」（1人ぐらし老人食生活の工夫）発足 ・小牧市老人保健福祉計画作成	・乳幼児管理システム稼働 ・母子保健法一部改正	・インフルエンザ取りやめる ・予防接種法一部改正により、予診医師1人1時間あたり100名→20名	・保健婦1人増員 保健婦7人体制（職員数17人）	135,632
7年	・人間ドック300人増加（総数 2,100 人） ・骨粗しょう症予防教室 ・地域リハビリの集い「たんぼの会」開始（南岩崎台） ・がん死亡撲滅モデル地区 ＝本庄区、藤島団地区 ・保健連絡員活動10周年記念事業 ・健康まつりで骨粗しょう症検診（国保会計）		・風しん個別接種予防接種法一部改正により、名称及び対象年齢の変更 個別接種化に伴い、会場数を変更 10→6会場	・保健婦1人増員 保健婦8人体制（職員数18人）	137,226
8年	・骨粗しょう症検診（新規） 年6回130人×6回＝780人 ・基本健診 HbA1cの項目追加（ヘモグロビンA1c） ・地域リハビリ「ももの	・9年移譲にむけて、保健センターを会場として4か月児健診の実施（実施主体保健所） ・乳幼児管理システム第2次開発 ・母子保健計画の作	・日本脳炎個別接種個別接種化に伴い、会場数を変更 6→5会場	・保健婦2人増員 看護婦1人増員 保健婦10人 看護婦3人 栄養士1人 歯科衛生士1人退職（職員数21人）	138,795

年度	成 人 ・ 老 人 保 健	母 子 保 健	予 防 接 種	そ の 他	人口(人)
8年	- 会」開始(東部) ・がん死亡撲滅モデル地区 = 村中区、大草西・東区 ・いきいきウォーキング推進事業 = 北里中学校区 応時中学校区 ・リフレッシュウォーク 四季の森～四季の道 (389人参加) ・ボランティア「つつじ」 が料理する一人ぐらし 簡単料理を広報こまきに掲載開始	成			
9年	・骨粗しょう症検診 年6回150人×6回 = 900人 ・人間ドック300人増加 (総数 2,400人) ・がん死亡撲滅モデル地区 = 桜井区、大輪区 ・地域リハビリ「わかばの会」開始(藤島団地) ・いきいきウォーキング推進事業 = 光ヶ丘中学校区 味岡中学校区 ・ボランティア「つつじ」 が愛知県健康づくり 振興事業団の助成により 1人ぐらし簡単料理 広報掲載の効果判定	・県より事務移譲 1 妊婦及び乳幼児健診事業 2 4か月児・3歳児健診事業 3 乳幼児歯科健診 予防処置事業 4 食生活改善推進員養成・育成事業 5 妊婦及び乳児健診受診券交付 ・母子保健推進協議会設置 ・2歳3か月児歯科健診開始	・2種・3種混合個別接種 ツベルクリン・BCG を4か月児健診にあわせて実施	・H9年4月1日から 統廃合により小牧 保健所が春日井保 健所小牧支所となる ・健康まつりにポルトガル語、スペイン語の通訳、手話通訳を配置 ・保健婦2人増員 事務員1人増員 保健婦2人退職 保健婦12人体制 歯科衛生士1人配置 (職員数24人)	140,819
10年	・がん死亡撲滅モデル地区 = 間々区、岩崎区 ・いきいきウォーキング推進事業 = 篠岡・桃陵中学校区、 岩崎中学校区 ・食生活改善推進員養成講座開始 ・小牧市食生活推進協議会設立	・離乳食教室導入(年6回) ・母乳相談の導入(月4回) ・妊婦教室をパパママ教室に変更 ・こども事故予防コーナーの設置	・市外中学校通学者 対象の接種を夏休み にあわせ実施 ・ポリオ投与回数変更 年2回→3回	・4か月児・1歳6か月児・3歳児健診にポルトガル語、スペイン語の通訳配置 ・保健婦2人増員 ・保健婦1人10月より介護保険課へ 保健婦1人退職 看護婦1人退職 事務職1人退職 保健婦14人体制 10月より13人体制 (職員数26人)	141,911
11年	・がん死亡撲滅モデル地区 = 池之内区、小木区 ・いきいきウォーキング推進事業 = 小牧中学校区 小牧西中学校区 ・水中ウォーキング教室 温水プール (延233人参加)	・助産婦による妊産婦、 新生児、乳児訪問 導入(100件) ・育児専用電話「こまねっと」設置 ・育児相談を市内6か所の 児童館で開設 ・園児と親を対象に親子 歯みがき教室開設 ・小牧市独自の母子手帳 の作成・交付(6月)		・保健指導係が母子保健係と成人保健係に分かれる 保健婦1人退職 保健婦1人減員 事務職1人減員 保健婦13人体制 (職員数24人) ・保健センター改築 (1階事務所改築により、 消毒室を3階へ、玄関前スロ	143,050

年度	成 人 ・ 老 人 保 健	母 子 保 健	予 防 接 種	そ の 他	人口(人)
11年				ープ及び障害者用トイレを改築)	
12年	・がん死亡撲滅モデル地区 ＝小牧区、米野区 ・人間ドック200人増加 (総数 2,600 人) ・人間ドック受診料 6,000 円→7,050 円 ・人間ドックの名称を「すこやかドック」、基本健診を「さわやか健診」と変更 ・地域リハビリ「こめこめ12」開始(小牧南) ・寝たきり予防講座 (参加401人) ・地区巡回介護講座 (8回193人参加) ・健康ウォーキングマップこまき「いい汗かいていいもの発見」 (1,500 部発行)	・4か月児健診に合わせた母親歯科健診導入 ・助産婦による妊産婦、新生児、乳児訪問 (100件→150件) ・2歳3か月児育児相談(7月) ・育児支援を中心にした乳幼児健診体制を実施 ・日曜パパママ教室開始(年3回)	・個別接種化に伴い、会場数を変更 5→4会場	・2歳3か月児歯科健診 ポルトガル語、スペイン語の通訳配置 (職員数24人)	144,382
13年	・がん死亡撲滅モデル地区 ＝舟津区、久保一色区 ・人間ドック100人増加 (総数 2,700 人)	・母子健康手帳交付時相談を開始 ・助産婦による妊産婦、新生児、乳児訪問 (150件→200件) ・にこにこむし歯予防教室(6回) ・親子で楽しむ料理教室、保健連絡員、母子に対する取組み開始 ・4か月児健診1日目に保育ボランティア「バオバブの木」参加 ・保健連絡員「親子料理研究会」発足	・65歳以上を対象としたインフルエンザ予防接種が始まる	・パソコンによる保健総合システムを導入 (職員数24人)	146,225
14年	・人間ドック150人増加 (総数 2,850 人) ・すこやかドック・さわやか健診に併せて肝炎検診 ・がん死亡撲滅モデル地区 ＝池之内・林・大山野口区、下小針区	・保健連絡員とOBによる赤ちゃんの全戸訪問開始(10月) ・一般公募による保育ボランティア活動開始 ・第2次母子保健計画作成(11月から推進) ・市内モデル校によるフッ化物洗口開始(小牧原小学校・北里小学校)		・保健師1人退職 (職員数23人)	147,055
15年	・人間ドック550人増加 (総数 3,400 人) ・人間ドック受診料 7,050 円→9,000 円 ・がん死亡撲滅モデル地区 ＝北外山県住区、小牧原区	・母子健康手帳を親子健康手帳として交付 ・外国人向け母子健康手帳の交付 ・パパママ教室3回コースの2・3回目を日曜日開催 ・4か月児健診(2日目)に図書館主催に	・小・中学校でのツベルクリン・BCG接種の中止 ・H15年9月風しん予防接種経過措置終了	・保健師3名3月退職 (職員数23人)	148,387

年度	成 人 ・ 老 人 保 健	母 子 保 健	予 防 接 種	そ の 他	人口(人)
15年	・地域リハビリ「健康の集い」(野口第5)「ピーチの会」(桃ヶ丘)開始 ・転ばぬ先の転倒予防教室開始 ・家族の健康を考える食生活講座開始 ・介護者を支える会「ささの会」発足	・よるブックスタート事業が8月より開始			
16年	・がん死亡撲滅モデル地区 ＝入鹿出新田区、南岩崎台区 ・保健師市民健康相談 9時～16時→9時～12時 ・脳いきいき教室開始 ・生活習慣病予防教室「運動はじめて体験教室」 参加者106人 ・健康こまきいきいきプラン作成 ・ウォーキングマップ改訂	・パパママ教室を3回コースから1回に変更 ・日曜パパママ教室を年3回開催 ・運動発達相談開始 ・おひさま教室開始 ・生と性に関するカリキュラム「親・地域版」完成		・休日急病診療所移転 ・診療科目に外科・歯科を増設 ・事務職1人12月退職 ・事務職1人3月退職 (職員数22人)	149,208
17年	・がん死亡撲滅モデル地区 ＝上末・下末・高根区、多気上・多気下区 ・住民健康診断が9日間から2日間へ ・胸部レントゲン撮影が65歳以上の方が対象となる(結核検診) ・人間ドック400人増加 (総数 3,800 人) ・さわやか健診オプションとして胸部 X 線検診開始 ・さわやか健診・すこやかドックのオプションとして前立腺がん検診開始(対象50歳以上) ・体しなやか膝腰スッキリ教室開始 ・健康日本21こまき計画「健康 こまきいきいきプラン」策定 ・保健連絡員活動20周年記念事業 ・05健康・福祉フェスティバル in こまき(健康まつり、福祉展、介護展、歯ピカピック4催事の合同展としてパークアリーナにて開催)	・前期離乳食教室・ごつくん教室開始 ・育児相談月4回から月2回へ ・4か月児健診を2日コース→1日コースへ変更 ・4か月児健診未受診児への対応を個人通知から電話・訪問へ変更	・ツベルクリン反応検査の中止 ・ダイレクトにBCG接種対象が生後6か月未満に変更 ・H17年5月30日より日本脳炎の接種勧奨の見合わせ ・H17年7月29日より日本脳炎第3期廃止 幼児期2種混合が定期外となる ・麻疹予防接種と風しん予防接種の単独ワクチンが3月末日で終了となる為接種勧奨	・栄養士1人3月退職 (職員数24人)	150,569

年度	成人・老人保健	母子保健	予防接種	その他	人口(人)
18年	・H18年度より、がん死亡撲滅モデル地区は小学校区で実施＝小牧南小学校 小牧小学校 ・住民健康診断2日間実施 ・乳がん、子宮がん検診受診が2年に1回に変更 ・介護保険・地域支援事業(介護予防事業)担当 ・06健康・福祉フェスティバル in こまき(健康まつり、福祉展、介護展、歯ピカピック4催事合同展) ・傾聴ボランティア「そよかぜ」発足 ・「牧連体操クラブ」発足	・生と性に関するカリキュラム「小学校・中学校版」完成 ・親子健康手帳改正(生と性に関する項目、特に自己肯定感の大切さを意識して加筆) ・マタニティキーホルダー配布(1月) ・第2次母子保健計画中間見直し	・麻しん風しん混合予防接種開始 対象が 第1期 1歳～2歳未満 第2期 小学校入学前の1年間(年長児)に変更 ・児童の集団接種が中止となり個別接種へ変更(2種混合、日本脳炎)	・事務職1人3月退職 (職員数23人)	151,288
19年	・がん死亡撲滅モデル地区＝三ツ淵小学校 一色小学校 ・保健連絡員設置要綱改正(対象が「市内在住の主婦の方」から「20歳以上の市内在住の方」へ変更) ・「血液さらさら」をモデル地区及び6地区で実施 ・おくち元気はつらつ教室開始 ・メンタルヘルスセミナー「山口律子講演会」H20年2月29日(202名)	・自分を大切にすることが出来る「自己肯定感獲得DVD-みんなちがってみんないい」を制作し、H20年1月より、乳幼児健診や希望者に配布、あわせて健康教育を行う ・発達障害をもつ親子を支援する「成長記録」の試作 ・不妊検査及び治療費助成開始 ・妊婦健康診査公費負担 2回→5回 ・8020歯っぴースマイル! 歯みがき教室開始	・結核予防法から感染症予防法に改正される	・栄養士1人増員 看護師1人減員 事務職1人増員 事務職1人3月退職 (職員数24人)	152,445
20年	・がん死亡撲滅モデル地区＝大城小学校 小木小学校 ・ヤング健診の開始 ・地域リハビリ「西コミふれあいの会」開始(西部地区) ・老人保健法から健康増進法に改正される ・さわやか健診・すこやかドック廃止 ・健康診査(生活保護受給者)開始 ・がん個別健診開始 ・肝炎ウイルス検診の対象者を節目検診から40歳の方に変更 ・ウォーキングマップの改訂 ・低栄養予防に関するリーフレット配布開始	・妊婦健診公費負担 5回→14回(H21.1.27以降) ・外国人ボランティアによる赤ちゃん訪問を試験的に開始 ・生と性に関するカリキュラム小学生中学生版を全校で開始 ・安心相談カードを中学2年生全員に配布 ・市立中学2年生全員に「生と性に関するアンケート」を実施 ・市内保育園における年長児を対象としたフッ化物洗口事業を開始	・麻しん風しん混合予防接種 第3期・第4期が5年間の経過措置で開始 対象 第3期：中学1年生に相当する年齢の間の1年間 第4期：高校3年生に相当する年齢の間の1年間	・事務職1人減員 (職員数23人)	153,495

年度	成人・老人保健	母子保健	予防接種	その他	人口(人)
21年	・がん死亡撲滅モデル地区 ＝米野小学校 小牧原小学校 ・地域リハビリ「なんなん21」開始(南部地区) ・女性特有のがん検診推進事業開始 対象: 子宮がん (20、25、30、35、40歳) 乳がん (40、45、50、55、60歳) 一定の年齢に達した女性に無料クーポン券と検診手帳配布 ・歯周病予防個別健診開始 (対象:35歳) ・健康日本21こまき計画「健康 こまき いきいきプラン」中間見直し ・健康福祉フェスティバル in こまき4催事→3催事(健康まつり、福祉展、介護展) 会場:パークアリーナから市民会館、公民館に変更	・4か月児健診と1歳6か月児健診にて子育て支援センターと連携 ・市立中学2年生とその保護者に「生と性に関するアンケート」を実施し、思春期の諸問題に対する方策を検討 ・親子健康手帳改正(朝食の大切さに関する内容を充実)	・肺炎球菌ワクチン予防接種費用一部助成開始 対象:75歳以上 ・新型インフルエンザワクチンの接種開始 ・新型インフルエンザワクチン接種に係る費用軽減事業開始	・(職員数23人)	153,581
22年	・がん死亡撲滅モデル地区 ＝村中小学校 味岡小学校 ・向井亜紀がん講演会 H23年1月9日(568名) ・地域自殺対象緊急強化事業「水谷修講演会」 H23年3月19日(783名) ・健康日本21こまき計画「健康 こまきいきいきプランコーナー」として小牧産業フェスタに参加	・市ホームページと携帯サイトに「思春期によくある質問 Q&A」と「小学生と中学生のための相談窓口」を掲載 ・妊婦健診公費負担内容(子宮がん検診、初回血液検査等)の充実 ・妊婦健診受診票に妊婦(成人)歯科健診受診票を挿入	・日本脳炎予防接種3歳になる子に接種勧奨開始 (H22.4.1～) ・インフルエンザ3価ワクチン接種(H22年10月1日～H23年3月31日) ・任意予防接種無料接種開始 (H23.1.1～) 子宮頸がん予防ワクチン ヒブワクチン 小児用肺炎球菌ワクチン	・所長補佐職母子保健係長兼務保健師1人増員(職員数23人)	153,371
23年	・がん死亡撲滅モデル地区 ＝光ヶ丘小学校 北里小学校 ・地域リハビリ終了 こめこめ12(米野小)健康の集い(野口第5) ・働く世代への大腸がん検診推進事業(集団)開始 対象:40、45、50、55、60歳の男女	・妊婦健診公費負担内容(成人T細胞白血病ウイルス検査、性器クラミジア検査)を追加 ・子育て支援機関連携会議を開催(ハローファミリーカードの導入) ・妊娠届出時アンケートの充実 ・小学1・2年生を対象に「いのちの学習」を実施(15校) ・市ホームページと携帯	・ヒブワクチン、小児用肺炎球菌ワクチン一時見合わせ (H23年3月5日～H23年3月31日) ・水痘(水ぼうそう)ワクチン予防接種、おたふくかぜワクチン予防接種費用助成開始 (H23.10.1～) ・日本脳炎特例措置開始 (H23.5.20～) (H7.6.1～H19.4.1生まれの者が20	・所長補佐職母子保健係長兼務保健師1人増員(職員数23人)	153,507

年度	成 人 ・ 老 人 保 健	母 子 保 健	予 防 接 種	そ の 他	人口(人)
23年	・健康日本21こまき計画関連事業 ・「いきいきおせっ会」発足 ・いきいき世代個別歯科健診事業開始 対象：40、50、60、70歳	サイトに掲載中の「思春期によくある質問Q & A」の内容を充実	歳になるまで)		
24年	・がん死亡撲滅モデル地区 ＝本庄小学校 篠岡小学校 ・働く世代への大腸がん検診推進事業（個別）開始 対象：40、45、50、55、60歳の男女 ・ウォーキングマップの改訂 ・知立市健康推進員視察と健康連絡員との交流会 ・第30回健康まつり（フェスティバル）をもって終了 各地区健康展で開催 ・職域対象歯周疾患対策普及啓発事業開始（商工会議所連携事業）	・妊娠期からの育児支援を目的に愛知県統一様式の妊娠届出書を採用 それに伴い、市独自の妊娠届出時アンケートを変更 ・平日パパママ教室（栄養・歯について）、日曜パパママ教室（育児について）で開催された内容を見直し、パパママ教室（育児・栄養・歯について）として、平日や日曜日に開催 ・親子で楽しむ料理を考える会活動終了 ・市立中学2年生に「生と性に関するアンケート」を毎年実施してきたが、今後5年毎の実施とする予定（H29年度実施予定） ・市ホームページと連携サイトに掲載中の「思春期によくある質問Q & A」に「いじめ」についての内容を追加	・生ポリオワクチンから不活化ポリオワクチンへ（H24.9.1～） ・4種混合ワクチン開始（H24.11.1～） ・尾張北部医療圏広域予防接種開始（H24.6.1～）	・所長補佐職成人係長兼務 保健師1人増員（職員数23人）	153,344
25年	・がん死亡撲滅モデル地区 ＝小牧南地区、桃ヶ丘小学校 ・地域リハビリ終了ピーチの会（桃ヶ丘地域） ・健康日本21こまき計画「健康こまきいきいきプラン」最終評価 ・「こころの相談窓口」パンフレット改訂 ・乳がん（超音波）検診の開始 対象：30～39歳 ・介護予防事業一次予防事業「筋力アップのためのトレーニングマシン講習会」「サヨナラ膝腰痛教室」「男性のための膝腰痛予防プログラム」開始 ・地域主体の健康まつり（展）の拡充 ・「糖尿病連携手帳」を活用した歯周病予	・低体重児の届出及び未熟児訪問が愛知県から権限移譲 ・健診の事後教室として、親子のかかわりを学ぶ「あそびの教室」を開始 ・小学2年生とその保護者を対象に「いのちの学習」を実施（16校） ・中学3年生に対し「素敵な大人になろう～性感染症の予防～」を実施（7校） ・園児対象う蝕対策普及啓発事業開始（学官連携事業） ・学童期歯科疾患対策モデル事業開始 ・楽育相談をH26年3月より、試験的に実施し、2名参加	・ヒブワクチン、小児用肺炎球菌ワクチン、子宮頸がん予防ワクチン定期接種化（H25.4.1～） ・BCG接種対象者生後1年に至るまでに変更（標準：生後5～8か月）（H25.4.1～） ・子宮頸がん予防ワクチンH25.6.14より積極的な勧奨の差し控え ・風しんワクチン予防接種費用助成事業開始（H25.7.1～） 日本脳炎特例措置生年月日の拡大（H7.6.1生→H7.4.2生）	・保健師1人増員 事務職1人減員	153,170

年度	成人・老人保健	母子保健	予防接種	その他	人口(人)
25年	防事業開始				
26年	・女性特有のがん検診推進事業(乳・子宮がん検診) ①<乳・子宮がんコールリコール> ・H26年度検診申込者で、H21～H24年度に無料クーポンを配布し、年度内の未使用者に対し本人の申し出により、再度無料クーポンを配布 ②<無料クーポン券の配布年齢を変更> ・乳がん検診：40歳のみ ・子宮がん検診：20歳のみ ・胃がん・大腸がん検診対象年齢を40歳以上から30歳以上に拡大 ・人間ドック事業を開始 - 対象：40歳以上の国民健康保険被保険者、後期高齢者医療被保険者、協会けんぽ被扶養者の方限定(年度内に40歳を迎える方も対象) ・がん検診自己負担額見直し 70歳以上0円→500円/各検診 69歳以下軽減 ・非課税世帯者に対し、「がん検診・人間ドック費用免除券」を保健センター窓口にて発行 ・がん死亡撲滅モデル地区 =小牧地区 - 陶小学校区 ・保健連絡員OB「つつじ会」(一人暮らし高齢者の食生活の研究と工夫)活動終了 ・壮年期対象の機能訓練教室終了 ・第2次健康日本21こまき計画「健康こまきいきいきプラン」策定	・乳児健診受診票の金額変更 (1回目・2回目 5,350円から、1回目 5,180円、2回目 5,990円へ) ・乳幼児健診(集団)の問診票を保護者が外国人の場合、あらかじめ母国語の問診票を郵送 ・にこにこむし歯予防教室をH25年度より、にこにこむし歯予防相談とし、児童館にて実施 ・安心相談カードを教育委員会の相談カードと一体化、市内中学1年生と高校1年生に配布 ・学校保健課題解決事業において小牧市生と性のカリキュラムの公開授業研究に取り組む	・水痘ワクチン定期接種化 (H26.10.1～) ・経過措置(H26年度のみ)生後36月～60月に至るまでの間の児を対象 ・成人用肺炎球菌ワクチン予防接種費用一部助成の対象者変更 75歳以上→70歳以上 ・成人用肺炎球菌ワクチン定期接種化 (H26.10.1～) ・経過措置(H26～30年度) - 当該年度65、70、75、80、85、90、95、100歳の者 ・H26年度は、H25年度末に100歳以上の者 ・愛知県広域予防接種開始 (H26.4.1～) (A類疾病のみ) ・日本脳炎(第2期) - 高校3年生に相当する学年の方で未接種に対し個別通知開始		153,303
27年	・がん死亡撲滅モデル地区 =巾下地区、味岡地区 ・こまき健康マイレージ事業開始 ・保健連絡員活動30周年記念事業	・H27年8月中旬より自己肯定感獲得動画を市のホームページでネット配信 ・DVDは乳幼児健診等で希望者に配布 ・高校にてモデル事業として生と性のカリキ	・日本脳炎(第1期)未接種(H13.4.2生～H19.4.1生)に対し個別通知 ・2種混合(第2期)発送時期変更 12歳誕生日→11歳の誕生日の翌月		153,680

年度	成 人 ・ 老 人 保 健	母 子 保 健	予 防 接 種	そ の 他	人口(人)
27年	・新たなステージに入っ たがん検診の総合支 援事業 (乳・子宮がん検診) 《乳・子宮がんコー ルリコール》 H25年度に無料ク ーポンを配布した方 で年度内に未使用 かつ過去5年間(H 22～H26年度)に 一度も保健センター の検診を受けたこと がない方に、無料ク ーポン券を個別通知	・ユラムを推進 ・「健康寿命をのぼそ うアワード」母子保健 分野(自治体部門) において優良賞受賞 「母子保健推進協議 会から発信する親子 の自己肯定感の醸 成＝『心豊かにいき いきと生きる力』を持 つ子どもの成長につ なげていくために＝」 ・H28.3.7より、市ホ ームページ上に「お子 さんの発育や発達に 不安を感じたら…」を 掲載 その中で自閉症スペ クトラム評価尺度「エ ムチャット」について、 活用したい人が活用 できるよう、情報提供 (外部リンク)を開始	・尾張北部医療圏の 広域接種(B類) H28.3.31で終了 ・インフルエンザワクチ ン3価→4価に 自己負担1,000円 →1,200円に変更		
28年	・こまき健康マイレージ 事業からこまき健康 いきいきポイントへ名 称変更 ・ウォーキングアプリ 「alko」を10月から 配信 ・がん死亡撲滅モデル 地区 ＝東部地区、北里 地区 ・介護予防事業一次 予防事業「男性のた めの膝腰痛予防プロ グラム」終了 ・胃がん(内視鏡検 査)検診を50歳以 上の方に対し2年に1 回、和暦の偶数・奇 数で区別し、偶数生 まれの方から検診を 開始 ・新たなステージに入っ たがん検診の総合支 援事業 《乳・子宮がんコー ルリコール》 H26年度に無料ク ーポンを配布した方 で年度内に未使用 かつ過去5年間(H 23～H27年度)に 一度も保健センター の検診を受けたこと がない方に、無料ク ーポン券を個別通知 ・人間ドック受診期間 を6月～翌年2月1 4日まで延長 ・こまきヘルシーメニ ュー事業をH29年2 月から開始	・市内の高校(3校) にて、生と性のカリキ ュラムを推進 ・赤ちゃん訪問におい て、外国人家庭へ積 極的に訪問実施 ・親子健康手帳の表 紙デザインを従来の 卵のデザインから市ブ ランドロゴマークをア レンジしたデザインへ 変更 それに伴い、卵や鳥を たとえにした文章表現 を変更 ・第1回母子手帳フォー ラム(東京)に参加 し、「親子健康手帳 における小牧市の思 い」を報告 ・愛知県公衆衛生研 究会にて、「1歳6か 月児健診後の言語 発達における伸びを 予測する因子－遊び の場を活用した健診 にて－」について研究 発表	・愛知県の広域予防 接種B類疾病開始 (H28.4.1～) ・3種混合ワクチン販 売中止 最終有効期限H28. 7.15で終了 ・B型肝炎定期接種 化(H28.10.1～) ・日本脳炎第2期 H19.4.2生～の勧 奨再開	・初動時における災 害時保健活動実 践マニュアル(保 健班活動マニユ アル)の作成	153,526

年度	成人・老人保健	母子保健	予防接種	その他	人口(人)
28年	・5大がん検診の要精検者に再通知を開始				
29年	・こまき健康いきいきポイント事業のポイント有効期限を2カ年に変更 ・壮年期保健事業出前講座に「正しいラジオ体操教室」を追加 ・介護予防事業一次予防事業に「いきいき元気塾」運動編を味岡市民センターでも実施 「カラダによく効くラジオ体操講習会」を追加 ・乳がん(マンモグラフィ)個別検診開始 ・がん撲滅モデル地区＝小牧南地区、小牧地区	・親子健康手帳について、愛知県医師会から愛知県保健医療局長あてに、母子健康手帳の県内統一に関する要望書が提出されたことを受けて、母子保健推進協議会で協議した結果、①B6サイズへの変更、②省令様式の遵守、③予防接種記録等に関するページの振り分けについて、H29年度印刷分の親子健康手帳について変更 ・国から、乳児ボツリヌス症の予防対策について、任意記載事項様式「乳幼児期の栄養」についての掲載を前提とした上での再周知の通知を受けて、小牧市独自の内容から任意記載事項様式に変更 ・不育治療等助成事業の開始 従来的一般不妊治療等助成事業に加え、不育治療等助成事業を開始 不育症についての検査及び治療を受けられたご夫婦に対し、保険適用外の医療費を助成 ・妊婦個別歯科健診の実施 ・妊産婦、新生児、乳児訪問の予算を380件から530件へ増加 ・小牧高等学校(全日制)において、生と性のカリキュラム＝小学校・中学校版の推進＝について、今後、市内の全高等学校を対象としたカリキュラムの推進を目的として、市内の全高等学校と共に公開授業研究を実施 ・第2回母子手帳フォーラムを小牧市で開催(H29年7月1日) (国際母子手帳委員会主催、小牧市後援) ・小牧市立中学2年	・特別な理由による定期予防接種の再接種費用の助成開始	・初動時における災害時保健活動実践マニュアル(保健班活動マニュアル)の改正 (妊産婦、乳幼児のいる家庭の平常時の備えについて啓発を追加) ・新型インフルエンザ特定接種について市民病院と協定を結ぶ	153,335

年度	成人・老人保健	母子保健	予防接種	その他	人口(人)
29年		生を対象に生と性に関するアンケートを実施			
30年	・青年期出前講座に「女性ホルモンとカラダのトリセツ講座」を追加 ・健康日本21重点施策の取り組みとして、「市民健康講座」を開催 ・小牧市自殺対策計画策定 ・骨粗しょう症検診受診料見直し ・老人福祉センターで実施している老人健康相談を48回から24回へ変更 ・10月～「筋力アップのためのトレーニングマシン講習会」を第1老人福祉センターで実施 ・フレイル予防のための教室「～笑いの泉～わっはっは講座」を老人福祉センターにて実施 ・がん死亡撲滅モデル地区 ＝ 巾下地区、味噌地区 ・乳がん(マンモグラフィ)検診 ①受診者への「乳房の構成」通知開始 ②無料クーポン未受診者に再通知を実施 ・協会けんぽ被扶養者向け集団特定検診と市の胃・大腸がん検診の同日開催	・それぞれに事例検討会や研修会が開催されているため、知恵の輪会を終了 ・H30年4月1日出産以降の産婦及び新生児を対象に、産婦健診2回/人(5,000円/回)、新生児聴覚検査1回/人(5,000円/回)の受診票を交付 ・9月～子育て世代包括支援センターにて、産後ケア事業実施 ・子育て応援アプリ「すくすくこまキッズ」配信開始 ・妊娠期サポートプランを作成・配布 ・12月～子育て世代包括支援センターにて、「利用者支援事業会議」を月1回開催	・成人用肺炎球菌ワクチン助成事業終了に伴い未接種者に対し接種勧奨を個別に通知	・助産師1名増員 ・9月子育て世代包括支援センター開設 (母子保健係長、保健師1名、助産師1名異動) ・所長補佐職、母子保健係長兼務 ・9月、子育て世代包括支援センター開設(ラピオビル内)母子保健型利用者支援事業の実施に伴い、親子健康手帳の交付、妊婦・産婦・乳児個別健診事業、妊婦個別歯科健診事業、低体重児の届出、妊産婦、新生児、乳児訪問、育児相談(市内児童館巡回育児相談、母乳相談含)を保健センター母子保健係より子育て世代包括支援センターへ移管	152,944
令和元年	・いきいき世代個別歯科健診事業の対象者拡充(5歳刻みにし、75歳を追加) ・ウォーキングアプリalkoが8月に秘書政策課から移管され3月まで所管 ・乳がん、子宮がん検診無料クーポンの未受診者の再通知を開始 ・第2次健康こまきいききプランの中間評価及び後期計画の策定 ・ウォーキングマップ改訂 ・がん死亡撲滅モデル地区 ＝ 東部地区、北里	・歯っぴー子育て講座を開始 ・事後検診終了 ・股関節脱臼チェックリストを4か月児健診及び産婦、新生児、乳児訪問で導入 ・子育て世代包括支援センターにて「アンバーサリー事業」を開始 ・1歳サポートプランを作成・配布	・4月1日からロタウイルスワクチン予防接種費用助成事業を開始(市独自) ・成人用肺炎球菌ワクチンの経過措置の延長：R元年～5年度(国の施策) 当該年度65、70、75、80、85、90、95、100歳の者 ・大人の男性風しん対策事業(国の施策)対象者に抗体検査及び接種の無料クーポンを送付	・所長補佐職成人保健係長兼務 ・4月1日から骨髄提供者等助成事業を開始 ・新型コロナウイルス感染拡大防止のため、成人保健事業及び母子保健事業の一部事業を中止(3月) ・愛知県災害時保健活動体制整備強化事業により「災害時地域まるわかりシート」を春日井保健所と共に作成 ・統括保健師の開始	152,816

年度	成人・老人保健	母子保健	予防接種	その他	人口(人)
令和元年	地区				
2年	・小牧市歯と口腔の健康づくり推進条例の公布 ・成人歯科健診終了 ・健康ポイント事業（ウォーキングアプリalko含む）小牧市健康づくり推進協議会を健康生きがい推進課へ事務移管する	・妊娠期支援プランを作成・配布 ・多胎妊婦向けサポートプラン作成・配布 ・4か月児、1歳6か月児、3歳児健診でサポートプランを作成・配布 ・歯っぴー子育て講座終了 ・8月～子育て世代包括支援センターにて「オンライン育児相談」を開始	・ロタウイルスワクチン予防接種費用助成事業を終了 ・ロタウイルスワクチン定期接種化（R2.10.1～）	・4月1日健康生きがい推進課が本庁に新設 ・健康生きがい推進課に保健師1名配置 ・新型コロナウイルス感染症による緊急事態宣言発令のため一部事業を中止（4月・5月） ・1月18日新型コロナウイルスワクチン接種推進室が本庁舎に新設・新型コロナウイルスワクチン接種推進室に、看護師1名配置 ・所長、所長補佐、予防検診係に兼務発令	152,842
3年	・いきいき世代個別歯科健診事業の対象者の拡充（40歳から75歳の5歳刻みにし、80歳を追加） ・歯周病予防個別健診の対象者の拡充（20歳、25歳、30歳を追加し、20歳から35歳の5歳刻みで実施） ・まちかど運動教室開始 ・住友理工(株)フレイルチェック測定会を東部地区限定で開始 ・がん死亡撲滅モデル地区 ＝小牧南地区、小牧地区	・7月～3歳児健診の視力検査でスポットビジョンスクリーナーを導入 ・多胎妊婦に妊婦健診受診票を5回分追加交付 ・「健康寿命をのばそうアワード」母子保健分野（自治体部門）において優良賞受賞 ・「子育て世代包括支援センターと児童館が連携した切れ目ない支援体制づくり～1st アニバーサリー事業をとおして～」 ・9月～流産・死産の相談窓口開設（子育て世代包括支援センター内）	・BCGの集団接種をR3年度末で終了 ・R元年度送付の大人の男性の風しん対策事業（国の施策）対象者のうち、未受診者等に抗体検査及び接種の無料クーポンを再送付 ・新型コロナウイルスワクチン予防接種の開始：接種の期間、R4年2月28日まで以降、接種期間、対象年齢が順次拡大12歳以上、初回接種、第1期追加接種実施 ・小児（5～11歳）初回接種実施	・子育て世代包括支援センターに保健師1名、保健センターに保健師3名増員	151,920
4年	・働く世代への大腸がん検診推進事業の対象を40歳のみに変更 ・まちかど運動教室を「健康づくり編」「フレイル予防編」に分けて実施開始 ・住友理工(株)フレイルチェック測定会を全域で開始 ・がん死亡撲滅モデル地区 ＝巾下地区、味岡地区 ・口腔がん検診実施（歯科医師会補助事業、2回/年）	・中学2年生を対象にピロリ菌検査事業を開始（市独自事業・市内中学校にて配布・回収） ・こまき妊娠SOSの開設（子育て世代包括支援センター内） ・産後ケア事業のメニュー（アウトリーチ）追加 ・産後ケア事業で償還払いを実施 ・こまき祖父母手帳を作成・配布 ・6月～こまき巡回バス「こまくる」のマタニティフリーパスを配布 ・R5年2月～小牧市すくすく子育て応援事業/小牧市出産・	・HPV（子宮頸がん予防）ワクチンの接種勧奨の再開 ・R4年4月～R7年3月の3年間、H25年度からR3年度の間、HPVワクチン定期接種の対象であった方へのキャッチアップ接種を開始 ・小牧市子宮頸がんワクチン任意接種補助金の開始（～R6年度末まで） ・小牧市内の医療機関でBCGの個別接種を開始 ・大人の男性の風しん対策事業（国の施策）がR6年度末まで延長対象者に抗体検査及	・7月1日よりがん患者医療用補整具（ウィッグ・乳房補整具等）購入費助成事業を開始：実施要領施行は4月1日～ ・小牧市役所が健康経営優良法人2023に認定 ・新型コロナウイルスワクチン接種推進室に保健師1名配置 ・新型コロナウイルスワクチン接種会場として保健センターで小児接種を実施 ・保健センターに保健師2名、介護保	150,684

年度	成人・老人保健	母子保健	予防接種	その他	人口(人)
4年		- 子育て応援ギフト支給事業(国の出産子育て応援給付金)並びに伴走型相談支援を開始 - 市民活動団体「摂食障害よりみち」との協働事業で摂食障害予防啓発協働事業を実施 - 保健センターでのパママ教室を子育て世代包括支援センターの「あつまれ!!たまごファミリー」に統合し、子育て世代包括支援センターで実施	- び接種の無料クーポンを送付 - 新型コロナウイルスワクチン予防接種の実施:12歳以上、第2期追加接種、R4年秋開始接種の実施 - 小児(5~11歳)追加接種実施 - 乳幼児(6か月~4歳)初回接種実施	除課に1名増員	
5年	- 小牧市健康づくり推進プラン策定(第3次計画) - がん死亡撲滅モデル地区 = 東部地区、北里地区 - 知って得するフレイル予防講座を「知って得する若返り講座」「アクティブシニア応援セミナー」「健康づくり応援隊★認定講座」に変更 - 口腔がん検診拡充(歯科医師会補助事業、実施回数を1回拡充し、年3回実施) - 協会けんぽ被扶養者向け集団特定健診と市の胃・大腸がん検診、子宮・乳がん検診の同日開催	- 親子健康手帳について任意様式を18歳まで拡大し内容を改訂 - 幼年期・学童期(中学年)性教育を中央図書館で夏休みに実施 5月から伴走型支援として妊娠8か月時アンケートを開始 7月から低所得の妊婦に対する初回産科受診料の助成を開始 - 乳幼児身体発育調査を実施	4種混合ワクチンの定期接種対象月齢が生後3月から2月へ変更 - HPVワクチン定期接種の対象ワクチンに9価ワクチンが追加 50歳以上の小牧市民に対し带状疱疹ワクチンの予防接種費用助成開始 - 新型コロナウイルスワクチン特例臨時接種を年度末で終了	6月1日より若年がん患者在宅療養助成事業を開始:実施要領施行は4月1日~ - 骨髄提供者等助成事業を拡充 - 市の独自の助成金として20万円の助成拡充 - 歯科衛生士を1名増員 - 精神保健福祉士1名配置 - 子育て世代包括支援センター、保健センター、健康生きがい推進課に保健師を各1名増員 - 乳幼児健診にベトナム語通訳を配置 - 医療救護所に関する医師会との協定内容を変更 1月に災害時看護職ボランティア登録制度を制定	150,188
6年	- 集団乳がん・子宮がん検診に託児付きの日を設定開始(半日2回) - いきいき世代個別歯科健診の健診項目を拡充し、オーラルフレイルに係る項目を追加して実施 - 口腔がん検診拡充(歯科医師会補助事業、実施回数を1回拡充し、年4回実施) - がん対策(がん検診・助成金・がん患者支援センター)チラシを作成 - 保健連絡員や民生委員へ向けてがん教育(情報発信)を実施	- 中学生等に向けたがん教育の出前講座を実施 2月から親子健康手帳交付のWeb予約を開始 - 市内の幼稚園・保育園にて生と性のカリキュラム(幼年期)を実施 - すくすく広場3月末に終了 - 助産師による新生児・乳児訪問と統合し、保健連絡員・保健連絡員OBによる赤ちゃん訪問3月末終了 「発達障がいをもつ子どもとその親への	5種混合ワクチン定期接種化(R6.4.1~) - 新型コロナウイルスワクチンがB類の定期接種として開始(R6.10.1~) - 小児用肺炎球菌ワクチンの変更(R6.4.1よりPCV15の使用開始、R6.10.1よりPCV20の使用開始、PCV13が定期予防接種から外れる - 小牧市子宮頸がんワクチン任意接種補助を年度末で終了 - 大人の男性の風しん対策事業をR7.2.28で終了	- 新型コロナウイルスワクチン接種推進室が廃止され、統合 3名増員 - 予防検診係長2名配置 - 子育て世代包括支援センター、保健センターに保健師を各2名増員 - 子育て世代包括支援センターに助産師1名増員 - 事務所狭隘解消のため、栄養実習室を事務所へ改修	149,206

年度	成 人 ・ 老 人 保 健	母 子 保 健	予 防 接 種	そ の 他	人口(人)
6年	・第2次小牧市自殺対策計画を策定 ・歯と口腔の健康づくり専門部会設立 ・健康日本21(第三次)にあらずに「女性の健康」が追加されたことにあわせ、女性の健康週間に、30～40代女性を対象とした骨密度測定を実施	・支援のあり方」部会を終了 ・育児専門電話「こまねっと」終了 ・成長記録の様式検討 ・にこにこむし歯予防相談から予防教室へ			
7年	・糖尿病対策専門部会の設立 ・女性の健康づくり支援事業を拡充。若年層を対象とした骨密度測定の実施回数を増加 ・10月のピンクリボン月間にあわせ、市内企業と連携しプレストアウェアネス等について周知啓発 ・小牧市保健連絡員設置要綱を改正	・成長記録新様式変更 ・楽育相談3月末に終了 ・おひさまサロン3月末に終了 ・不妊治療等助成事業(生殖補助医療)開始 ・5歳児健康診査開始 ・中学生ピロリ菌検査事業の回収方法を変更(保健センターや各市民センター等にて回収) ・児童館巡回育児相談を3月末に終了 ・すくすく子育て応援事業の経済的支援が、国の出産・子育て応援交付金に代わり妊婦のための支援給付で対応 ・小学校フッ化物洗口実施校が3校に拡大(小牧原小学校、三ツ淵小学校、米野小学校)	・带状疱疹ワクチン定期接種化 経過措置(R7～11年度)当該年度65、70、75、80、85、90、95、100歳の者※100歳以上の方については、R7年度に限り全員対象 ・H9年度～H20年度生まれの女性で、R4.4.1～R7.3.31までの間にHPVワクチンを1回以上受けた方は、R8.3.31までの間、残りの接種を公費で受けることができる特例的な経過措置を実施 ・MRワクチンの出荷停止に伴う供給不足で接種できない状況があり、R7～8年度に経過措置実施 ・4種混合ワクチン販売中止	・保健センターに保健師を3名増員、臨床心理士を1名配置 ・休日急病診療所の外科診療を縮小	148,674

※人口は各年度4月1日現在の人数

第4 衛 生 統 計

第 4 衛 生 統 計

1 人口動態統計年次推移

年次	人口	出生				死亡				自然増減		乳児死亡（再掲）				新生児死亡（再掲）		死産				周産期死亡（再掲）				婚姻		離婚	
		総数	男	女	率	総数	男	女	率	実数	率	総数	男	女	率	総数	率	総数	自然	人工	率	総数	妊産婦立産以後の死産	早期新生児死亡	率	実数	率	実数	率
令和2年	148,831	901	487	414	6.1	1,267	700	567	8.5	△ 366	△ 2.5	2	1	1	2.2	1	1.1	19	12	7	20.7	4	3	1	4.4	627	4.2	228	1.5
令和3年	147,713	898	430	468	6.1	1,415	781	634	9.6	△ 517	△ 3.5	1	1	0	1.1	0	0.0	19	10	9	20.7	1	1	0	1.1	599	4.1	233	1.6
令和4年	147,174	878	467	411	6.0	1,491	836	655	10.1	△ 613	△ 4.2	2	2	0	2.3	2	2.3	15	10	5	16.8	2	2	0	2.3	564	3.8	207	1.4
令和5年	146,352	798	415	383	5.5	1,531	848	683	10.5	△ 733	△ 5.0	0	0	0	0.0	0	0.0	10	4	6	12.4	2	2	0	2.5	553	3.8	207	1.4
令和6年	145,501	793	412	381	5.5	1,516	849	667	10.4	△ 723	△ 5.0	5	3	2	6.3	4	5.0	26	10	16	31.7	4	1	3	5.0	536	3.7	219	1.5
愛知県 (令和6年)	7,160,000	45,514	23,293	22,221	6.4	82,618	43,856	38,762	11.5	△ 37,104	△ 5.2	90	45	45	2.0	49	1.1	933	447	486	20.1	147	111	36	3.2	32,250	4.5	11,109	1.6
全国 (令和6年)	120,295,592	686,173	351,451	334,722	5.7	1,605,378	819,709	785,669	13.3	△ 919,205	△ 7.6	1,266	647	619	1.8	637	0.9	15,323	6,849	8,474	21.8	2,285	1,800	485	3.3	485,092	4.0	185,904	1.5

資料：愛知県保健医療局健康医療部医療計画課「令和6年（2024）愛知県衛生年報」

資料：厚生労働省「令和6年（2024）人口動態統計」

（注1） 数値は確定数である。

（注2） 率算出の計算式

出生・死亡・自然増減・婚姻・離婚率＝ $\frac{\text{出生} \cdot \text{死亡} \cdot \text{自然増減} \cdot \text{婚姻} \cdot \text{離婚数}}{\text{人 口}} \times 1,000$

乳児死亡・新生児死亡率＝ $\frac{\text{乳児死亡} \cdot \text{新生児死亡数}}{\text{出生数}} \times 1,000$

死産率＝ $\frac{\text{死産数}}{\text{出産（出生＋死産）数}} \times 1,000$

周産期死亡率＝ $\frac{\text{周産期死亡数}}{\text{出生数} + \text{妊娠満22週以後の死産数}} \times 1,000$

2 主要死因別死亡数・率年次推移

年次	総数	結核		悪性新生物		高血圧性疾患		心疾患		脳血管疾患		肺炎		肝疾患		腎不全		老衰		不慮の事故		自殺		その他	
		実数	率	実数	率	実数	率	実数	率	実数	率	実数	率	実数	率	実数	率	実数	率	実数	率	実数	率	実数	率
令和2年	1,267	1	0.1	365	28.8	2	0.2	107	8.4	101	8.0	66	5.2	12	0.9	24	1.9	145	11.4	40	3.2	16	1.3	388	30.6
令和3年	1,415	0	0.0	385	27.2	5	0.4	150	10.6	97	6.9	68	4.8	14	1.0	20	1.4	176	12.4	39	2.8	24	1.7	437	30.9
令和4年	1,491	2	0.1	380	25.5	0	0.0	146	9.8	106	7.1	59	4.0	10	0.7	20	1.3	201	13.5	37	2.5	24	1.6	506	33.9
令和5年	1,531	2	0.1	415	27.1	6	0.4	125	8.2	113	7.4	71	4.6	19	1.2	30	2.0	234	15.3	33	2.2	18	1.2	465	30.3
令和6年	1,516	2	0.1	378	24.9	4	0.3	131	8.6	101	6.7	71	4.7	19	1.3	20	1.3	259	17.1	38	2.5	16	1.1	477	31.5
愛知県 (令和6年)	82,618	100	0.1	20,516	24.8	298	0.4	8,588	10.4	4,922	6.0	3,487	4.2	891	1.1	1,329	1.6	12,059	14.6	2,345	2.8	1,121	1.4	26,962	32.6
全国 (令和6年)	1,605,378	1,462	0.1	384,111	23.9	11,799	0.7	226,388	14.1	102,821	6.4	80,176	5.0	18,858	1.2	29,665	1.8	206,887	12.9	45,743	2.8	19,608	1.2	477,860	29.8

資料：令和6年(2024)愛知県衛生年報

資料：令和6年(2024)人口動態統計

（注1） 数値は確定数である。

第5 成人保健事業

第5 成人保健事業

高齢化率の上昇とともに、がん、心疾患、脳血管疾患、糖尿病などの生活習慣病が増加し、認知症や要介護状態となる人々の増加は、深刻な問題になっている。

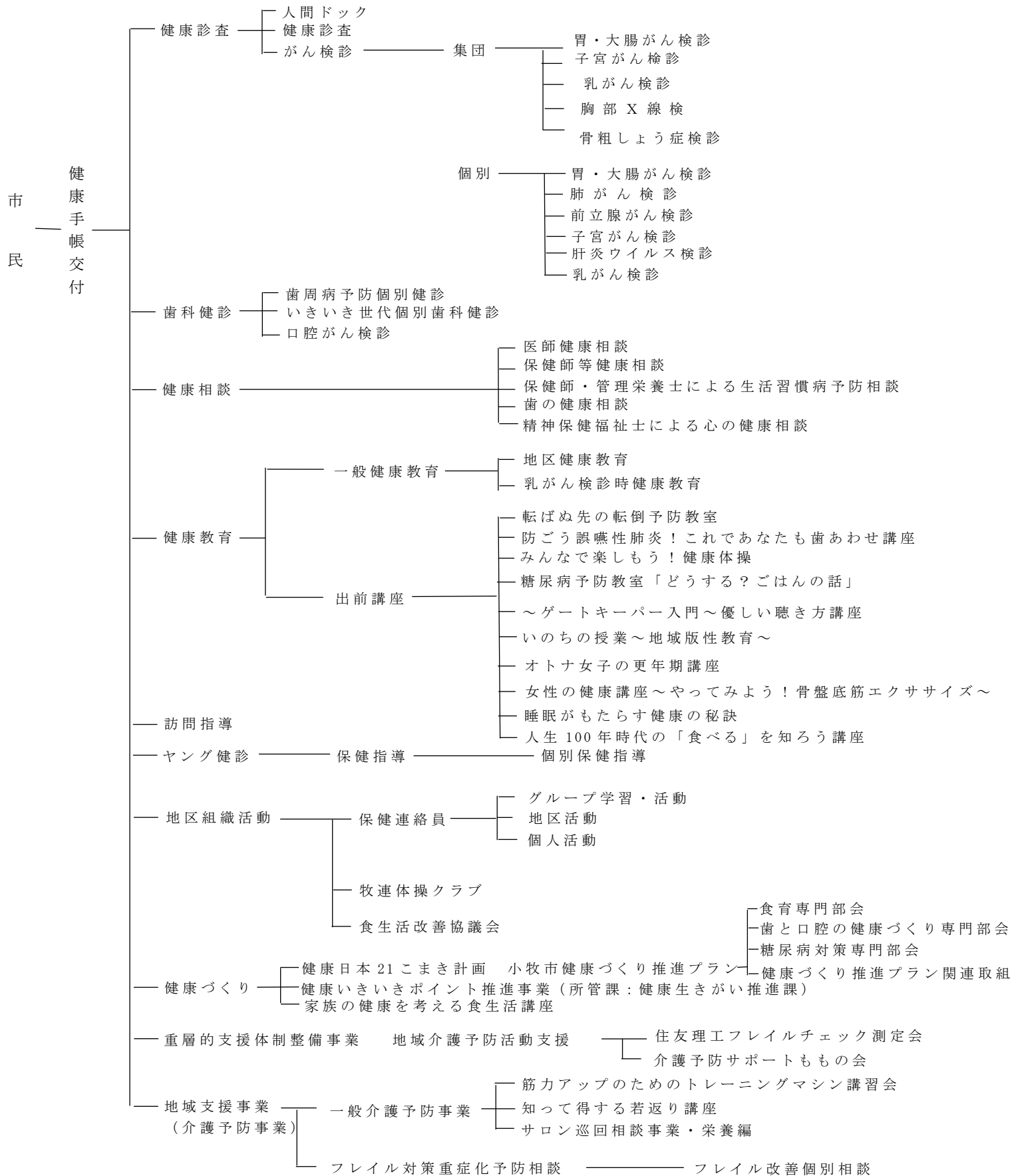
小牧市では生活習慣病予防や介護予防のために各種保健事業を進める中で、必要な方へ効果的に事業の利用促進を図ることを目的として、保健センターと地域の方々とのパイプ役として保健連絡員制度を設けている。

また、すべての市民が健康で長生きできる小牧市を目指して、市民や関係機関等が健康づくりに取り組めるよう、平成26年度に「第2次健康こまきいきいきプラン」を策定。

歯科保健に関しては、歯と口腔の健康が全身の健康の保持増進に重要な役割を果たし、健康寿命の延伸に欠かせないことから、「小牧市歯と口腔の健康づくり推進条例」を令和3年4月1日に施行し、歯・口腔の健康づくりに関する市民の取組みを支援している。

- (1) 各種がん検診、健康診査、骨粗しょう症検診、各種歯科健診、ヤング健診等により市民の健康上の課題を把握する。
- (2) 把握された健康上の課題を受診者に連絡、指導するとともに生活習慣病予防相談においてコントロールされた日常生活を身につけ、症状の改善を図るよう支援する。
- (3) 健康上の悩みに対応するため、定例健康相談日を設け、医師・保健師・看護師・管理栄養士・歯科衛生士が相談に応じる。
- (4) 一人で外出しづらくなり、閉じこもりがちな人達が集まれる場を地域の人達と共に作り、閉じこもりを防ぎ、介護予防に努める。
- (5) 小牧市健康づくり推進プランにおいて、市民一人ひとりが健康づくりに取り組むことができるように支援するとともに、社会で支える健康づくりに取り組み、計画の推進を図る。
- (6) 仕事や子育てに忙しい市民をターゲットにし、健康づくりへの関心を高め、取り組める環境をつくることで、健康な市民を増やすことを目的に健康いきいきポイント事業を平成27年度から実施している。
- (7) 高齢者の保健事業と介護予防の一体的な取組を関係部署、関係機関と連携し、実施する。

1 成人保健事業一覧



2 健康手帳交付

(1) 目 的

健康診査、各種がん検診、口腔内の状況に関する健康観察などを記録し健康管理に役立てる。

(2) 交付数（再交付及び更新を含む）

保健センター（40 歳以上）15 冊

3 人間ドック（国民健康保険被保険者、後期高齢者医療制度加入者、協会けんぽ被扶養者）

人間ドックは、年度内に 40 歳以上になる上記のいずれかに該当する方を対象にして市内の医療機関で実施。

(1) 検査項目

問診、理学的所見、身体計測、血圧、血液一般、血中脂質、腎・肝機能、代謝系、電解質、がん（胃・大腸・肺）検診
心電図、眼底検査については、医師の判断に基づいて実施する。

(2) 結 果

対象者	受診者数(人)
国民健康保険被保険者 後期高齢者医療制度加入者	5,474
生活保護受給者	36
協会けんぽ被扶養者	153

4 健康診査（生活保護受給者）

健康診査は、40 歳以上の生活保護受給者を対象にして、市内の医療機関で実施。

(1) 検査項目

問診、理学的所見、身体計測、血圧、血中脂質検査、肝機能検査、心電図、眼底検査については、医師の判断に基づいて実施する。

(2) 結 果 対象者 998 人 受診率 13.1%

検査結果	人数(人)	割合(%)
異常なし	3	2.3
要観察	45	34.4
要指導	44	33.6
要医療	13	9.9
治療中	26	19.8
計	131	100.0

5 肝炎ウイルス検診

C型肝炎緊急総合対策の一環として、市内指定医療機関で実施。

(1) 対 象

昭和 60 年 4 月 1 日～昭和 61 年 3 月 31 日生まれの方

(2) 検診結果

C 型 (人)

	男	女	計
感染している可能性が高い	0	0	0
感染していない可能性が高い	2	11	13

B 型 (人)

	男	女	計
陽 性	0	0	0
陰 性	2	11	13

6 がん検診

平成 20 年度から特定健康診査の開始に伴い、個別の胃がん・大腸がん検診を開始。

※精密検査受診結果に関しては令和 8 年 5 月 31 日までに保健センターへ精密検査結果報告書の提出があったものを集計

がん（個別）検診

(人)

検診名	受診者数	初回受診者数	一次検診結果					要精検率	精密検査結果		
			異常なし	要観察	要精密検査	その他の疾患	判定不能		異常なし	がん	その他
胃がん検診 (X線)	4,289	753	3,069	1,036	182	-	2	4.2%	26	4	66
大腸がん検診	9,356	1,473	8,367	-	955	-	34	10.2%	163	19	160
子宮頸がん検診	1,528	850	1,485	-	42	1	0	2.7%	13	1	28
乳がん検診 (マンモグラフィ)	882	431	815	16	51	-	-	5.8%	25	3	21
胸部X線検診	10,832	1,688	7,653	2,764	262	152	1	2.4%	109	3	66
前立腺がん検診	4,188	693	3,693	240	255	-	-	6.1%	33	17	59

検診名	受診者数	初回受診者数	一次検診結果					要精検率	要精検者数		精密検査結果		
			胃がんなし	胃がん疑い	胃がん	胃がん以外の悪性病変	判定不能		生検数	要再検査数	異常なし	胃がんなし	胃がん
胃がん検診 (内視鏡)	1,885	522	1,871	7	5	2	-	8.4	153	6	5	143	7

人間ドックとして実施したがん検診（胃がん・大腸がん・肺がん検診）の実績もそれぞれの検診（個別）に加算して計上

※肺がん検診＝胸部 X 線検診

※－：該当なし

がん（集団）検診

(人)

検診名	回数	受診者数	初回受診者数	一次検診結果				要精検率	要精密検査結果		
				異常なし	要観察	要精密検査	その他の疾患		異常なし	がん	その他
胃がん検診 (X線)	11	284	120	154	121	9	-	3.2%	0	0	8
大腸がん検診	15	575	232	539	-	36	-	6.3%	10	2	12
乳がん検診 (マンモグラフィ)	12	799	341	770	1	28	-	3.5%	9	2	12
乳がん検診 (超音波)	4	115	64	83	29	3	-	2.6%	1	0	2
子宮頸がん検診	6	341	164	338	-	0	3	0.0%	0	0	0
胸部X線検診	4	110	16	86	18	0	6	0.0%	0	0	0
肺がん検診 (喀痰)	-	2	1	2	-	0	-	0.0%	-	-	-

※－：該当なし

※胸部 X 線検診は結核検診を兼ねる

※令和 5 年度より、同日開催でも会場が異なる場合は回数を数えることとする

女性特有のがん検診推進事業（平成 21 年度から実施）

(1) 無料クーポン券を配布（乳がん検診（40 歳）、子宮頸がん検診（20 歳））

特定の年齢に達した女性に対し、無料クーポン券とリーフレット（令和元年度より検診手帳をリーフレットに変更）を配布。女性特有のがん検診を無料で受診できる機会を設け、受診促進と早期発見、正しい健康知識の普及を目的とする。

検診名	対象者数 (人)	検診手段	クーポン利用者数 (人)	利用率	がん (人)
乳がん検診	823	集団	67	21.5%	0
		個別	110		0
子宮頸がん検診	781	集団	1	10.5%	0
		個別	81		0

(2) 乳がん・子宮頸がん検診コールリコール

令和 5 年度に無料クーポン券を配布した方で、当該年度内に未使用かつ過去 5 年間（令和 2 年～令和 6 年度）に一度も市が実施する検診を受診していない方に無料クーポン券を再度発行し無料で検診を受診できるコールリコール事業を実施。

検診名	対象者数 (人)	検診手段	クーポン利用者数 (人)	利用率	がん (人)
乳がん検診	660	集団	12	6.4%	0
		個別	30		0
子宮頸がん検診	757	集団	0	4.5%	0
		個別	34		0

働く世代への大腸がん検診推進事業（40 歳）（令和 4 年度より対象を 40 歳のみへと変更）

特定の年齢に達した男女に対し、がん検診の受診促進を図るとともに、がんの早期発見と正しい健康知識の普及、啓発を進め、市民の健康の保持増進を目的とする。

検診名	対象者数 (人)	検診手段	クーポン利用者数 (人)	利用率	がん (人)
大腸がん検診	1,767	集団	42	6.0%	0
		個別	64		0

がん検診受診者の年齢構成

がん検診（乳がん・子宮がん検診を除く）実施期間：6月1日～2月14日

乳がん・子宮がん検診実施期間：6月1日～3月31日

個別（男）

（人）

検診名	受診者数	～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上
胃がん検診（X線）	2,215	－	3	82	111	332	1,687
胃がん検診（内視鏡）	915	－	－	－	60	145	710
大腸がん検診	4,413	－	7	136	237	644	3,389
胸部X線検診	4,969	－	2	129	252	701	3,885
前立腺がん検診	4,188	－	－	－	251	608	3,329

個別（女）

（人）

検診名	受診者数	～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上
胃がん検診（X線）	2,074	－	3	134	156	404	1,377
胃がん検診（内視鏡）	970	－	－	－	95	222	653
大腸がん検診	4,943	－	10	252	389	946	3,346
子宮頸がん検診	1,528	237	200	383	313	214	181
乳がん検診（マンモグラフィ）	882	－	－	332	235	152	163
胸部X線検診	5,863	－	4	217	374	978	4,290

集団（男）

（人）

検診名	受診者数	～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上
胃がん検診（X線）	65	－	8	10	8	11	28
大腸がん検診	112	－	10	17	18	21	46
胸部X線検診	38	－	－	－	－	4	34
肺がん検診（喀痰）	3	－	－	－	1	1	1

集団（女）

（人）

検診名	受診者数	～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上
胃がん検診（X線）	219	－	26	47	55	55	36
大腸がん検診	463	－	39	116	120	110	78
子宮頸がん検診	341	4	27	54	94	81	81
乳がん検診（マンモグラフィ）	799	－	－	193	211	199	196
乳がん検診（超音波）	115	－	106	9	－	－	－
胸部X線検診	72	－	－	－	－	17	55
肺がん検診（喀痰）	0	－	－	－	0	0	0

がん要精密検査者の年齢・性別構成
胃がん検診（X線）

(人)

区分		要 精 検 者 数	精 検 受 診 者 数	未 精 検 受 診 者 数	未 精 検 把 握 者 数	精 検 受 診 率	精密検査結果								
							異常なし	胃がん （転移性を 含まない）	胃・十二 指腸潰瘍	胃ポリープ	粘膜下腫瘍	潰瘍癒痕	胃・十二指 腸	胃炎	がんの疑い 又は未確定
40歳未満	男	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	女	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
40～44歳	男	1	0	0	1	0.0%	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	女	1	0	0	1	0.0%	0	0	0	0	0	0	0	0	0
45～49歳	男	0	0	0	0	0.0%	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	女	1	0	0	1	0.0%	0	0	0	0	0	0	0	0	0
50～54歳	男	2	1	0	1	50.0%	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	女	4	1	0	3	25.0%	0	0	0	0	0	0	0	0	0
55～59歳	男	1	1	0	0	100.0%	0	0	0	0	0	0	1	0	0
	女	5	1	0	4	20.0%	1	0	0	0	0	0	0	0	0
60～64歳	男	1	1	0	0	100.0%	0	0	0	0	0	0	1	0	0
	女	2	1	0	1	50.0%	0	0	0	1	0	0	0	0	0
65～69歳	男	10	5	1	4	50.0%	1	0	0	3	0	1	0	0	0
	女	13	4	3	6	30.8%	1	0	0	1	1	0	0	0	1
70～74歳	男	26	15	2	9	57.7%	2	1	0	2	0	1	8	0	1
	女	22	15	0	7	68.2%	1	0	0	3	2	0	7	0	1
75歳以上	男	58	36	5	17	62.1%	11	3	1	4	0	0	15	0	2
	女	46	23	2	21	50.0%	9	0	0	4	0	1	7	0	2
合計 （40歳未満を含む）	男	99	59	8	32	59.6%	14	4	1	9	0	2	25	0	4
	女	94	45	5	44	47.9%	12	0	0	9	3	1	14	0	4
	計	193	104	13	76	53.9%	26	4	1	18	3	3	39	0	8
合計 （40歳未満を除く）	男	99	59	8	32	59.6%	14	4	1	9	0	2	25	0	4
	女	94	45	5	44	47.9%	12	0	0	9	3	1	14	0	4
	計	193	104	13	76	53.9%	26	4	1	18	3	3	39	0	8

がん要精密検査者の年齢・性別構成
胃がん検診（内視鏡）

(人)

区分		要精密検査者数			受診者数 精検	未把握者数 精検	精検受診率	精密検査結果									
		受診者数 生検	要再検査数 うち	計				異常なし	（転移性を 含まない） 胃がん	食道がん	胃・十二指腸潰瘍	胃ポリープ	粘膜下腫瘍	胃・十二指腸潰瘍癒痕	胃炎	がんの疑い 又は未確定	その他 （転移性を 含む）
50～54歳	男	5	0	5	5	0	100.0%	0	0	0	0	1	0	0	3	0	1
	女	2	0	2	2	0	100.0%	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0
55～59歳	男	1	1	2	1	1	50.0%	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0
	女	0	0	0	0	0	0.0%	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
60～64歳	男	3	0	3	3	0	100.0%	0	0	0	0	0	0	0	2	0	1
	女	1	0	1	1	0	100.0%	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0
65～69歳	男	10	1	11	10	1	90.9%	0	0	0	0	3	0	0	7	0	0
	女	9	0	9	9	0	100.0%	0	0	0	1	1	0	0	6	0	1
70～74歳	男	16	1	17	17	0	100.0%	0	0	0	0	1	0	1	9	2	4
	女	15	1	16	15	1	93.8%	0	2	0	1	4	0	0	8	0	0
75歳以上	男	53	2	55	53	2	96.4%	1	4	0	2	5	0	6	26	3	6
	女	38	0	38	38	0	100.0%	3	1	0	0	7	0	4	19	0	4
合計	男	88	5	93	89	4	95.7%	1	4	0	2	10	0	7	48	5	12
	女	65	1	66	65	1	98.5%	3	3	0	2	12	0	4	36	0	5
	計	153	6	159	154	5	96.9%	4	7	0	4	22	0	11	84	5	17

がん要精密検査者の年齢・性別構成
大腸がん検診

(人)

区分		要精密検査者数	精密検査受診者数	未受診者数 精密検査	未把握者数 精密検査	精密検査受診率	精密検査結果							
							異常なし	大腸がん (転移性を 含まない)	ポリープ	憩室	痔疾患	潰瘍性 大腸炎	がんの 疑い未 確定	その他 (転移性 を含む)
40歳未満	男	2	1	0	1	50.0%	0	0	0	1	0	0	0	0
	女	3	2	0	1	66.7%	2	0	0	0	0	0	0	0
40～44歳	男	7	2	1	4	28.6%	1	0	1	0	0	0	0	0
	女	16	8	0	8	50.0%	6	0	0	1	1	0	0	0
45～49歳	男	3	0	0	3	0.0%	0	0	0	0	0	0	0	0
	女	15	11	1	3	73.3%	5	0	3	2	0	0	0	1
50～54歳	男	12	2	1	9	16.7%	2	0	0	0	0	0	0	0
	女	20	9	0	11	45.0%	8	0	1	0	0	0	0	0
55～59歳	男	12	10	1	1	83.3%	4	0	6	0	0	0	0	0
	女	13	8	1	4	61.5%	4	1	2	1	0	0	0	0
60～64歳	男	17	13	2	2	76.5%	2	1	7	1	1	0	0	1
	女	30	20	1	9	66.7%	6	1	11	1	1	0	0	0
65～69歳	男	45	23	1	21	51.1%	6	1	15	0	0	0	0	1
	女	45	33	0	12	73.3%	9	0	18	4	0	0	0	2
70～74歳	男	81	49	5	27	60.5%	8	3	28	8	1	0	0	1
	女	77	49	5	23	63.6%	13	3	22	9	1	0	0	1
75歳以上	男	337	187	40	110	55.5%	53	7	91	25	2	0	2	7
	女	256	151	21	84	59.0%	44	4	65	28	1	0	2	7
合計 (40歳未満を含む)	男	516	287	51	178	55.6%	76	12	148	35	4	0	2	10
	女	475	291	29	155	61.3%	97	9	122	46	4	0	2	11
	計	991	578	80	333	58.3%	173	21	270	81	8	0	4	21
合計 (40歳未満を除く)	男	514	286	51	177	55.6%	76	12	148	34	4	0	2	10
	女	472	289	29	154	61.2%	95	9	122	46	4	0	2	11
	計	986	575	80	331	58.3%	171	21	270	80	8	0	4	21

がん要精密検査者の年齢・性別構成
胸部 X 線検診

(人)

区分		要 精 検 者 数	精 検 受 診 者 数	未 受 診 者 数	精 検 未 把 握 者 数	精 検 受 診 率	精密検査結果				
							異 常 な し	肺 が ん	良 性 肺 腫 瘍	又 は が ん の 未 確 定 い	（ 転 移 性 肺 が ん を 含 む ） そ の 他
40～44歳	男	2	1	0	1	50.0%	1	0	0	0	0
	女	0	0	0	0	0.0%	0	0	0	0	0
45～49歳	男	1	0	0	1	0.0%	0	0	0	0	0
	女	1	1	0	0	100.0%	1	0	0	0	0
50～54歳	男	2	1	0	1	50.0%	1	0	0	0	0
	女	1	1	0	0	100.0%	1	0	0	0	0
55～59歳	男	4	3	0	1	75.0%	2	0	0	0	1
	女	2	2	0	0	100.0%	1	0	0	0	1
60～64歳	男	7	5	1	1	71.4%	4	0	0	0	1
	女	4	3	0	1	75.0%	3	0	0	0	0
65～69歳	男	8	3	0	5	37.5%	3	0	0	0	0
	女	15	10	1	4	66.7%	6	0	1	0	3
70～74歳	男	23	16	1	6	69.6%	12	0	0	0	4
	女	15	14	0	1	93.3%	10	0	0	0	4
75歳以上	男	90	57	4	29	63.3%	30	2	1	3	21
	女	87	60	2	25	69.0%	34	1	0	3	22
合計	男	137	86	6	45	62.8%	53	2	1	3	27
	女	125	91	3	31	72.8%	56	1	1	3	30
	計	262	177	9	76	67.6%	109	3	2	6	57

がん要精密検査者の年齢・性別構成
子宮頸がん検診

(人)

区分	要精密検査者数	精密検査受診者数	未受診者数 精密検査	未把握者数 精密検査	精密検査受診率	精密検査結果							
						異常なし	LSIL/CIN1	HSIL/CIN2	HSIL/CIN2～3	HSIL/CIN3	AIS	子宮頸がん	(腺のその他疾患を含む)形成
20～24歳	12	8	0	4	66.7%	3	4	0	0	0	0	0	0
25～29歳	3	3	0	0	100.0%	0	0	1	0	1	0	0	1
30～34歳	4	2	0	2	50.0%	2	0	0	0	0	0	0	0
35～39歳	5	4	0	1	80.0%	2	1	0	0	1	0	0	0
40～44歳	5	4	0	1	80.0%	1	2	0	0	0	0	0	0
45～49歳	8	7	0	1	87.5%	3	2	2	0	0	0	0	0
50～54歳	0	0	0	0	0.0%	0	0	0	0	0	0	0	0
55～59歳	2	1	0	1	50.0%	1	0	0	0	0	0	0	0
60～64歳	1	1	0	0	100.0%	1	0	0	0	0	0	0	0
65～69歳	0	0	0	0	0.0%	0	0	0	0	0	0	0	0
70～74歳	1	1	0	0	0.0%	0	0	0	0	0	0	1	0
75歳以上	1	0	0	1	0.0%	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	42	31	0	11	73.8%	13	9	3	0	2	0	1	1

がん要精密検査者の年齢・性別構成
乳がん検診（マンモグラフィ）

(人)

区分	要精密検査者数	精密検査受診者数	未受診者数 精密検査	未把握者数 精密検査	精密検査受診率	精密検査結果		
						異常なし	含（転乳がんを まな性 い）を	含（転乳がんを む）を その他
40～44歳	19	17	0	2	89.5%	8	0	9
45～49歳	11	11	0	0	100.0%	4	1	6
50～54歳	12	11	0	1	91.7%	6	0	5
55～59歳	15	13	0	2	86.7%	6	2	5
60～64歳	1	1	0	0	100.0%	1	0	0
65～69歳	6	6	0	0	100.0%	3	1	2
70～74歳	5	5	0	0	100.0%	2	0	3
75歳以上	10	8	0	2	80.0%	4	1	3
合計	79	72	0	7	91.1%	34	5	33

乳がん検診（超音波）

(人)

区分	要精検者数	精検受診者数	未受診者数 精検	未把握者数 精検	精検受診率	精密検査結果		
						異常なし	含（転乳がん ま不移性を ない）	（転移性を 含む）その他
30～34歳	0	0	0	0	0.0%	0	0	0
35～39歳	3	3	0	0	100.0%	1	0	2
40～44歳	0	0	0	0	0.0%	0	0	0
合計	3	3	0	0	100.0%	1	0	2

がん要精密検査者の年齢・性別構成
前立腺がん検診

(人)

区分	要精検者数	精検受診者数	未受診者数 精検	未把握者数 精検	精検受診率	精密検査結果		
						異常なし	前立腺がん	その他
50～54歳	3	2	0	1	66.7%	1	0	1
55～59歳	4	1	2	1	25.0%	0	0	1
60～64歳	8	5	0	3	62.5%	1	0	4
65～69歳	31	11	2	18	35.5%	6	2	3
70～74歳	37	13	1	23	35.1%	3	3	7
75歳以上	172	59	13	100	34.3%	22	12	25
合計	255	91	18	146	35.7%	33	17	41

7 骨粗しょう症検診

寝たきりの原因となる骨粗しょう症予防のため、30歳以上の市民を対象に実施。

※平成28年度から踵部（かかと）の超音波診断

受診者の年齢・性別構成

(男)

(人)

年齢	異常認めず	要指導	要精検	合計
30～39歳	5	0	0	5
40～49歳	0	0	0	0
50～59歳	4	0	0	4
60～69歳	2	1	2	5
70歳以上	22	15	6	43
合計	33	16	8	57

(女)

(人)

年齢	異常認めず	要指導	要精検	合計
30～39歳	7	5	1	13
40～49歳	9	6	0	15
50～59歳	23	16	8	47
60～69歳	9	28	16	53
70歳以上	14	41	35	90
合計	62	96	60	218

8 健康教育事業

(1) 乳がん検診時健康教育

ア 目的

乳がんについての理解を深め、ブレスト・アウェアネスを習得してもらい、乳がんの早期発見、早期治療に結びつける。

イ 対象

乳がん検診受診者

ウ スタッフ

保健師、看護師

エ 実施内容・参加者数

回数	内容	参加者数
233回	乳がんについて ブレスト・アウェアネスについて セルフチェックについて	800人

(2) 地区健康教育

ア スタッフ
保健師等

イ 保健師対応健康教育 実施内容・参加者数

(人)

地区・グループ名	内 容	参加者数
小針区・3あい	身長・体重・握力・血圧・骨密度測定結果・市の健康ツールについての講話	30
小松寺区・3あい	血圧・長座体前屈・体組成・握力の測定 熱中症に関する講座	30
久保一色本田区・3あい	脳トレと小牧山体操の実施	24
久保山団地区	フレイル予防（筋トレ、栄養、口腔）	25
小牧原北区・3あい	体組成・血圧計・握力・長坐位・フレイル 予防に関する講話&脳トレ	20
間々原区	ボディチェッカー・体組成・物忘れチェック・講話、長座、握力、血圧、脳トレ	17
小牧原中区サロン	体組成・血圧計・握力・長坐位・開眼片足 立ち測定フレイル予防体操	18
村中区・サロン	フレイルについての講話、体操	26
入鹿区	測定（握力、長座体前屈、体組成、血圧計）、健康相談、体操	42
小牧原駅東区	脳トレ、お口	20
二重堀区	フレイル講座 握力、口腔機能、AGE s 測定	30
村中区・3あい	正しい歩き方、体操	30
東新町区	骨密度、体組成、血圧	26
野口区・3あいサロン合同	フレイルについて（運動・食事）	29
シルバースポーツ	体組成計の結果説明、フレイル、熱中症	35
みどり台集いの会	熱中症について	26
6圏域こまき山体操代表者等交流会	貸出物品の説明、熱中症について	15
東部ゆうゆう学級	熱中症について	27
あいち清光会家族会	フレイル予防に関する講話	60
三ツ淵学区健康フェア	フレイルについて、体操、熱中症対策	103
ふれあいのつどい	握力測定、フレイルについて	110
下小針ふれあいいいきいサロン	体組成、握力、血圧、長座体前屈、フレイル チェック	25
小牧ヶ丘あすなろ会	体組成、握力、長座体前屈測定 フレイルについて	8
岩崎東区 中サロン	フレイル体操、脳トレ	40
大山区3あい事業	体組成、握力、長座体前屈 フレイルについて	21
竹林地区ふれあいきいきサロン	転倒予防について	18
計		855

ウ 管理栄養士対応健康教育 実施内容・参加者数（成人関係）
（人）

団体名	内 容	参加者数
保健連絡員Cグループ学習会	食事をおいしくバランスよく	19
保健連絡員Dグループ学習会	栄養成分表示の見方と、年齢と共に注目したい栄養成分	23
寿学園	おいしく食べて元気に長生き！～シニア期の食事を考える～	439
計		481

(3) 職域健康教育

ア スタッフ
保健師等

イ 実施内容・参加者数（人）

団体名	内 容	参加者数
上下水道部	心の健康について	12
DNP 田村プラスチック(株)	健診結果の見方について	68

(4) 出前講座（国保協力事業）

ア 目 的

日頃集まる場（地区老人クラブ等）を活用し、おくちの健康やフレイル予防などについての知識の普及や日常生活の中で実施できる体操などの習慣化を促すことで、要介護状態になることを予防する。

また、生活習慣病や体力低下を予防し、市民が健康づくりをするためのきっかけをつくることや疾患に対する理解を促し、予防行動につながることで、自己肯定感を育み、市民が心身ともに健やかに過ごすための基盤づくりを図る。

イ 対 象

小牧市内の老人クラブの会員、保健連絡員活動、地域3あい事業の出前講座等、地区からの団体申し込み

ウ コース名・内容・講師

コース名	内 容	講 師
防ごう誤嚥性肺炎！ これであなとも歯あ わせ講座	【講話】誤嚥性肺炎を予防するポイントなど 【実技】顔の筋トレ、健口体操など	歯科衛生士
転ばぬ先の転倒予防 教室	【講話】「日常生活における転倒予防とは」など 【実技】転びにくい体づくりのための体操など	運動指導士 及び看護師
みんなで楽しもう！ 健康体操	【講話】ラジオ体操の正しい方法について 【実技】実技指導、ストレッチ、みんなの体操 指導など	体操指導員

～ゲートキーパー入門～優しい聴き方講座	【講話】ゲートキーパーについて 【実技】ペアワーク、ストレッチなど	精神保健福祉士
人生100年時代の「食べる」を知ろう講座	【講話】「健康寿命をのばすためにフレイルを予防しよう」 【実技】BMIチェック、11種のバランスチェック、今晚のメニューを考えよう	管理栄養士
オトナ女子の更年期講座	【講話】更年期について 【実技】体操など	NPO法人 ちえぶら
女性の健康講座～やってみよう！骨盤底筋エクササイズ～	【実技】出産や加齢による腹圧性の尿漏れ予防に効果的なエクササイズ	NPO法人 ちえぶら
睡眠がもたらす健康の秘訣	【講話】睡眠について	保健師
糖尿病予防教室「どうする？ごはんの話」	【講話】糖尿病予防について	管理栄養士
いのちの授業～地域版性教育～	【講話】人の出生、プライベートゾーンについて	助産師 保健師

エ 実施回数・参加人数

(人)

コース名	令和7年度		令和6年度		令和5年度	
	回数	人数 (延べ)	回数	人数 (延べ)	回数	人数 (延べ)
転ばぬ先の転倒予防教室	5	131	7	199	5	94
みんなで楽しもう！健康体操	9	205	5	115	6	117
立っても座ってもOK！本気のラジオ体操講座						
めざせ！健康長寿～今からできること～					5	115
人生100年時代の「食べる」を知ろう講座	8	235	6	144	4	68
育てよう！自己肯定感			0	0		
防ごう誤嚥性肺炎！これであなとも歯あわせ講座	9	189	13	354	12	321
オトナ女子の更年期講座	3	62	4	60	5	113
女性の健康講座～骨盤底筋エクササイズ～	4	72	7	129	7	143
～ゲートキーパー入門～優しい聴き方講座	1	29	3	91		
～ゲートキーパー入門編～優しい伝え方講座						
睡眠がもたらす健康の秘訣	6	167				
糖尿病予防教室「どうする？ごはんの話」	4	71				
いのちの授業～地域版性教育～	0	0				
計	49	1,161	45	1,092	44	971

(5) 自分・家族の健康を考える食生活講座（ヘルスマイト養成講座）

ア 目 的

自分の食生活を見直し、生涯にわたり健康でいきいきとした生活を送ることができるよう、望ましい食生活について、講義と実習の両面から学ぶ。

そして、市民自らが健康づくりに取り組み、その学びを家族、地域、職場の人々へ広げ、社会全体の健康づくりに寄与できることを目指す。

イ 対 象

市民 2 人

ウ スタッフ

管理栄養士、保健師、歯科衛生士、精神保健福祉士、ヘルスマイト

エ 実施内容・参加者数

(人)			
回	実施日	内 容	参加者数
1	10月15日（水）	オリエンテーション 講話「小牧の健康状況と取り組みについて」 講師：保健師 講話「地区組織活動について」 「自分や家族の食生活を見直そう」 講師：管理栄養士	1
2	11月19日（水）	調理実習「バランスのとれた食事を作ろう」 講話「食事バランスガイドの使い方」 「生活習慣病と予防法を知ろう！」 講師：管理栄養士	2
3	12月17日（水）	運動実習「体を動かして、フレイルを予防しよう」 講師：保健師 講話「オーラルフレイルとお口の健康」 講師：歯科衛生士 講話「こころの健康とフレイル」 講師：精神保健福祉士 講話「フレイル予防の食事と低栄養」 講師：管理栄養士	2
4	1月21日（水）	調理実習「フレイル予防の食事」 講話「減塩について」 講師：管理栄養士	2
5	2月18日（水）	調理実習「食塩を控えた食事」 塩分測定「おうちの味を確認しよう」 講話「食中毒予防について」 講師：管理栄養士	2
6	3月18日（水）	講話「食品成分表を使って、栄養価を計算しよう！」 グループワーク「私たちにできる健康づくり」 講師：管理栄養士 講話「ヘルスマイトについて」 講師：ヘルスマイト 修了証書授与	2
計			11

- オ 食生活改善協議会員（ヘルスメイト）活動開始者数 2 人
（講座修了者は食生活改善協議会員として活動できる）

9 健康相談事業

(1) 医師健康相談 人（回）

実 施 日 時	場 所	実 施 内 容	参加者数（開催回数）		
			令和7年	令和6年	令和5年
毎週月曜日 9時～11時45分 13時～14時15分 毎週水曜日 9時～11時15分	保健センター	・病気に関する相談 ・健診結果の説明 ・治療等に関する相談 等	17 (89)	15 (88)	12 (95)

ア 目 的

気になる症状があるが、病院へは行きづらい方や病気についての相談を希望する方に、自分の健康に関して医師の相談を実施し、自らの健康を振り返り、健康に関する意識を高める機会とする。

イ 対 象

健康に関して、医師へ何らかの相談を希望する市民

(2) 保健師等健康相談

人（回）

実 施 日 時	場 所	実 施 内 容	参加者数（開催回数）		
			令和7年	令和6年	令和5年
毎月第4月曜日 9時～11時45分	保健センター	・健康に不安のある方の運動・食事等の日常生活相談 ・血圧測定・尿検査の実施	39 (24)	89 (24)	153 (46)
毎月第3火曜日 9時30分～11時15分	味岡市民センター		－ －	－ －	8 (11)
毎月第3水曜日 9時30分～11時15分	東部市民センター		－ －	－ －	4 (11)
計			39 (24)	89 (24)	165 (68)

ア 目 的

病気の有無にかかわらず、自らの健康を保持・増進し、生活習慣病を予防しながら健康を守っていくことができるよう、健康意識を高める。

イ 対 象

市民

(3) 保健師・管理栄養士による生活習慣病予防相談

人(回)

実施日時	場 所	実施内容	参加者数(開催回数)		
			令和7年	令和6年	令和5年
毎週月曜日 9時30分～12時 13時30分～16時	保健センター	生活習慣、食事記録をもとにした 具体的な生活習慣の相談	53 (40)	44 (38)	64 (43)

ア 目 的

- ・自分の健康に対する知識や各種生活習慣病に対する知識を深める。
- ・何らかの生活習慣病を持ちながらも、元気で、自己実現のできる生活ができるよう健康を生活の重要な条件として認識する。
- ・自分の健康状態を振り返り、積極的に日常生活や食生活、運動習慣を見直し、今後の生活につなげていける機会とする。

イ 対 象

- ・健康状態を振り返り、積極的に日常生活や食生活・運動習慣を見直したい方及びその家族
- ・骨粗しょう症検診で、要指導・要精検となった方及びその家族
- ・病気などにより日常生活の改善が必要な方及びその家族

ウ 相談来所きっかけ

(人)

医師からの紹介	健診結果より	一般相談より	教室等での紹介	広報・チラシ	継続の方	その他
4	38	0	2	0	2	7

エ 相談内容内訳(相談内容は再掲、重複あり)

(件)

相談内容	糖尿病	高血圧	脂質異常症	肥満	骨粗しょう症	食事一般	その他
相談件数	34	16	21	5	8	2	1

(4) 精神保健福祉士による心の健康相談

令和7年度

精神保健福祉 面接・電話・訪問 相談実施集計結果について

	年齢区分						合計 相談件数	性別		本人	家族	その他	相談内容（重複可）															
	妊産婦	乳児期	小・中・高・大	19歳―39歳	40歳―64歳以上	65歳以上		男	女				マタニティブルー	子育て（メンタル）	社会復帰	こころの健康づくり	薬物	いじめ	ひきこもり・不登校	自殺関連	犯罪被害	精神疾患						
																						うつ	統合失調症	発達障害	アルコール	摂食障害	受診について	その他
面接相談	0	0	0	17	9	0	26	18	8	22	3	1	0	0	0	24	0	0	0	1	0	1	12	0	1	0	7	3
電話相談	0	0	6	16	69	82	173	41	132	155	16	2	0	0	5	169	0	1	4	0	0	3	111	0	8	1	21	5
訪問	0	0	0	1	1	1	3	2	1	3	0	0	0	0	1	3	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	1	1
各項目の合計	0	0	6	34	79	83	202	61	141	180	19	3	0	0	6	196	0	1	4	1	0	4	124	0	10	1	29	9

10 訪問指導

(1) 健康増進法に基づく訪問指導

ア 目的

生活習慣病、要介護状態になることの予防に関する指導、または療養上保健指導が必要であると認められる者及びその家族に対し、保健師等が訪問して健康に関する問題を総合的に把握し、必要な指導を行うことで、心身機能の低下を予防し、健康の保持・増進を図る。

イ 対象

40歳以上 65歳未満の者及びその家族

(ア) 対象者の把握方法

(人)

内 容	令和7年度	令和6年度	令和5年度
県関係機関より	1	1	0
医療関係より	0	0	0
福祉関係より	1	2	0
本人・介護者・家族からの依頼	2	1	0
保健連絡員・ボランティアから紹介	0	0	0
保健センター事業より	1	0	0
前年度から継続	0	0	0
糖尿病重症化予防事業より（再掲）	0	0	0
その他	2	1	0
計	7	5	0

(イ) 被指導人員

(人)

内 容	実人員	延人員
生活習慣病要指導者等	0	0
閉じこもり予防	0	0
認知症の者	0	0
精神的支援	5	10
その他	2	3
計	7	13

ウ 実施結果

(ア) 保健師・訪問指導員による訪問

・訪問延件数 13 件

・訪問指導内容 (件)

内 容	件 数
血圧測定	0
疾患	0
服薬	0
食生活	0
口腔衛生	0
咀嚼嚥下	0
A D L	0
I A D L	0
運動	0
環境整備	0
生きがいづくり	0
地域活動参加勧奨	0
基本チェックリスト実施	0
他機関紹介	0
家族間調整	0
就労	0
日常生活	4
各種制度	1
受療・医療	7
苦情	0
傾聴	10
自殺	0
その他	0

※重複記載あり

(1) 管理栄養士による訪問

・訪問件数 2件

(2) その他訪問指導

ア 目的

保健センターへの来所が困難な場合や家庭での状況を確認した上で
の指導が必要な場合、あるいは家庭での指導が適切な場合に訪問して
相談、指導を行う。

イ 対象

前述の健康増進法等の訪問対象以外の者及びその家族

(ア) 対象者の把握方法

(人)

内 容	令和7年度	令和6年度	令和5年度
県関係機関より	0	1	0
医療関係より	0	0	0
行政関係より	0	1	2
本人・介護者・家族からの依頼	1	5	2
保健連絡員・ボランティアから紹介	0	1	0
保健センター事業より	1	0	0
前年度から継続	1	2	2
糖尿病重症化予防事業より（再掲）	0	0	1
一体的実施事業	75		
その他	0	0	0
計	78	10	7

(イ) 被指導人員

(人)

内 容		実人員			延人員	
		40歳未満 （再掲）	65歳以上 （再掲）		40歳未満 （再掲）	65歳以上 （再掲）
生活習慣病要指導者等	0	0	0	0	0	0
閉じこもり予防	0	0	0	0	0	0
介護予防事業	0	0	0	0	0	0
認知症の者	0	0	0	0	0	0
精神的支援	1	1	0	3	3	0
一体的実施事業	75	0	75	160	0	160
その他	2	0	2	3	0	3
計	78	1	77	166	3	163

ウ 実施結果

(ア) 保健師・訪問指導員による訪問

・訪問延件数 166 件

・訪問指導内容 (件)

内 容	件 数
血圧測定	0
疾患	0
服薬	0
食生活	0
口腔衛生	0
咀嚼嚥下	0
A D L	0
I A D L	0
運動	0
環境整備	0
生きがいづくり	0
地域活動参加勧奨	0
基本チェックリスト実施	0
他機関紹介	4
家族間調整	0
就労	0
日常生活	42
各種制度	20
受療・医療	30
苦情	0
傾聴	39
自殺	0
その他	132

※重複記載あり

(イ) 管理栄養士による訪問

・訪問件数 1 件

1 1 ヤング健診

(1) 目 的

健康と毎日の生活習慣を振り返るきっかけとして、若い頃からの健診及び指導を受ける機会を提供して生活習慣病の予防につなげる。

生活習慣から起因する疾病の予防に向け、生活習慣病と密接に関係する内臓脂肪に着目した血液検査を取り入れた健診を実施し、ハイリスク者に対し自覚症状の有無にかかわらず検査値に基づく動機付けをすることで、糖尿病等の生活習慣病の発症予防や重症化防止につなげる。

(2) 対 象

- ・小牧市に住民登録のある 35 歳から 39 歳の方で、事業所等で健診を受ける機会のない方
- ・昨年度ヤング健診受診者のうち動機付け・積極的支援に該当した方(15 人)

(3) 実施日時

日にち：令和 7 年 7 月 16 日(水)、8 月 18 日(月)、9 月 19 日(金)、
10 月 22 日(水)

時 間：午前 9 時 30 分～12 時

(4) 会 場

保健センター

(5) 実施内容

身体計測（身長・体重・腹囲測定）、血圧測定、尿検査、血液検査（脂質検査・肝機能検査・血糖検査・アルブミン・尿酸・貧血検査・クレアチニン）、心電図検査、眼底検査、医師診察、生活習慣及び歯科に関する保健指導

(6) スタッフ

医師、保健師、看護師、歯科衛生士、事務員

(7) 受診結果概要

ア 受診者数 (人)

	令和 7 年度	令和 6 年度	令和 5 年度
35 歳	21	26	36
36 歳～39 歳	156	146	149
総受診者数	177	172	185

イ 健診結果による階層化

	令和 7 年度	令和 6 年度	令和 5 年度
情報提供レベル	156 人 (88.1%)	150 人 (87.2%)	164 人 (88.5%)
動機付け支援レベル	10 人 (5.6%)	15 人 (8.7%)	11 人 (5.9%)
積極的支援レベル	11 人 (6.2%)	6 人 (3.5%)	10 人 (5.4%)
判定不能		1 人 (0.6%)	

ウ 階層化による各レベルにおける内訳

(ア) 情報提供レベル 156 人 (男性 34 人 女性 122 人)

身体計測内訳 (人)

男性	腹囲 85cm 以上 + BMI25 以上のチェック	8
	腹囲 85cm 以上のみのチェック	6
	BMI25 以上のみのチェック	0
女性	腹囲 90cm 以上 + BMI25 以上のチェック	8
	腹囲 90cm 以上のみのチェック	1
	BMI25 以上のみのチェック	7

検査項目基準値外内訳 (人)

検査項目		男性	女性
収縮期血圧	高値	2	1
拡張期血圧	高値	3	1
空腹時血糖値	高値	3	3
HbA1c	高値	1	31
中性脂肪	高値	3	5
HDL コレステロール	低値	0	1

(イ) 動機付け支援レベル 10 人 (男性 2 人 女性 8 人)

身体計測内訳 (人)

男性	腹囲 85cm 以上 + BMI25 以上のチェック	2
	腹囲 85cm 以上のみのチェック	0
	BMI25 以上のみのチェック	0
女性	腹囲 90cm 以上 + BMI25 以上のチェック	4
	腹囲 90cm 以上のみのチェック	0
	BMI25 以上のみのチェック	4

検査項目基準値外内訳

(人)

検査項目		男性	女性
収縮期血圧	高値	1	6
拡張期血圧	高値	0	4
空腹時血糖値	高値	0	1
HbA1c	高値	1	2
中性脂肪	高値	1	4
HDL コレステロール	低値	1	0

(ウ) 積極的支援レベル 11 人 (男性 7 人 女性 4 人)

身体計測内訳

(人)

男性	腹囲 85cm 以上 + BMI25 以上のチェック	6
	腹囲 85cm 以上のみのチェック	1
	BMI25 以上のみのチェック	0
女性	腹囲 90cm 以上 + BMI25 以上のチェック	4
	腹囲 90cm 以上のみのチェック	0
	BMI25 以上のみのチェック	0

検査項目基準値外内訳

(人)

検査項目		男性	女性
収縮期血圧	高値	5	3
拡張期血圧	高値	5	2
空腹時血糖値	高値	1	0
HbA1c	高値	4	3
中性脂肪	高値	5	1
HDL コレステロール	低値	3	1

(8) ヤング健診後の保健指導状況

ア 個別面接状況

ヤング健診受診者 177 人中 135 人 (76.3%) と面接

うち 栄養相談 23 人

結果説明	男性	女性
情報提供レベル	34 人 (100%)	87 人 (71.3%)
動機付け支援レベル	2 人 (100%)	6 人 (75%)
積極的支援レベル	4 人 (57.1%)	2 人 (50%)
総利用者	40 人 (93.0) %	95 人 (70.9%)

イ 動機付け、積極的支援対象者への処遇

動機付け支援対象者 10 人(男性 2 人 女性 8 人) (人)

処 遇	男 性	女 性
特定保健指導に準じた保健指導を実施	1	5
専門職による保健指導を実施	1	2
資料送付	0	1

※複数選択あり

積極的支援対象者 11 人(男性 7 人 女性 4 人) (人)

処 遇	男 性	女 性
特定保健指導に準じた保健指導を実施	0	2
専門職による保健指導を実施	5	1
資料送付	2	1

※複数選択あり

1 2 重層的支援体制整備事業

子ども、高齢、障害、生活困窮など、分野ごとの枠組みを超え、複雑化・複合化した個々の課題を地域全体で包括的に支援することを目的として実施する事業です。

この事業のうち、個々の深刻な課題に対し、地域の中での自然なつながりや緩やかな見守りを仕組化し、より身近なセーフティネット機能を推進することを目的とし、事業を実施しています。

※令和6年度までは介護保険事業特別会計において実施しておりましたが、令和7年度から一般会計に移管して実施しました。

(1) 地域介護予防活動支援事業

ア 住友理工フレイルチェック測定会

(ア) 目 的

住友理工株式会社が開発したフレイルチェックシステムを用いて、フレイルチェックを行う機会を設けることで、自身の今の健康状態を知るきっかけとする。

(イ) 対 象

60歳以上の市民

(ウ) 内 容

身体計測、問診、体組成測定、握力、5m歩行速度、3m TUG、クロステスト（足圧測定）、フィードバック

(エ) 参加者数／回数

117人／8回

イ 介護予防サポートももの会

(ア) 目 的

地域の高齢者が、住み慣れた地域において自主的に介護予防に取り組むことができるよう、集いの場を運営する地域団体に対し、介護予防に必要な知識を提供し、地域住民の介護予防の推進及び居場所づくりを支援する。

(イ) スタッフ

保健師、看護師

(ウ) 方 法

ボランティアが主となり、介護予防の場を運営していけるよう支援していく。

保健センターからスタッフが出向き、実際の場面を通してどのように対処したらよいか伝えていく。

また、カンファレンスを通して実際の場면을振り返る機会を設ける。

(エ) 内 容

- ・介護予防に関するボランティア等の人材を育成するための指導
- ・介護予防に資する地域活動組織の育成・支援

(オ) グループ活動

a グループ活動の目的

高齢や病気のため体に不自由が生じ、気持ちがなかなか外に向かず、1人では外出しづらく、閉じこもりがちの方が集まれる場を作

り、介護予防に向けた取り組みを行う。

b グループの詳細

介護予防サポート ももの会

(a) 対象地区 篠岡地域

(b) 日 時 毎月第1・第3金曜日（月2回）

午前9時30分～午後3時30分

全24回 ボランティア会議1回

(c) 内 容 体操、ゲーム、レクリエーション、読み聞かせ、創作活動等

(d) メンバー及び利用者 (人)

	実人数	延べ人数
ボランティア (保健連絡員、保健連絡員OB)	19	260
利用者	7	140

1 3 地域支援事業 一般介護予防事業

(1) 介護予防普及啓発事業

ア 知って得する若返り講座

(ア) 目 的

心身の機能が低下した状態の「フレイル」に陥らないよう、その予防に向けた正しい知識を普及啓発し、市民一人ひとりがフレイル予防の大切さを認識し、自分ごととして行動に移すことができるよう促し、元気で生き生きとした潤いのある暮らしを続けていくことができるよう支援する。

【ねらい】

参加された人がフレイル予防に関する意識を向上させ、講座で得られた知識を個人や地域での活動の中で生かすことができる。

(イ) 対 象

概ね 60 歳以上で市内在住の方

(ウ) スタッフ

歯科衛生士、体操指導員

(エ) 内 容

- ・お口の機能アップと頭の体操を楽しみながら行う
- ・運動器機能向上のための筋トレ、ストレッチなど簡単な体操を音楽に合わせて行う

(オ) 会 場

ラピオ

サンビレッジ（社会福祉法人 あいち清光会）

田県の郷

勤労センター

北里市民センター

(カ) 実施状況 参加者数（延べ）

(人)

会場	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	総計
ラピオ	12	13	16	11	10	6	12	10	6	9	8	11	124	202
サンビレッジ	-	-	-	4	6	4	-	-	-	-	-	-	14	
田県の郷	-	6	5	8	-	-	-	-	-	-	-	-	19	
勤労センター	-	-	-	-	-	-	2	7	2	-	-	-	11	
北里市民センター	-	-	-	-	-	-	-	-	12	14	8	-	34	

イ 筋力アップのためのトレーニングマシン講習会

(ア) 目 的

高齢者にとって身近な老人福祉センターにおいて、高齢者自身が安全に効果的にトレーニングマシンを利用し、筋力特に下肢筋力の強化に向けて取り組むことができるよう支援する。

(イ) 対 象

小牧市在住の 60 歳以上の方

(ウ) スタッフ

健康運動指導士

(エ) 内 容

- ・筋力アップトレーニングやストレッチの必要性を伝える
- ・トレーニングマシンの正しく、安全かつ効果的な使用方法を指導する

(オ) 会 場

第一老人福祉センター 野口の郷 機能回復訓練室
第二老人福祉センター 小針の郷 機能回復訓練室
第三老人福祉センター 田島の郷 機能回復訓練室

(カ) 実施状況 実施回数・参加者数（延べ）

野口の郷 6 回
小針の郷 6 回
田島の郷 6 回

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	総計
野口の郷	-	18	-	15	-	10	-	25	-	10	-	6	84	220
小針の郷	-	7	-	7	-	8	-	8	-	10	-	7	47	
田島の郷	-	9	-	25	-	15	-	10	-	12	-	18	89	

ウ おいしく食べて元気に長生き！サロン巡回低栄養予防教室

(ア) 目 的

サロン参加者の状況に合わせて、低栄養予防についてのミニ講話や相談に応じることにより、低栄養予防に関する正しい知識の普及啓発を行う。

(イ) 対 象

市内のふれあいいきいきサロンの参加者

(ウ) 講 師

管理栄養士

(エ) 内 容

低栄養を予防する食事についての講話と簡易栄養相談を「おいしく食べて元気に長生き！サロン巡回低栄養予防教室」として実施

(オ) 実施場所

各サロン実施の会館等

(カ) 実施状況

10 か所 210 人に実施

エ まちかど運動教室

(ア) 目 的

フレイル予防に関する知識の普及啓発を行い、自らの健康状態を把握したうえで、自分にあった健康づくりを継続できるよう支援する。

(イ) 対 象

介護予防把握事業や令和 6 年度健康診査の結果から、フレイルリスクがある方

(ウ) スタッフ

健康運動指導士、管理栄養士ほか

(エ) 内 容

自身の体の状態を把握するため、健康測定（握力、開眼片足立ち、5 m 歩行、Timed Up & Go）を行うとともに、運動や栄養、口腔、認知におけるフレイル予防に関する講話を実施する。

(オ) 参加者数

	回数	参加者数 (実人数)	参加者数 (延人数)
南部	6	8	40
中部	6	15	65
西部	6	21	86
味岡	6	16	67
篠岡	6	26	117
北里	6	6	22
計	36	92	397

(2) フレイルハイリスク者重症化予防相談

ア フレイル改善個別相談

(ア) 目 的

加齢とともに心身の機能が低下し、要介護に陥る危険性の高い状態にある高齢者が口腔、栄養、運動の3分野において、各専門職による個々の状態に応じた支援を受けることで、フレイル改善に向けた取り組みを行い、住み慣れた地域でいつまでもいきいきとした生活を送ることができる。

- ① 個々の状態に応じた個別相談を通して、フレイル改善のための取り組み方法を知り、行動変容ができる。
- ② 通いの場に出向き、楽しみを見つけることで、他者とのつながりを持つことができる。

(イ) 対 象

保健師等の専門職が個別相談の必要があると判断した、概ね 60 歳以上の方

分野	判断基準
口腔	・固いものが食べにくくなった ・水や汁物でむせることが多くなった ・家族や友人から聞き取りにくいと言われるようになった
運動	・ひざや腰に痛みを感じる（医師より運動の許可がある） ・うでや肩に痛みを感じる（医師より運動の許可がある） ・ペットボトルのキャップが開けにくくなった ・10 分以上継続して歩くことができない ・以前と比べて歩く速度が遅くなってきた ・週に 2 回以上体を動かしていない
栄養	・体重減少（6 か月間で 2～3 kg 以上） ・BMI が 18.5 未満 ・健康診査等でアルブミン値が 3.5g/dl 未満 ・食事での困りごとがある

(ウ) 対象者の把握経路

- ・後期高齢者健康診査を実施している医療機関より把握
- ・高齢者の集う場（サロン等）において実施されるフレイルチェックや地域住民（保健連絡員等）を通して保健師等が把握
- ・介護予防実態把握事業において地域包括支援センターより把握
- ・国民健康保険加入者のうちレセプトより把握

(エ) スタッフ

【口腔・運動分野】

歯科衛生士 1 名、理学療法士 1 名、看護師もしくは保健師 1 名

【栄養分野】

管理栄養士 1 名

(オ) 方 法

【口腔・運動分野】

各老人福祉センターで開催日を設け、理学療法士、歯科衛生士による個別相談を行い、看護師がフィードバックを行う。

【栄養分野】

対象者との日程調整後、地区の会館や自宅等に管理栄養士が出向き、個別相談を行う。

(カ) 内 容

【3 分野共通】

- ・心身機能の状態について本人の気づきを促し、フレイル改善の取り組みのきっかけになるよう、その状態の改善に向けた相談、情報提供を行う
→本人の気づきを促すため、相談時にミニ測定を実施し、個々の状態に応じた個別相談を実施する
- ・自宅でも取り組めるように資料を配布する
- ・通いの場の紹介

(キ) 実施状況
分野別の実施人数

(人)

月	口腔・運動分野			栄養分野
	野口の郷	小針の郷	田島の郷	
4	－	－	－	0
5	－	－	－	1
6	1	－	2	0
7	－	2	4	0
8	4	2	－	0
9	3	－	3	0
10	1	4	3	0
11	3	4	4	0
12	3	3	1	0
1	1	2	3	0
2	－	2	4	0
3	2	2	－	0
合計	18	21	24	1
分野別合計	63			

1 4 小牧市健康づくり推進プランの推進

(1) 基本理念

「みんなが主役 支え合いの輪でつながるまち こまき」

(2) 最終目標

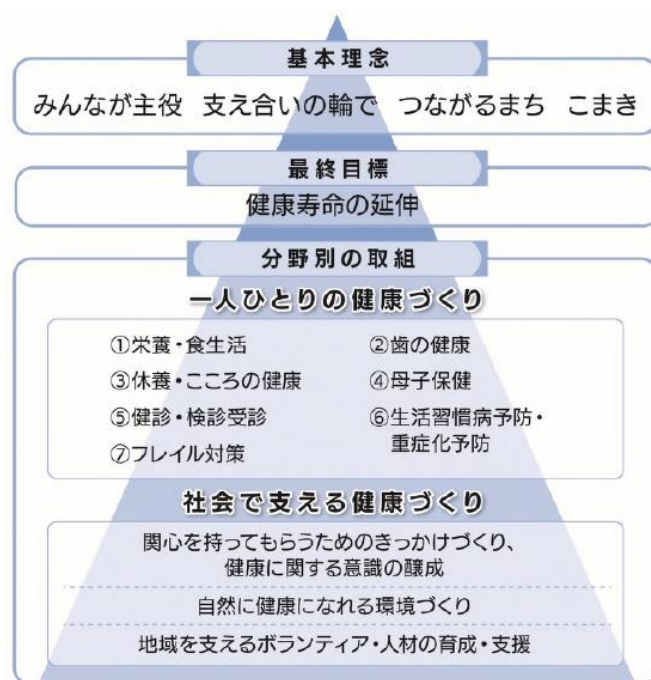
「健康寿命の延伸」

(3) 基本方針

1. 一人ひとりの健康づくり
2. 健診・検診受診率の向上
3. 生活習慣病予防・重症化予防
4. フレイル対策
5. 社会で支える健康づくり

(4) 推進の体系

最終目標である「健康寿命の延伸」の実現のため、分野別計画として、「一人ひとりの健康づくり」として7分野（①栄養・食生活、②歯の健康、③休養・こころの健康、④母子保健、⑤健診・検診受診、⑥生活習慣病予防・重症化予防、⑦フレイル対策）と「一人ひとりの健康づくり」を支える仕組みづくりとして、社会で支える健康づくりを設定し、それぞれが連携しながら施策を推進する。



(5) 小牧市健康づくり推進審議会および専門部会の設置

本プランの策定および推進に関する事項その他市民の健康づくりのための施策に関する事項について調査審議するため、小牧市健康づくり推進審議会を置く。また、その審議事項のうち、健康づくりに関する専門的事項について必要な調査及び研究を行うため、審議会に小牧市健康づくり推進審議会専門部会を置く。

名称・所掌事務	令和7年度
食育専門部会 (食育に関する事項について必要な調査及び研究を行うこと。)	食育関連事業の検討および運用状況の振り返りを行い、課題の共有と今後の方向性を整理。 食育イベント「みんなで結ぶ栄養の日 in こまき」開催。
歯と口腔の健康づくり専門部会 (歯と口腔の健康づくりに関する課題の解決及び市民のあるべき姿の実現に向け、必要な調査及び研究を行うこと。)	各ライフステージにおける、小牧市の歯科保健に関する課題について共有。 乳幼児期・学齢期の歯科保健活動について検討。 節目歯科健診の受診率向上に向けた取り組みについて検討。
糖尿病対策専門部会 (糖尿病対策に関する課題の解決及び市民のあるべき姿の実現に向け、必要な調査及び研究を行うこと。)	市の現状および、各委員の立場における課題について共有。 糖尿病についての正しい知識の周知啓発方法について検討。 世界糖尿病デーイベントの実施。

(6) 各分野の令和7年度の主な取り組み事業

【一人ひとりの健康づくり】

① 栄養・食生活

○食育月間普及啓発

- ・食育月間に合わせ、小牧市中央図書館と連携し、食育に関する図書コーナー設置

○食育イベント開催

- ・ヘルスラボ・こまきを会場に、管理栄養士・栄養士の活動をより広く発信するとともに、食育の推進や栄養課題の解決につなげることを目的とし、「みんなで結ぶ栄養の日 in こまき」を開催。

② 歯の健康

○いきいき世代個別歯科健診オーラルフレイルに関する健診項目を追加

- ・口腔機能低下の予防とともに市民のオーラルフレイルに関する知識の普及を図るため、いきいき世代個別歯科健診の全ての年代で、オーラルフレイルに関する健診の項目を追加した

③ 休養・こころの健康

○自殺予防啓発

- ・自殺予防週間にあわせて、図書館と連携し、イベントスペースにて、「心の健康づくり」に関する講座、パネルの展示、自殺対策に関連した書籍を集めた図書コーナー設置するなど、普及啓発を積極的に行った
- ・市民と職員向けにゲートキーパー養成講座を実施した
- 依存症に関する啓発
 - ・ギャンブル、薬物、アルコール等の依存症に関する啓発活動として、啓発グッズの配布、ポスターの掲示、市のホームページにて行った
- ④ 母子保健
 - 幼年期性教育
 - ・年長児とその保護者を対象とした性教育を実施（保育園・幼稚園での出前講座）した
- ⑤ 健診・検診受診
 - がん検診を受診しやすい環境づくり
 - ・集団がん検診での託児を実施した
 - ・ホームページの個別検診実施医療機関一覧表の電話番号をリンクとし、番号の入力を自動化した
 - ピンクリボン月間における周知啓発
 - ・10月のピンクリボン月間において、更衣室等を設置するジムやプールなどの施設にて、ブレスト・アウェアネスを中心とする女性の健康に関する情報提供を行い、意識の醸成を図った。
- ⑥ 生活習慣病予防・重症化予防
 - 健康相談事業
 - ・生活習慣病予防相談等で、生活習慣に改善が必要な方に対して尿検査等を実施し、専門職が相談に応じた。また、保険医療課と連携し、健診結果にて高血糖状態がみられる方に生活習慣病予防相談の案内を送付した。
 - 糖尿病対策事業
 - ・糖尿病デー（World Diabetes Day）にあわせて、ケーブルテレビや各 SNS での発信やブルーライトアップを行うことで周知啓発を実施した
 - 受動喫煙対策や COPD に関する取り組み
 - ・世界禁煙デーや COPD デーに合わせて、ポスターや各 SNS で周知啓発を実施した
 - 糖尿病対策事業
 - ・世界糖尿病デーに合わせ、市内公共施設および協力事業団体にて、ブルーライトアップをはじめとした周知啓発を行った。
 - ・保健センターの来所者にシールを貼付してもらい、ブルーサークルを作成した。
 - 青・壮年期女性を対象とした骨密度測定および周知啓発
 - ・20代～40代が来所されるようなイベント等に出向き、骨密度測定及び保健指導を実施した。
 - ・高校生を対象とした生と性のカリキュラムにおいて、骨量リーフレットを配布し、骨量に関する正しい知識や生活習慣等、高校生に適した内容について周知した。

⑦ フレイル対策

○高齢者の保健事業と介護予防等の一体的実施

- ・ハイリスクアプローチの一つである重症化予防（糖尿病治療中断者）への支援を開始した

【社会で支える健康づくり】

○地域で支える健康づくりの推進

- ・ヘルスラボ・こまきにおいて、地域で健康づくりやフレイル予防を普及啓発するうえで必要となる知識や技能を習得するための講座を開催し、地域での活動の場を提供した

○健康経営支援

- ・市内で健康経営に取り組む優良事業所（5社）を顕彰した
- ・健康経営優良法人認定申請を行う市内事業所に対し、申請費用の一部を補助した
- ・企業の健康経営担当者等を対象に、小牧市健康経営優良事業所表彰式とあわせて交流会を開催した

1 5 こまき健康いきいきポイント事業

(1) 目 的

自ら目標を定め、自分にあった健康づくりを楽しみながら継続できるよう、ポイント事業を実施して活動のきっかけや励みを提供する。これにより、健康づくりに取り組む世代・人口を拡大し、市民の健康増進を図る。

(2) 事業概要

愛知県との協働事業

「こまき健康いきいきポイント」パンフレットに掲載されている健康づくり（下記（4）の大人版こまき健康いきいきポイント事業内容参照）を実施して、ポイントを1,000ポイント以上貯めるとあいち健康づくり応援カード（まいか）と地域限定商品券（1,000円分）と交換できる。

「まいか」を提示すると、愛知県内の健康づくり応援カード協力店から優待を受けることができる。

(3) パンフレット配布、まいか・地域限定商品券交換申込場所

市役所、保健センター、ヘルスラボ・こまき、各市民センター、各コミュニティセンター、パークアリーナ小牧、まなび創造館

※ホームページよりパンフレットダウンロード可能。電子申請フォームより交換申込可能。

(4) 大人版こまき健康いきいきポイント事業

ア 内 容

- ・ 毎日チャレンジ
毎日の自主目標の取り組みでポイントを貯める
- ・ 健診・検診チャレンジ
がん検診や人間ドック、特定健診などを受けてポイントを貯める
- ・ 参加チャレンジ
健康に関する講座やイベントに参加してポイントを貯める

イ 対 象

中学生以上の市民及び市内在勤・在学者

ウ 周知方法

広報、ホームページ、チラシ、ポスター、各事業でパンフレット配布

エ 実 績

- ・ あいち健康づくり応援カード「まいか」及び地域限定商品券交換者数 862人
- ・ 市内あいち健康づくり応援協力店舗数 39店舗（R8.3.31時点）

(5) 子ども版こまき健康いきいきポイント事業

ア 目 的

生活習慣が不規則になりがちな夏休みに、本事業を通し、親子で楽しみながら健康づくりに取り組むことで、健やかな身体と心を育み、理想的な生活習慣の基盤をつくる。

イ 対 象

市内小学生

ウ 実 績

- ・あいち健康づくり応援カード「まいか」交換及び記念品贈呈者数
293 人

16 ウォーキングアプリ「alko」

(1) 目的

誰もが元気でいきいきと暮らすことができる市民総活躍社会を目指し、健康づくりに時間を取りづらい働く世代の方でも「歩く」ことを通し、手軽に健康づくりができる習慣を身に付けることができるよう、市独自のウォーキングアプリを開発・配信し、健康寿命の延伸に寄与する。

(2) 事業概要

- ・1日6,000歩で獲得できるポイントを貯め、抽選で地域限定商品券に交換できる
- ・獲得ポイントに応じて期間限定でalkoカードを獲得でき、これを市内のalko応援協力店等で提示することで優待を受けることができる
- ・期間限定のチャレンジを達成すると、抽選で記念品を獲得することができる

(3) 対象

- ・スマートフォン用アプリ「alko」ダウンロード者
- ・地域限定商品券：18歳以上の市内在住、在勤、在学者

(4) チャレンジ結果

チャレンジ名	種別	開催日	参加者数 (人)	達成者数 (人)	達成率 (%)
旧道を歩こうチャレンジ	個人	5/1～5/7	3,234	2,139	66
文化・芸術力向上チャレンジ	個人	6/2～6/8	3,510	2,416	69
健康と献血意識向上チャレンジ	個人	7/1～7/10	3,171	2,072	65
下水道の日チャレンジ	個人	9/10～9/16	3,060	1,730	57
身体と地域の健康力向上チャレンジ	個人	10/11～10/20	3,472	2,108	61
市制70周年VRウォーキング大会	VRW	10/27～11/30	4,933	3,018	61
シルバー歩け歩けチャレンジ	個人	11/7～11/14	2,525	2,040	71
気軽にリサイクルチャレンジ	個人	2/9～2/15	3,130	2,055	66
心とからだの健康づくりチャレンジ	個人	3/9～3/15	3,740	2,496	67

(5) alko カード獲得者数

配信回数 (期間)	第 1 回 (8 月 1 日～31 日)	第 2 回 (11 月 1 日～30 日)	第 3 回 (1 月 1 日～31 日)
獲得者数	5,371 人	5,221 人	4,899 人

(6) 地域限定商品券交換者数

対象者		交換者数
市民	1,000P	1,327 人
	2,000P	2,609 人
市外在住市内在勤者	1,000P	109 人

第6 予防接種事業及び結核予防事業

第6 予防接種事業及び結核予防事業

1 予防接種事業一覧

(参考)

種別	期別	対象者数 (人)	接種者数 (人)	接種率 (%)	R6年度 接種率 (%)	接種対象者
不活化ポリオ	第1回		0			生後2か月以上7歳半未満
	第2回		0			
	第3回		0			
	追加		9			
日本脳炎	第1期1回	1,073	915	85.3	80.9	3歳以上7歳半未満（経過措置を含む）
	第1期2回	1,133	892	78.7	76.2	
	第1期追加	1,439	899	62.5	61.5	9歳以上13歳未満（経過措置を含む）
	第2期	1,685	1,060	62.9	60.0	
4種混合	第1期1回	0	0		100.0	生後2か月以上7歳半未満 （R6年2月生まれより5種混合ワクチン に変更）
	第1期2回	2	2	100.0	100.0	
	第1期3回	8	8	100.0	100.0	
	追加	226	226	100.0	93.6	
5種混合	第1期1回	865	829	95.8	99.3	生後2か月以上7歳半未満
	第1期2回	988	833	84.3	81.7	
	第1期3回	988	840	85.0	79.4	
	追加	996	846	84.9	100.0	
2種混合	第2期	1,320	1,052	79.7	75.2	11歳以上13歳未満
麻しん風しん混合	第1期	901	874	97.0	90.1	1歳以上2歳未満
	第2期	1,044	960	92.0	82.0	小学校入学前の1年間（年長児の間）
ヒブ	第1回	1	1	100.0	100.0	生後2か月以上5歳未満 （R6年2月生まれより5種混合ワクチン に変更）
	第2回	1	1	100.0	100.0	
	第3回	0	0		100.0	
	追加	50	50	100.0	82.0	
小児用肺炎球菌	第1回	865	832	96.2	100.2	生後2か月以上5歳未満
	第2回	936	833	89.0	88.4	
	第3回	936	835	89.2	87.3	
	追加	941	866	92.0	87.8	
B型肝炎	第1回	865	825	95.4	99.5	生後1歳未満
	第2回	865	827	95.6	96.8	
	第3回	865	834	96.4	92.5	
2価・4価 HPVワクチン	第1回		0			小学校6年生から高校1年生に相当する 年齢（実績にはH9. 4. 2～H21. 4. 1生のキャッチアップ接種者も含む）
	第2回		3			
	第3回		14			
9価 HPVワクチン	第1回		387			
	第2回		532			
	第3回		478			
水痘	第1回	932	876	94.0	90.5	1歳以上3歳未満
	第2回	956	754	78.9	85.3	
ロタ（1価）	第1回	429	483	112.6	112.0	生後6週から24週まで
	第2回	429	475	110.7	105.1	

ロタ（5価）	第1回	429	334	77.9	88.4	生後6週から32週まで
	第2回	429	337	78.6	88.2	
	第3回	429	335	78.1	88.0	
インフルエンザ		38,296	19,715	51.5	50.3	65歳以上（60から64歳で医師が必要と認めた方を含む）
コロナ		38,282	2,231	5.8	14.0	
高齢者肺炎球菌ワクチン		1,470	759	51.6	28.7	65歳の方（60から64歳で医師が必要と認めた方を含む）
带状疱疹	ビケン	7,576	444	5.9		年度年齢で65歳、70歳、75歳、80歳、85歳、90歳、95歳、100歳以上（60から64歳で医師が必要と認めた方を含む）
	シングリックス1回目	7,576	2,259	29.8		
	シングリックス2回目	7,586	2,147	28.3		

- ※ 日本脳炎：H23～積極的勧奨の差し控えにより接種機会を逃した者への接種機会の確保（H7.4.2生からH19.4.1生）
- ※ HPV(子宮頸がん予防)ワクチン：H25.6.14より積極的な勧奨の差し控えをしていたが、R4年度より勧奨再開。それに伴い、R4～6年度の3年間キャッチアップ接種事業を実施（勧奨が差し控えられていたH9年度～H17年度生まれを対象に開始、R5年度はH18年度生まれも対象、R6年度はH19年度生まれも対象）R7年度はH9年度～H20年度生まれの女性で、R4.4.1～R7.3.31までの間にHPVワクチンを1回以上受けた方は、R8.3.31までの間、残りの接種を公費で受けることが特例的な経過措置として認められた
- ※ 5種混合ワクチン：R6.4.1より定期接種・新型コロナワクチン：R6.10.1より定期接種
- ※ R6年度武田薬品工業株式会社のMRワクチンの出荷停止に伴う供給不足で接種できない状況があり。R7～8年度に経過措置実施

2 結核予防事業

(1) 乳幼児 BCG 接種状況

対象者数 (人)	接種者数 (人)	接種者数内訳（人）			接種率（%）	(参考) R6年度 接種率 (%)
		5か月未満	5か月以上 1歳未満	長期療養1歳以上 4歳未満		
858	825	2	823	0	96.2	98.1

- ※ H25年4月により対象年齢1歳未満
- ※ 病気により1歳までに接種出来なかった児を含む
- ※ R4.4.1より個別接種開始

(2) コッホ現象事例報告

(件)

報告数	5か月未満	5～8か月	8か月以降	ツベルクリン 実施	T-Spot	胸部X-P	判定
3	0	3	0	陽性 1	未実施 1	未実施 1	他医療機関紹介
				未実施 2	未実施 2	実施 2	非特異反応 2 (終了 2)

(3) 結核定期健康診断

65歳以上の方に対し、胸部X線検診を実施。
(第5の6参照)

3 愛知県広域予防接種（再掲）

(件)

2 種混合	4 種混合	5 種混合	ポリオ	MR1 期	MR2 期	日本脳炎	B型肝炎	ロタ
11	13	138	0	20	19	76	107	91

ヒブ	肺炎球菌	HPV	水痘	B C G	インフルエンザ	新型コロナ	高齢者肺炎球菌
3	141	27	50	32	1,407	367	8

带状疱疹(シング リックス 1 回目)	带状疱疹(シング リックス 2 回目)	带状疱疹 (ビケン)
41	32	4

4 指定医療機関外定期予防接種（再掲）

(件)

2 種混合	4 種混合	5 種混合	ポリオ	MR1 期	MR2 期	日本脳炎	B型肝炎	ロタ
0	0	24	0	1	0	5	17	16

ヒブ	肺炎球菌	HPV	水痘	B C G	インフルエンザ	新型コロナ	高齢者肺炎球菌
0	24	3	2	5	42	12	1

带状疱疹(シング リックス 1 回目)	带状疱疹(シング リックス 2 回目)	带状疱疹 (ビケン)
4	4	0

5 定期外予防接種

麻しん風しん混合（MR）			
1 期	13 人	2 期	0 人

6 おたふくかぜワクチン予防接種費用助成事業

対象者 1 歳～就学前（全額無料 ただし上限あり）

被接種者数
1,039 人

7 風しんワクチン予防接種費用助成事業

予防接種の種類

風しんワクチン（R）、又は麻しん風しんワクチン（MR）

（全額無料ただし上限あり）

対象者	風しん抗体検査の結果、風しんワクチンの接種が必要と判断されたもののうち、下記の要件を満たす男性及び女性	助成件数（件）
女 性	妊娠を予定又は妊娠を希望している女性	102 風しん (73) MR (29)
男 性	妊娠を予定又は妊娠を希望している女性と婚姻関係のある（事実上婚姻関係と同様の事情にある者を含む）男性	9 風しん (4) MR (5)
	妊娠中の女性と婚姻関係のある（事実上婚姻関係と同様の事情にある者を含む）男性	4 風しん (0) MR (4)
計		115 風しん (77) MR (38)

8 予防接種特別再接種費用助成事業

骨髄移植手術等により、定期予防接種で得た免疫が消失したお子様に対し再接種費用を助成。

再接種時の年齢が結核（BCG）は4歳、小児用肺炎球菌は6歳、ヒブ感染症は10歳、4種混合・5種混合は15歳、その他は20歳に達するまで。

（件）

5 種 混 合	日 本 脳 炎	水 痘	B 型 肝 炎
2	2	1	4

9 帯状疱疹予防接種費用の助成事業

経済的負担を軽減し健康の保持と増進を図ることを目的とし50歳以上の市民を対象に帯状疱疹ワクチンの接種に要する費用の一部を助成

乾燥弱毒生水痘ワクチン「ビケン」	シングリックス筋注用
110 件	1,267 件

第7 母子保健事業

第 7 母 子 保 健 事 業

育児に対する不安が強く、育児に不慣れな保護者が増えている現状において、保護者との信頼関係を築くことがその後の支援にとっても重要になる。そのため、保護者との出会いの場を大切にするとともに、切れ目のない支援をすることで信頼関係を構築する。

また、平成30年9月に妊娠期から子育て期にわたる切れ目のない支援の拠点として、子育て世代包括支援センターが開設された。関係機関と連携し、子育てに関するあらゆる相談に応じることで、親子を支援する。

- (1) 母子健康手帳を「親子健康手帳」と称し、父親と母親の双方が子育てに参加できるよう促す。また、妊婦との最初のお会いである親子健康手帳（母子健康手帳）交付時にアンケートを実施し、個々の状況に応じた相談支援を行うことで、信頼関係の構築を図る。
- (2) 些細な疑問でも気軽に相談できる体制を周知し、育児の孤立化を防ぐ。
- (3) 妊娠中の食生活が母体の健康維持や胎児の成長に与える影響について周知し、母子ともに健康に出産できるよう支援する。
- (4) 妊娠中からお口の健康に関して意識できるよう支援する。また、乳幼児健診の機会をとらえて母親の歯科健診を実施する。
- (5) 乳幼児健診での保護者との出会いを大切にして信頼関係を築き、育児に関する問題に対して支援する。また、乳幼児健診にて全ての子どもの発育発達を保護者とともに確認する。
- (6) 保護者が地域の中で安心して子育てができるよう支援する。
- (7) 「生と性」に関する知識を親子や地域に普及啓発し、いのちの大切さやありのままの自分が価値のある者であることを認める（自己肯定感）ことで、いきいきと生きる力を高めることができるよう支援する。

1 母子保健事業一覧

《保健センター》

不妊治療等助成事業
不育症治療等助成事業

《子育て世代包括支援センター》

予期せぬ妊娠相談（こまき妊娠SOS）

流産・死産の相談

低所得の妊婦に対する初回産科受診料支援事業

妊娠の届出
親子健康手帳の交付（個別交付）

※保健師・助産師による交付
※支援方針の判定
※個別支援計画の作成/見直し

妊婦健康診査（14回）
※多胎妊婦に対し公費妊婦健康診査5回追加

妊婦個別歯科健康診査（1回）

妊婦8か月時アンケート

産婦健康診査（2回）

新生児聴覚検査・乳児個別健康診査（2回）

新生児電話相談

未熟児訪問

新生児乳児訪問

母乳相談

1stアニバーサリー事業

産後ケア事業

児童館巡回育児相談

利用者支援事業（こども家庭センター型）（対面・電話相談・オンライン相談・訪問）

連携

にこにこむし歯予防教室

個別支援（面接・訪問）・いまねっと（電話相談）

4か月児健康診査
母親歯科健康診査

離乳食教室

1歳6か月児健康診査
歯科健康診査・フッ化物塗布

2歳3か月児歯科健康診査
フッ化物塗布・育児相談

3歳児健康診査
歯科健康診査・フッ化物塗布

5歳児健康診査

歯みがき教室
（対象：保育園・幼稚園・
こども園の小学4年生）

小牧市中学生ピロリ菌検査
（対象：中学2年生）

母子保健推進協議会
・生と性のカリキュラム

運動発達相談

臨床心理士による相談

なかよし教室

おひさまサロン

2 親子健康手帳（母子健康手帳）交付

(1) 目的

ア 親子健康手帳（母子健康手帳）交付の機会をとらえ、父親母親との関係を築き、産前産後の不安がある時に、一人で悩まずに問題解決に向かって行動できる親に成長できるよう支援する。

イ 市独自の親子健康手帳（母子健康手帳）を活用することで、父親母親としての意識を高め「二人で子育て」ができるよう支援する。また、二人で作り上げた親子健康手帳（母子健康手帳）により、子どもが「愛され成長してきたこと」を実感し、「命の大切さ、尊さ」を学ぶために、活用してもらえるように働きかける。

ウ 母乳育児の推進に向け支援する。

(2) 交付場所

子育て世代包括支援センター

(3) 交付方法

予約時にアンケートを回答してもらい、交付時に保健師・助産師による面接・相談を実施する。

(4) 発行数

親子健康手帳（母子健康手帳）発行数（多胎児、再交付含む） 946人

	妊娠届出数	妊娠週数					年齢		就業者数	喫煙者数	飲酒者数
		11週以内	12～19週	20～27週	28週以上	不詳	20歳未満	40歳以上			
実数（人）	874	813	42	14	5	0	15	50	693	17	5
率（％）	100	93.0	4.8	1.6	0.6	0.0	1.7	5.7	79.3	1.9	0.6

(5) 外国語母子健康手帳総発行数〔うち（ ）内は再発行分〕

(人)

ポルトガル語	スペイン語	タガログ語	英語	中国語	ハングル語	インドネシア語	タイ語	ネパール語	ベトナム語	計
20 (1)	13 (3)	4 (1)	32 (3)	1 (0)	1 (0)	8 (1)	1 (0)	1 (0)	101 (12)	182 (21)

(6) 親子健康手帳（母子健康手帳）交付時アンケート結果 （アンケート回答 946 人）
(人)

第一子	456	今まで赤ちゃんを抱っこした経験あり	388	育児の相談者なし	4
				育児の協力者なし	9
				育児の相談・協力者両方なし	1
				育児の相談・協力者両方あり	374
		今まで赤ちゃんを抱っこした経験なし	66	育児の相談者なし	4
				育児の協力者なし	2
				育児の相談・協力者両方なし	1
				育児の相談・協力者両方あり	59
		未 記 入	2		
第二子以降	490			育児の相談者なし	7
				育児の協力者なし	10
				育児の相談・協力者両方なし	3
				育児の相談・協力者両方あり	469
				未 記 入	1

3 妊婦・産婦・乳児個別健康診査

(1) 目的

妊婦・産婦・乳児の健康保持・増進及び異常の早期発見・早期治療を図る。

(2) 妊婦健康診査実施延人数、妊婦健康診査結果

[医療機関委託分、()内は県外医療機関・助産所での受診分]

(人)

	受診票交付数	受診		受診結果			
		延人数		異常なし		異常あり	
第1回	887	846	(4)	735	(4)	111	(0)
第2回	899	816	(11)	767	(11)	49	(0)
第3回	910	818	(11)	773	(11)	45	(0)
第4回	909	829	(6)	786	(6)	43	(0)
第5回	931	811	(14)	762	(13)	49	(1)
第6回	926	810	(8)	761	(8)	49	(0)
第7回	931	799	(16)	727	(16)	72	(0)
第8回	938	809	(16)	478	(15)	331	(1)
第9回	947	739	(41)	693	(38)	46	(3)
第10回	953	745	(60)	666	(56)	79	(4)
第11回	954	642	(53)	605	(52)	37	(1)
第12回	956	690	(58)	434	(55)	256	(3)
第13回	955	502	(48)	483	(46)	19	(2)
第14回	957	320	(31)	304	(31)	16	(0)
第15回	12	4	(0)	3	(0)	1	(0)
第16回	12	2	(0)	2	(0)	0	(0)
第17回	12	2	(0)	2	(0)	0	(0)
第18回	12	1	(0)	1	(0)	0	(0)
第19回	12	0	(0)	0	(0)	0	(0)
子宮がん検診	882	832	(3)	806	(3)	26	(0)
計	13,995	11,017	(380)	9,788	(365)	1,229	(15)

※ R3.4～ 多胎妊婦に対して、妊婦健康検査受診票 5 回分追加交付 (第15～19回)

(3) 産婦健康診査実施延人数、産婦健康診査結果

[医療機関委託分、()内は県外医療機関での受診分]

(人)

	受診票交付数	受診延人数		受診結果			
				異常なし		異常あり	
第1回	952	764	(56)	672	(50)	92	(6)
第2回	952	716	(46)	670	(45)	46	(1)
計	1,904	1,480	(102)	1,342	(95)	138	(7)

(再掲) 産婦健康診査エジンバラ産後うつ病質問票 (EPDS) 結果
(人)

	①合計9点以上		②自殺念慮・ 自殺企図 1点以上		①かつ②		実施なし	
第1回	38	(5)	9	(0)	15	(1)	11	(5)
第2回	23	(2)	4	(0)	9	(0)	7	(4)
計	61	(7)	13	(0)	24	(1)	18	(9)

(4) 新生児聴覚検査実施延人数、新生児聴覚検査結果
[医療機関委託分、() 内は県外医療機関での受診分]

(人)

	受診票 交付数	受診 延人数		受診結果			
				異常なし		異常あり	
新生児聴覚検査	960	721	(56)	714	(56)	7	(0)

(5) 乳児健康診査実施延人数、乳児健康診査結果
[医療機関委託分、() 内は県外医療機関での受診分]

(人)

	受診票 交付数	受診 延人数		受診結果			
				異常なし		異常あり	
第1回	968	753	(53)	700	(46)	53	(7)
第2回	1,020	659	(2)	615	(2)	44	(0)
計	1,988	1,412	(55)	1,315	(48)	97	(7)

4 健康診査事業

(1) 4か月児健康診査

ア 目 的

育児不安を解消するとともに、今後保健センターが保護者にとって身近な相談機関としての位置づけを確立していく。

また、全身の健康状態、発育・発達、栄養、保育環境等を確認することで、疾病や障がいの早期発見に努め、適切な早期治療や療育を受けることができるように支援する。

イ 対 象

市内在住の4か月児

ウ 実施回数

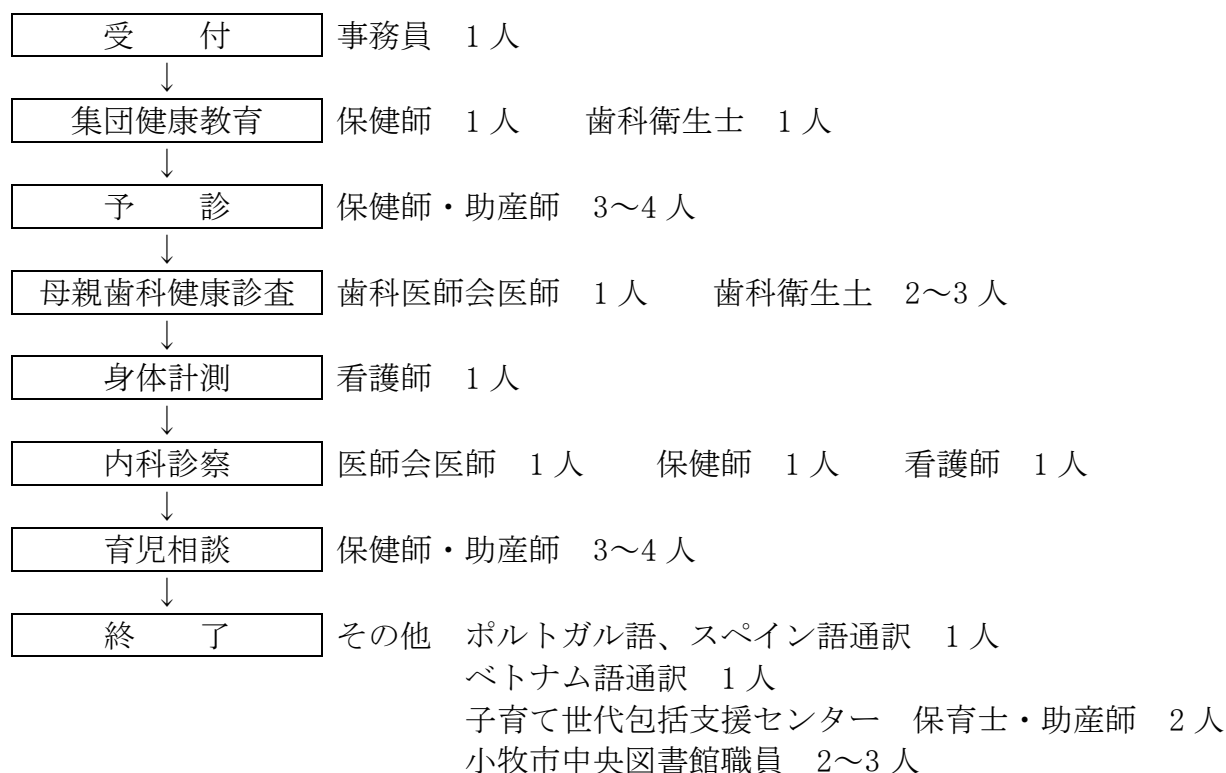
36回

エ 周知方法

個人通知

オ 実施内容

内科診察、身体計測、集団健康教育、育児相談、母親歯科健康診査



カ 結 果

疾病の発見		対象者数	868	男児	444	女児	424
		受診者数	841	男児	431	女児	410
発育		97パーセンタイル超	90パーセンタイル超	90～10パーセンタイル	10パーセンタイル未満	3パーセンタイル未満	
	体重	14	36	693	78	20	
	身長	16	37	729	41	18	
	頭囲	7	19	739	58	18	
	身体発育不良	所見なし	1～2階級	2階級超			
		760	53	28			
		所見なし	所見あり				
神経系	筋緊張	838	3				
	反射	841	0				
運動発達	定額	786	55				
	手の握り（物をつかまない）	839	2				
	姿勢	841	0				
精神発達	笑わない	841	0				
	声が出ない	841	0				
	視線が合わない	839	2				
感覚器	追視	831	10				
	聴覚異常	836	5				
循環器	心音異常	829	12				
消化器	腹部腫瘍	841	0				
泌尿生殖器	そけいヘルニア	839	2				
	停留精巣（男児）	427	4				
	仙骨皮膚洞・腫瘍	836	5				
	外性器異常	838	3				
股関節	股関節開排制限	727	114				
皮膚	血管腫	827	14				
	湿疹	796	45				
	被虐待跡	841	0				

保健指導・支援

授乳		支援不要	自ら対処可能	保健機関継続支援	他機関連携支援
		519	301	21	0
栄養方法		母乳	人工	混合	
	1か月時	242	111	488	
	3～4か月時	275	303	263	
生活習慣	メディアの視聴	いいえ	はい	無記入	
		709	93	39	

(2) 1歳6か月児健康診査

ア 目 的

親と子のかかわりが一番大切な時期をとらえ、今後も親子が心身ともに健康な生活を送ることができるよう支援する。

また、軽度の障がいを見出しやすいこの時期に、見逃さずに適切な支援をしていく。

イ 対 象

市内在住の1歳6か月児

ウ 実施回数

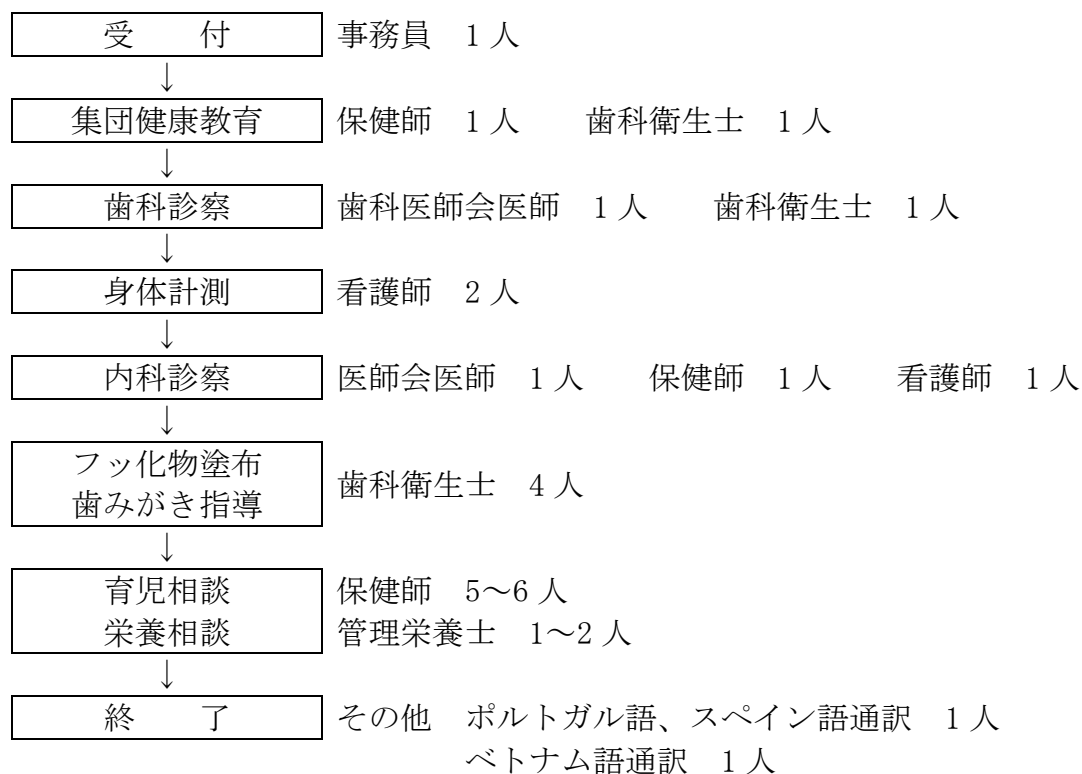
36回

エ 周知方法

個人通知

オ 実施内容

内科診察、歯科診察、身体計測、集団健康教育、成長の確認、育児相談、栄養相談、歯科相談、フッ化物塗布、歯みがき指導



カ 結 果

疾病の発見（医科）	対象者数	922	男児	467	女児	455
	受診者数	887	男児	446	女児	441
発育		97パーセンタイル超	90パーセンタイル超	90～10パーセンタイル	10パーセンタイル未満	3パーセンタイル未満
	体重	49	88	676	52	22
	身長	36	69	706	49	27
		所見なし	1～2階級	2階級超		
	身体発育不良	848	38	1		
運動 発達		所見なし	所見あり			
	歩行の遅れ	858	29			
	胸郭・脊柱の変形	886	1			
	歩容	886	1			
	0脚	887	0			
	手の使い方が未熟	732	155			
精神 発達	発語の遅れ	523	364			
	視線が合わない	549	338			
	指示理解の遅れ	550	337			
	多動	620	267			
感覚器	斜視	886	1			
	聴覚異常	887	0			
消化器	腹部腫瘤	886	1			
	臍ヘルニア	887	0			
泌尿 生殖器	停留精巣（男児）	442	4			
	そけいヘルニア	886	1			
皮膚	アトピー性皮膚炎	882	5			
	被虐待跡	887	0			

保健指導・支援

生活習慣 ・食習慣	朝食	ほぼ毎日食べる	週4～5日食べる	週2～3日食べる	ほとんど食べない	無記入
		840	16	7	9	15
	就寝時間	9時前	9時台	10時台	11時以降	無記入
		393	363	86	16	29
	メディアの視聴	いいえ	はい	無記入		
		566	313	8		

(3) 3歳児健康診査

ア 目 的

発達が著しく心も体も転換期を迎えて、人間としての基本が培われる時期をとらえ、成長を親と確認し、心身ともに健康な生活を送ることができるよう支援する。
また、疾病を早期に発見し、適切な治療をうけることができるよう支援する。

イ 対 象

市内在住の3歳児

ウ 実施回数

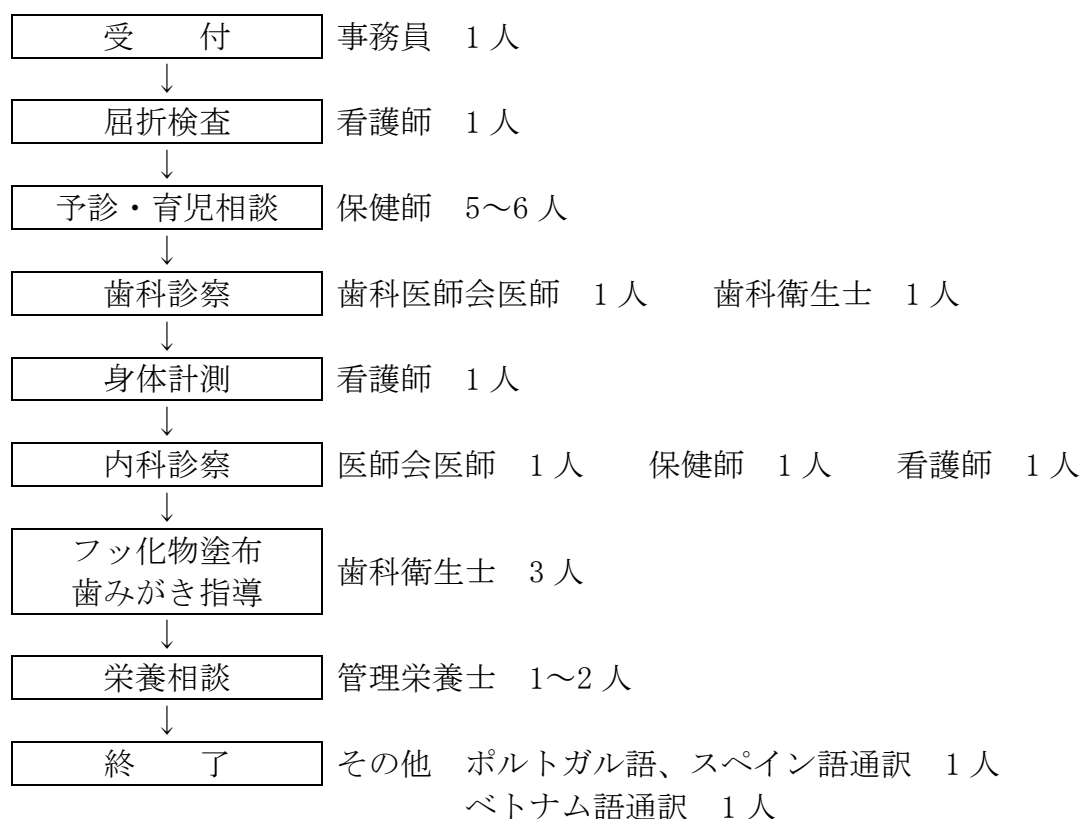
36回

エ 周知方法

個人通知

オ 実施内容

内科診察、歯科診察、身体計測、成長の確認、育児相談、栄養相談、歯科相談、フッ化物塗布、歯みがき指導、屈折検査（スポットビジョンスクリーナー）



カ 結 果

疾病の発見（医科）		対象者数	982	男児	520	女児	462	
		受診者数	963	男児	504	女児	459	
発育		ふとりすぎ	ややふとりすぎ	ふとりぎみ	ふつう	やせ	やせすぎ	無記入
	肥満度	5	19	31	902	1	1	4
		所見なし	10パーセンタイル未満	3パーセンタイル未満	無記入			
	低身長	795	96	68	4			
		所見なし	1～2階級	2階級超				
	身体発育不良	917	46	0				
運動発達		所見なし	所見あり	無記入				
	胸郭・脊柱の変形	963	0	0				
	歩容	963	0	0				
	0脚	963	0	0				
	母指と示指で輪ができない	690	272	1				
精神発達	発語の遅れ	774	186	3				
	視線が合わない	767	195	1				
	指示理解の遅れ	727	236	0				
	多動	660	302	1				
	吃音	954	9	0				
皮膚	アトピー性皮膚炎	956	7	0				
	被虐待跡	963	0	0				
感覚器	視覚検査	異常なし	管理中	異常の疑いあり	無記入			
		509	15	228	211			
	聴覚検査	異常なし	主治医管理	異常の疑い（滲出性中耳炎等）	異常の疑い（難聴等）	無記入		
		722	22	38	120	61		

保健指導・支援

生活習慣 ・食習慣	朝食	ほぼ毎日食べる	週4～5日食べる	週2～3日食べる	ほとんど食べない	無記入
		907	28	14	12	2
	就寝時間	9時前	9時台	10時台	11時以降	無記入
		240	446	228	44	5
	メディアの視聴	いいえ	はい	無記入		
		490	471	2		
	排泄の自立	できる	手伝えばできる	できない	無記入	
		210	398	343	12	

(4) 5歳児健康診査

ア 目 的

言語理解や社会性が高まり、就学に向けて心身の発達が大きく育つ時期をとらえ、成長を親と確認し、心身ともに健やかな生活を送ることができるよう支援する。

イ 対 象

市内在住の5歳児

ウ 実施回数

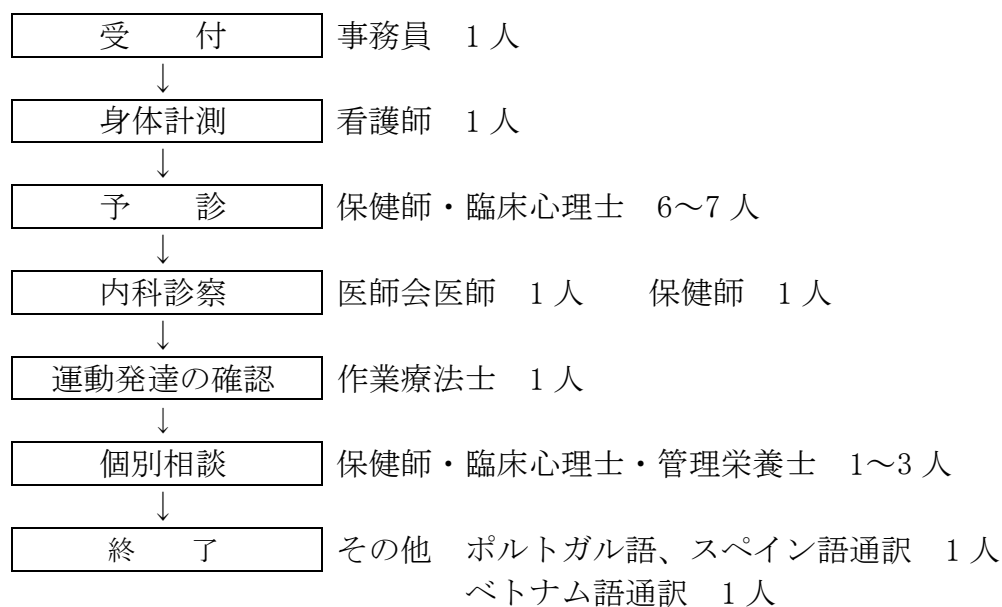
36回

エ 周知方法

個人通知

オ 実施内容

内科診察、身体計測、成長の確認、育児相談



カ 結果

疾病の発見(医科)		対象者数	948	男児	493	女児	455
		受診者数	878	男児	460	女児	418
発育		97パーセント イル超	90パーセント イル超	90～10パーセ ンタイル	10パーセント タイル未満	3パーセンタ イル未満	無記入
	体重	22	49	712	65	29	1
	身長	20	41	670	93	53	1
		所見なし	所見あり	無記入			
	身体的発育異常	782	95	1			
運動発達	運動機能異常	750	128	0			
精神発達	理解に関する課 題	602	276	0			
	情緒の問題	809	68	1			
	行為の問題	745	133	0			
	多動・不注意	593	285	0			
	仲間関係の問題	618	260	0			
	こどもの遊び(外 遊び)の問題	838	40	0			
感覚器・ その他の 異常	目の異常	821	57	0			
	耳の異常	845	33	0			
	発音不明瞭	710	168	0			
	その他(いびき・ 無呼吸等)	876	2	0			
皮膚	湿疹・アトピー 性皮膚炎・あ ざ・その他	875	3	0			

保健指導・支援

生活習慣・育児環 境等		所見なし	所見あり	無記入
	食事の問題	598	280	0
	歯みがきの問題	745	133	0
	排便の問題	800	78	0
	メディア視聴の 問題	414	464	0
	睡眠に関する問 題	698	180	0
	養育環境の問題	607	270	1
	健康の社会的決 定要因	642	236	0

(5) 乳幼児健診未受診者支援事業

ア 経緯

近年全国的に、乳幼児健診や小学校・中学校入学をきっかけとして児の所在を把握し、担当課だけではなく横断的に状況を把握したうえで、必要に応じてその後の支援につなぐ重要性が謳われている。

保健センターでも、H24年10月から、家庭における育児力を高めるために必要な支援のひとつとして、乳幼児健診未受診者の支援体制を整備し、健診受診率の向上及び未受診者の支援に力を注いでいる。

イ 事業目的

乳幼児健診未受診者の保護者に対して受診勧奨を行い、未把握者を無くすとともに健診受診率の向上に努める。その過程において、子どもの成長発達を確認し支援するとともに、保護者との関わりを深め信頼関係を築くことで、保護者が育児をする上で抱えている不安や問題の有無を把握して支援し、親子の健全な生活を保障していく。

ウ 未受診者抽出時期及び抽出対象者、支援対象者

(ア) 4か月児健診・1歳6か月児健診・3歳児健診未受診者

対象となる健診日から1回後の健診日までに受診しない者

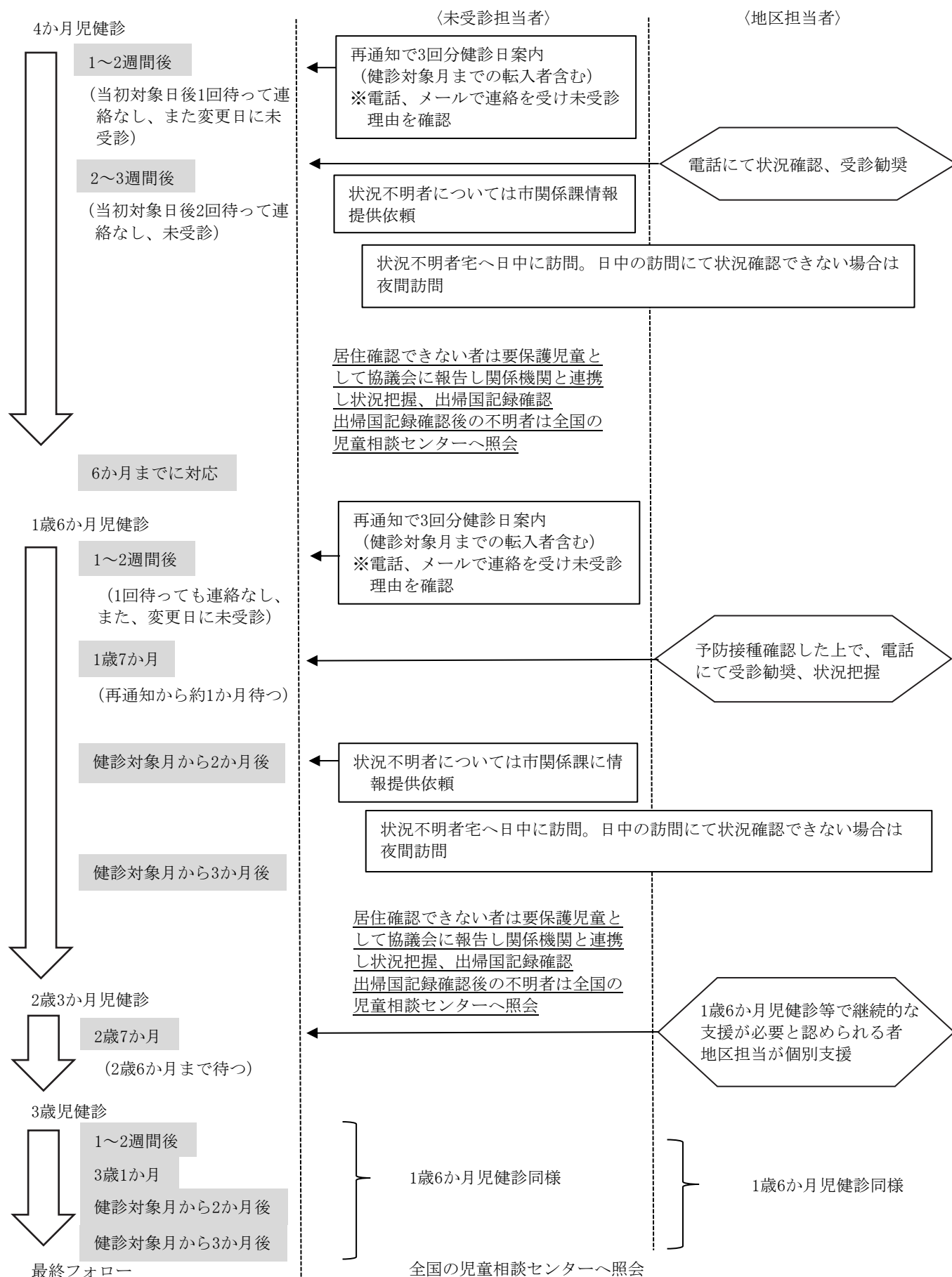
※受診日変更者、他機関受診、転出、海外在住等何らかの理由があつて保護者から連絡がきている者についても、その時点では抽出対象とする。しかし、受診日変更者の中で予定通り受診した者は、その後の支援対象者から除く。

※転入者については、「健診対象者名簿」出力後から健診対象月の末日までを未受診者としての抽出対象とする。

(イ) 2歳3か月児歯科健診未受診者

2歳6か月の健診日までに保護者からの連絡が無い未受診者の中で、1歳6か月児健診等で継続支援が必要と認められる者

エ 乳幼児健診未受診者支援体制



オ 乳幼児健診未受診者支援結果

(ア) 未受診者支援における健診対象者

※健診対象者名簿出力後から健診対象月までに転入した者、及びその後の転入者で転入前の市町村において健診を受けていない者、住民基本台帳にて職権消除されたものを含む

a 令和6年度健診対象者

〈4か月〉 令和5年12月1日生まれ～令和6年11月20日生まれ

〈1歳6か月〉 令和4年10月1日生まれ～令和5年9月30日生まれ

〈3歳〉 令和3年4月1日生まれ～令和4年3月31日生まれ

b 令和7年度健診対象者は、令和8年度支援継続中

(イ) 未受診者支援実施時期

令和6年度健診対象日後1回健診を過ぎた日から未受診者全ての受診確認または状況把握した時期

(ウ) 結果 ※令和6年度受診対象者のみ

(人)

	4か月	1歳6か月	3歳	詳細説明
未受診者支援における健診対象者	917	1,003	1,052	受診月までの転入者、職権消除者、令和5年度未受診者を含む
未受診支援対象者	76	97	127	保護者から受診日変更連絡あり、変更日に受診した者は除く
再通知、電話、訪問により受診につながった者	28	57	76	
未受診者	48 (5.2%)	40 (4.0%)	51 (4.8%)	

(エ) 未受診者の把握状況内訳 ※令和6年度受診対象者のみ

(人)

		4か月児健診			1歳6か月児健診			3歳児健診		
		最終結果	未受診者の把握状況比率	(再掲)本人または保護者が外国籍者	最終結果	未受診者の把握状況比率	(再掲)本人または保護者が外国籍者	最終結果	未受診者の把握状況比率	(再掲)本人または保護者が外国籍者
当市健診未受診者数		48	—	20	40	—	0	51	—	15
他市にて受診		3	6.3%	0	0	—	0	0	—	0
医療機関にて受診		3	6.3%	1	0	—	0	1	2.0%	0
保健師による確認		2	4.2%	0	4	10.0%	2	8	15.7%	1
※1他に重複項目を満たす者	保育園等在園者	0		0	0		0	1		0
	幼稚園等在園者							0		0
情報提供により保育園在園中と確認できたため見守りを依頼		0	—	0	0	—	0	0	—	0
情報提供により幼稚園在園中と確認できたため見守りを依頼								0	—	0
居住していない者		29	60.4%	8	23	57.5%	8	18	35.3%	9
※2居住していない者の内訳	転出者及び職権消除者(市が出国を確認した者のみ)	24		5	11		2	10		3
	出帰国記録にて出国確認	4		3	12		6	8		6
その他		2	4.2%	0	0	—	0	1	2.0%	0
※3その他の者の内訳	入院中	1		0	0		0	1		0
	死亡	1		0	0		0	0		0
	他機関確認	0		0	0		0	0		0
未把握者数		10	20.8%	4	13	32.5%	4	23	45.1%	5

※1, 2, 3 : 再掲

(人)

未把握者内訳	4か月児健診			1歳6か月児健診			3歳児健診		
	最終結果	未受診者の把握状況比率	(再掲)本人または保護者が外国籍者	最終結果	未受診者の把握状況比率	(再掲)本人または保護者が外国籍者	最終結果	未受診者の把握状況比率	(再掲)本人または保護者が外国籍者
当市受診	9	90.0%	4	9	69.2%	3	16	69.6%	4
他市にて受診	0	—	0	0	—	0	1	4.3%	0
医療機関にて受診	1	10.0%	0	0	—	0	0	—	0
保健師による確認	0	—	0	3	23.1%	0	2	8.7%	2
情報提供により保育園在園中と確認できたため見守りを依頼	0	—	0	0	—	0	1	4.3%	1
情報提供により幼稚園在園中と確認できたため見守りを依頼							1	4.3%	0
転出・消除(市が出国確認済のみ)	0	—	0	0	—	0	1	4.3%	1
出帰国記録にて出国確認	0	—	0	1	7.7%	1	1	4.3%	0

5 健康教育事業

(1) 離乳食教室（初期：ごっくん教室、後期：かみかみ教室）

ア 目的

- 保護者に対し、離乳食の意義や進め方について、正しい知識を伝え、家族を含めた健康づくりを考える意識を発展させる。さらに、参加者同士が交流することで、育児に関する情報交換や友達作りができる機会を提供する。
- 乳歯が萌出しはじめ、食事の内容が変化する時期にある子とその保護者を対象に、口腔内に関心が高まる時期を捉え、むし歯予防に関する知識の普及を図り、歯科保健に対する知識の改善及び行動変容を促すことを目的とする。

イ 対象

ごっくん教室(初期)：4か月児以降の保護者、赤ちゃんの出席可
かみかみ教室(後期)：9か月児以降の親子

ウ 回数

ごっくん教室、かみかみ教室ともに年12回

エ 周知方法

- (ア) 親子健康手帳(母子健康手帳)交付時に案内文配布
- (イ) 市ホームページによる案内
- (ウ) 4か月児健診時に案内文配布

オ 実施内容

- (ア) 離乳食初期・後期の講話
- (イ) 集団歯科指導（かみかみ教室のみ）
- (ウ) 個別相談、質疑応答

カ スタッフ

管理栄養士、歯科衛生士

キ 実施状況

(組)

ごっくん教室	第1子	第2子以降	計	かみかみ教室	第1子	第2子以降	計
4月10日	10	2	12	4月25日	4	0	4
5月14日	6	2	8	5月30日	5	1	6
6月11日	9	1	10	6月27日	3	0	3
7月9日	8	0	8	7月25日	3	1	4
8月6日	2	0	2	8月29日	4	2	6
9月10日	6	2	8	9月26日	4	1	5
10月8日	11	3	14	10月24日	3	0	3
11月5日	4	1	5	11月28日	3	0	3
12月3日	2	0	2	12月19日	3	1	4
1月14日	11	1	12	1月30日	4	1	5
2月4日	6	2	8	2月27日	1	0	1
3月4日	7	0	7	3月13日	3	1	4
合 計	82	14	96	合 計	40	8	48

(2) 健康教育

ア 「生と性のカリキュラム」 関係

＜高校＞「望まない妊娠と性感染症について」

対 象：高校生

目 的：望まない妊娠や性感染症についての知識を持つとともに、自分や相手の生き方を大切にする気持ちをはぐくむ。

	実施日	実施学校名	生徒数 (人)
1	6月15日	小牧（全日）	245
2	7月18日	小牧（定時）	33
3	11月12日	小牧南	231
4	2月12日	小牧工科	118
計			627

＜中学校＞「すてきな大人になろう～性感染症について～」

対 象：中学3年生

目 的：性感染症についての知識を持つとともに、男女交際のあり方やお互い相手に思いやりを持つことの大切さを気づかせる。

	実施日	実施学校名	生徒数 (人)
1	6月20日	応時	197
2	7月14日	桃陵	141
3	7月15日	篠岡	46
4	9月8日	北里	120
5	11月7日	小牧	245
6	11月19日	岩崎	118
7	12月10日	小牧西	70
8	12月17日	味岡	201
9	2月10日	光ヶ丘	62
計			1,200

＜小学校＞「おへそのひみつ」

対 象：小学2年生とその保護者

目 的：いのちの大切さを知り、かけがえのない自分を大切にできる。自己肯定感を育むことができるようにする。

	実施日	実施学校名	生徒数/保護者 (人)
1	6月21日	小木	47/0
2	6月21日	本庄	94/88
3	9月20日	篠岡	32/40
4	10月15日	米野	127/120
5	10月16日	北里	75/90
6	11月12日	小牧原	79/0
7	11月13日	小牧南	98/90
8	12月3日	光ヶ丘	50/0
9	12月15日	味岡	111/0
10	12月17日	一色	75/0
11	1月16日	大城	45/0
12	1月21日	小牧	119/0
13	1月22日	陶	22/21
14	1月29日	桃ヶ丘	24/0
15	1月29日	村中	50/38
16	1月31日	三ツ淵	41/35
計			1,089/522

<幼稚園・保育園>「わたしのだいじなからだ」

対 象：幼稚園・保育園年長児とその保護者

目 的：自分や相手を大切と感ずることができる。

	実施日	実施園名	園児/保護者/保育関係者（人）
1	5月14日	陶保育園	15/0
2	5月15日	レイトン保育園	21/0
3	6月2日	太陽幼稚園	49/0
4	6月10日	北里保育園	14/0
5	6月12日	本庄保育園	32/6
6	6月18日	第二保育園	23/0
7	6月19日	古雅保育園	16/0
8	6月20日	じょうぶし保育園	28/0
9	7月14日	三ツ渚北保育園	13/6
10	8月5日	大城保育園	21/0
11	8月28日	味岡保育園	41/0
12	9月25日	一色保育園	26/0
13	10月28日	岩崎保育園	32/0
14	12月19日	三ツ渚保育園	14/0
15	2月20日	第一幼稚園	31/8
16	8月1日	一般編（ふらっとみなみ）	15/7/1
計			391/27/1

イ 職業人体験学習関係

	実施日	実施学校名	生徒数（人）
1	5月27日～28日	北里	2
2	9月9日～11日	味岡	2
3	11月5日～7日	小牧西	2
4	11月27日～28日	応時	2
5	12月9日～11日	岩崎	2
6	12月16日～18日	小牧	2
計			12

ウ 管理栄養士対応健康教育（母子保健関係）

	実施日	内容	対象	人数（人）
1	7月30日	おやこの食育教室	市民	20
2	9月8日	離乳食のポイント	小規模施設長他	37
3	11月3日	子どもの食事の困り事	児童館指導員	11

(3) 生と性に関するカリキュラムの推進への取り組み

ア 自己肯定感の醸成

(ア) 4か月児健康診査の健康教育

子どもの心の成長の基本となる親子の愛着形成及び自己肯定感について伝える。

(イ) 乳幼児健康診査におけるサポートプランの配布

4か月児健康診査、1歳6か月児健康診査、3歳児健康診査、5歳児健康診査にて、保健師より親子の自己肯定感醸成のため、育児の見通しや保護者へのメッセージを伝え、サポートプランを配布。

(ウ) 親子で学ぶ性教育の実施

中央図書館イベントスペースにて性教育情報について展示。

(令和7年7月11日～7月17日)

イ 小牧市HP「安心相談窓口」周知

- ・小牧市ホームページ内に相談窓口を記載した「安心相談窓口」を作成、周知。令和7年度より市内中学校にて生徒に配布しているタブレットに、「安心相談窓口」に繋がるアイコンを設置し、タブレット内で確認できるよう設定。

6 相談事業

(1) 母乳相談

ア 目的

母親が母乳に関して持っている心配や疑問を気軽に相談でき、個々に応じた授乳方法を確立できるよう援助する。

母乳育児が親子の絆を深め、最後までよりよい状態で終了できるように、卒乳に向け援助する。

イ 対象

- (ア) 母乳育児に関して心配や疑問を持つ妊婦
- (イ) 母乳育児確立のための支援が必要な母子
- (ウ) 授乳をはじめとした育児に心配や疑問を持つ母親

ウ 実施日数

60日/年（予約制）

エ 周知方法

- (ア) 市ホームページによる案内
- (イ) 親子健康手帳（母子健康手帳）交付時に紹介
- (ウ) 市内産婦人科・小児科にポスターを設置
- (エ) 相談・訪問や4か月児健診において母乳育児に関して、心配や疑問を持っている母親に対して案内

オ 実施内容

- (ア) 妊娠中からの母乳育児の取り組みと乳房の手当ての指導
- (イ) 母乳に関するトラブル等母乳育児に関する相談
- (ウ) 授乳をはじめとした育児全般に関する相談
- (エ) 卒乳に関する相談

カ スタッフ

助産師

キ 実績

(人)

相談実人数	相談延べ人数
79	144

ク 相談内容内訳

(件)

相談内容		月齢	妊婦	1 か 月 未 満	1 か 月 ～ 2 か 月 未 満	2 か 月 ～ 3 か 月 未 満	3 か 月 ～ 4 か 月 未 満	4 か 月 ～ 5 か 月 未 満	5 か 月 ～ 6 か 月 未 満	6 か 月 ～ 9 か 月 未 満	9 か 月 ～ 1 歳 未 満	1 歳 ～ 1 歳 6 か 月 未 満	1 歳 6 か 月 ～ 2 歳 未 満	2 歳 以 上	内 容 別 延 べ 件 数 合 計
授乳について	授乳方法		0	0	8	26	34	7	17	25	17	0	0	0	134
	母乳量・ミルク量		0	0	8	23	34	7	17	22	13	0	0	0	124
	乳房トラブル		0	0	3	18	19	4	6	9	3	0	0	0	62
	乳房ケア		0	0	2	7	9	0	3	2	2	0	0	0	25
	断乳・卒乳		0	0	0	2	1	0	1	10	15	1	0	0	30
	その他		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
育児について	体重増加		0	0	8	26	35	7	17	25	19	7	0	0	144
	その他		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他	育児		0	0	8	25	35	7	17	25	19	7	0	0	143
	離乳食		0	0	0	8	22	4	17	25	19	7	0	0	102
	母自身 (精神面含む)		0	0	1	0	7	1	5	11	11	5	0	0	41
	その他		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
月齢別相談数			0	0	38	135	196	37	100	154	118	27	0	0	805

(2) 市内児童館巡回育児相談、妊産婦健康相談

ア 目的

市内児童館を巡回し、子どもの発育・発達に関する相談や保護者の育児に関する相談に対して個別に支援するとともに、相談者同士が交流の場を持ちお互いに学び合える場となるよう支援する。

イ 対象

相談を希望する者（予約制）

ウ 周知方法

(ア) 市ホームページでの案内

(イ) 親子健康手帳（母子健康手帳）交付時に案内

(ウ) 市内各児童館・産婦人科・小児科にポスターを設置

エ 実施内容

(ア) 育児相談：育児相談、身体計測（各自自由計測）

(イ) 妊産婦健康相談：健康相談、身体計測、血圧測定

オ スタッフ
保健師、助産師

カ 実 績

(人)

	年回数	乳児	幼児	妊婦	産婦	母親	計
小牧児童館	4	2	2	0	0	0	4
小牧南児童館	4	6	8	0	0	0	14
味岡児童館	4	4	2	0	0	0	6
篠岡児童館	4	5	3	0	0	0	8
大城児童館	4	3	1	0	0	0	4
北里児童館	4	4	2	0	0	0	6
西部児童館	4	1	2	0	0	1	4
計	28	25	20	0	0	1	46

キ 相談内容内訳

(件)

		身体計測 (人)	相談 (人)	相談内容（再掲・重複あり）											延べ利用	
				発育	発達	栄養	母乳	排泄	育児	生活リズム	病気	歯科	情報提供	その他	件数	
小牧 児童館	乳児	2	2	2	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	4	8
	幼児	2	2	1	0	1	1	0	0	1	0	0	0	0	4	
	妊婦	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	産婦	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	母親	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
小牧南 児童館	乳児	8	6	11	1	6	5	1	1	3	1	0	0	0	29	45
	幼児	9	8	2	4	4	3	0	1	0	0	0	1	1	16	
	妊婦	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	産婦	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	母親	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
味岡 児童館	乳児	4	4	4	3	3	4	0	1	2	0	0	2	0	19	25
	幼児	2	2	1	2	1	0	0	1	0	0	1	0	0	6	
	妊婦	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	産婦	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	母親	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
篠岡 児童館	乳児	5	5	2	2	5	4	0	0	0	0	0	0	1	14	24
	幼児	4	3	2	1	3	1	0	0	1	0	2	0	0	10	
	妊婦	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	産婦	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	母親	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
大城 児童館	乳児	6	3	1	0	3	1	0	0	0	0	0	0	0	5	7
	幼児	4	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	2	
	妊婦	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	産婦	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	母親	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
北里 児童館	乳児	4	4	2	3	2	2	0	0	3	0	1	0	0	13	19
	幼児	2	2	1	1	2	0	0	0	0	0	0	0	2	6	
	妊婦	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	産婦	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	母親	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
西部 児童館	乳児	1	1	1	0	1	0	0	0	1	0	0	0	1	4	12
	幼児	2	2	2	0	2	0	0	0	1	0	1	0	1	7	
	妊婦	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	産婦	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	母親	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	
計	乳児	30	25	23	9	22	16	1	2	9	1	1	2	2	88	140
	幼児	25	20	9	9	13	5	0	2	3	0	4	2	4	51	
	妊婦	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	産婦	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	母親	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	

ク その他

児童館巡回育児相談は、相談件数の減少、同一相談者が各児童館への来所等があり、また各相談でも対応可能であるため、令和7年度をもって終了とする。

(3) 2歳3か月児歯科健康診査時育児相談

ア 実施回数 24回

イ 相談者数

(人)

	相談者数
男	433
女	415
計	848

ウ 分類別相談内容

(件)

	C：当日指導		B：要経過観察		計		
	男	女	男	女	男	女	合計
発育	1	0	0	0	1	0	1
精神発達	45	37	211	139	256	176	432
言語発達	9	2	20	13	29	15	44
運動発達	1	0	2	4	3	4	7
疾病	3	5	1	1	4	6	10
家庭環境	3	6	10	11	13	17	30
生活習慣	1	1	0	1	1	2	3
食習慣	11	5	1	3	12	8	20
その他	12	26	5	2	17	28	45

(4) 栄養相談

(件)

	4か月児 健診	1歳6か月児 健診	2歳3か月児 健診	3歳児健診	5歳児健診	定例外	合計
離乳食	4	1	0	0	1	20	26
少食	0	4	1	2	0	0	7
過食	0	0	0	0	0	0	0
食物アレルギー	0	1	0	0	0	0	1
偏食	0	1	5	5	4	1	16
遊び食べ・ムラ	0	0	1	0	0	0	1
間食	0	0	0	0	0	0	0
下痢	0	0	0	0	0	0	0
便秘	0	0	0	0	0	0	0
肥満	0	0	0	0	0	1	1
やせ	0	0	0	0	0	0	0
母乳・ミルク	0	0	0	0	0	0	0
水分	0	0	0	0	0	0	0
生活リズム	0	0	0	0	0	0	0
咀嚼	0	1	1	1	0	0	3
バランス	0	0	0	0	0	1	1
病態栄養	0	0	0	0	0	0	0
食生活	0	6	9	3	5	3	26
その他	0	0	0	1	0	0	1
合 計	4	14	17	12	10	26	83

(5) 母子電話相談

ア 目 的

育児相談専用電話を設置し親子の成長を支援する。

イ 電話件数

(件)

	乳児	幼児	学童	妊婦	産婦	母親	虐待	その他	計
一般電話	3	5	3	0	0	1	0	1	13

ウ 相談内容

(件)

		一 般 電 話								
		乳児	幼児	学童	妊婦	産婦	母親	虐待	その他	計
発育・ 発達	発達	0	0	1	0	0	0	0	0	1
	精神発達面	0	2	0	0	0	0	0	0	2
	運動発達面	0	0	0	0	0	0	0	0	0
医 学	疾病	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	病気・けがの 手当て	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	妊娠・出産	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	予防接種関係	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	歯科(う歯等)	0	0	0	0	0	0	0	0	0
基 本 的 生 活 習 慣 ・ 育 児	睡眠	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	排泄	0	1	0	0	0	0	0	0	1
	食事	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	哺乳関係	2	0	0	0	0	0	0	0	2
	歯科 (仕上げ磨き等)	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	情緒	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	育児一般	0	1	0	0	0	0	0	0	1
	習癖	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	家庭環境	0	0	0	0	0	1	0	0	1
	友達関係	0	0	0	0	0	0	0	0	0
そ の 他	情報提供(健 診・病院・サー クル関係)	0	1	1	0	0	0	0	1	3
	虐待	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	その他	1	0	1	0	0	0	0	0	2
計		3	5	3	0	0	1	0	1	13

エ 栄養電話相談（管理栄養士対応）

（件）

相談内容	電話相談 (相談者から＋栄養士から＋育児相談)
離乳食	39
少食	2
過食	0
食物アレルギー	2
偏食	3
遊び食べ・ムラ	1
間食	0
下痢	0
便秘	0
肥満	0
やせ	0
母乳・ミルク	1
水分	0
生活リズム	0
咀嚼	3
バランス	0
病態栄養	6
食生活	15
その他	1
合計	73

(6) 臨床心理士による相談

ア 目的

- (ア) 児の精神発達を確認し、親に対して生活でのかかわり方を指導し、今後の児の発達を促す。
- (イ) 父母の育児状況を確認し育児相談を実施することにより、今後の児の発達を促す。

イ 対象

- (ア) 各種乳幼児健康診査において発達相談の必要があったと思われる児
- (イ) 電話相談・訪問等で発達相談の必要があったと思われる児

ウ 講師

臨床心理士 2人

エ 実施内容

発達相談

オ 実施回数
年145回（1回につき3件）

カ 相談利用者における問題点、処遇の内訳

(件)

項目	件数	処遇内容									
		当日のみ	再相談へ	保健師 対応	なかよし 教室へ	おひさま サロンへ	療育の場 へ	次回健診 へ	児童館等	医療機関 へ受診	その他
言語発達	97	8	0	22	21	0	23	18	0	4	1
発音	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0
どもり	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0
全体の発達	114	21	5	37	11	1	21	12	0	2	4
理解	12	2	0	7	0	0	1	2	0	0	0
落ち着きがない	54	9	1	18	11	0	4	7	0	1	3
対人関係	33	3	0	15	2	0	5	6	0	2	0
コミュニケーション	4	1	0	2	0	0	0	0	0	0	1
人見知りが強い	12	1	2	3	0	0	2	4	0	0	0
かんしゃくが強い	22	6	1	6	2	0	2	4	0	0	1
こだわりが強い	4	0	0	1	0	0	0	3	0	0	0
情緒面	8	8	0	0	0	0	0	0	0	0	0
集団適応	3	2	0	0	0	0	1	0	0	0	0
育児	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
乱暴	5	0	0	0	2	0	2	0	0	1	0
かみつぎ	3	1	1	0	1	0	0	0	0	0	0
きりかえ	7	0	0	4	0	0	0	1	0	0	2
計	380	62	10	115	51	1	61	57	0	11	12

延相談件数	380 件
実相談件数	376 件

(7) 運動発達相談

ア 目 的

運動発達等に遅れのある子どもへのかかわり方を親に対して指導することにより、発達を促していく。

また、受診が必要な場合にはその行動がとれる親になれるように指導する。

イ 対 象

乳幼児健診、育児相談、訪問、なかよし教室・おひさまサロン等で、運動発達に関して相談が必要と思われる子どもと親

ウ 講 師

作業療法士 2人

エ 実施内容
運動発達相談

オ 実施回数
年18回

カ 内 訳

個別面接(件)	訪問(件)	なかよし教室 おひさまサロン(回)
77 (10)	0	0

※()内は再来の掲載

キ 相談内容、処遇の内訳
(ア) 0か月～10か月まで

内容	件	処遇 (件)							
		当日のみ	運動発達 相談件数	保健師 フォロー	なかよし 教室へ	療育へ	次回健診 へ	医療機関 受診へ	その他
そり返りについて	1	0	0	1	0	0	0	0	0
首すわりについて	0	0	0	0	0	0	0	0	0
寝返りについて	0	0	0	0	0	0	0	0	0
お座りについて	1	0	0	1	0	0	0	0	0
ずりばい・ハイハイについて	1	0	1	0	0	0	0	0	0
つかまり立ちについて	0	0	0	0	0	0	0	0	0
1人歩きについて	0	0	0	0	0	0	0	0	0
全体の発達	2	0	0	2	0	0	0	0	0
疾病に伴う発達	2	0	0	1	0	0	0	0	1
その他(足底をつきたがらない、変化が嫌い など)	0	0	0	0	0	0	0	0	0

(イ) 10か月以降～1歳6か月まで

内容	件	処遇 (件)							
		当日のみ	運動発達 相談件数	保健師 フォロー	なかよし 教室へ	療育へ	次回健診 へ	医療機関 受診へ	その他
お座りについて	0	0	0	0	0	0	0	0	0
ずりばい・ハイハイについて	0	0	0	0	0	0	0	0	0
つかまり立ちについて	1	0	1	0	0	0	0	0	0
1人歩きについて	3	0	0	2	0	0	1	0	0
歩き方について	0	0	0	0	0	0	0	0	0
身体の使い方について	6	0	0	2	0	0	4	0	0
全体の発達	4	0	0	1	0	1	2	0	0
疾病に伴う発達	3	0	0	2	0	0	1	0	0
その他(足底をつきたがらない、変化が嫌い など)	0	0	0	0	0	0	0	0	0

(ウ) 1歳6か月以降

内容	件	処遇（件）							
		当日のみ	運動発達 相談件数	保健師 フォロー	なかよし 教室へ	療育へ	次回健診 へ	医療機関 受診へ	その他
つかまり立ちについて	0	0	0	0	0	0	0	0	0
1人歩きについて	6	0	0	2	0	1	1	1	1
歩き方について	6	2	0	0	0	2	1	0	1
身体の使い方について	26	5	4	7	0	3	3	0	4
全体の発達	12	1	0	4	0	2	3	2	0
疾病に伴う発達	3	0	2	0	0	1	0	0	0
その他(足底をつきたがらない、変化が嫌い など)	0	0	0	0	0	0	0	0	0

(8) なかよし教室

ア 目的

親子がいろいろな遊びを経験し、人とのかかわりを持つ中で、親が我が子の成長・発達に気付いたり、確認したり、親子のかかわりの楽しさを共感したりすることで、親子関係の大切さを知り、豊かな生活を送ることができる。

(ア) 親が子どもの姿（個性）を客観的に見つめ捉えることができる。

(イ) 親が子どもの姿（個性）に合わせたかかわり方ができる。

(ウ) 親が自己肯定感を高めて子育てに生かすことができる。

イ 対象

(ア) 発達に関して支援が必要な子どもの親

(イ) 付き合いにくさ、かかわりづらさを持つ子どもの親

(ウ) 子どもとの付き合い方を学びたい親

ウ スタッフ及び助言者

スタッフ：保健師、保育士、看護師

助言者：あさひ学園指導員

（療育的視点）（1クールに1回助言者として参加）

発達相談：心理相談員が担当（1クールにつき1回）

エ 支援方法

アー(ア)に対して

- ① 親が子どものありのままの姿（行動）を見つめることができるように、子どもと一緒に行動することを伝える。
- ② 行動の中での子どもの表情、働きかけに対しての反応、どんな行動、どんな声、言葉が聞かれたか等、親が子どもの行動を振り返ることができるようにする。
- ③ スタッフが子どもにかかわった時の子どもの姿（反応）を親に伝える（子どもの個性を伝える）。
- ④ 親と子どもが楽しくかかわることができる様子が見られる場面やその姿を共有する。

- ⑤ 客観的意見等を聞いて、親が子どもの個性に気づけるように子どもの姿を親と共に考える。

アー(イ)に対して

- ① 子どもの行動に親が合わせていけるように、子どもと一緒に行動することを伝える。
- ② 子どもと親が楽しくかかわることができる場面の設定をする。また、親が主体であると意識できるような設定をする。
- ③ 親が子どもの表情や態度を見て子どもの気持ちを感じ取り、共感・対応ができる親になれるように子どもの様子やかかわり方を助言する。
- ④ 親がかかわりづらいと思っていることを具体化し、かかわり方のノウハウを提供し、また今後参加できる場（療育、おひさまサロン、児童館等）の情報提供をする。

アー(ウ)に対して

- ① 教室の中での子どもとの関係において、子どもの受け止め方やかかわり方等、場面を通して親の行動を認めことばで伝える。
- ② 親が主体であることを親とスタッフ間の共通認識とする。（必要時以外は手出し、口出しをしない。）
- ③ 親に対して自信を持って子育てができるように、また、親自身の自己肯定感が高まるように働きかける。子育ての不安の緩和を図る。
 - I うまくいった体験・対応を繰り返す。
 - II できていることを認める。
 - III 居心地の良い教室を運営する。

オ 実施内容

自由遊び、親子遊び、飲水、助言者による個別相談（必要に応じて）、カンファレンスでのケース検討会

カ 実施状況

42回／年（1コース6回、年7クール実施）

実施月	回数(回)	参加児(人)	延参加児(人)
4・5月	6	16	88
6・7月	6	14	74
7・8・9月	6	14	65
9・10月	6	16	78
11・12月	6	13	58
12・1・2月	6	18	93
2・3月	6	10	50
計	42	101	506

(9) おひさまサロン

ア 目的

親がなかよし教室で感じ取った体験（親子で楽しい体験、子どもの表情が変わった、どんなことが好きか等）をもとに、より具体的にその子に応じた働きかけやかかわり方を学び、毎日の生活に生かしていくことができるよう支援する場となる。

また、親には子どもに本来備わっている「育つ力」が十分発揮できるようなかかわりができていることを伝え、子育てに自信が持てるよう支援する。自己肯定感を高める。

イ 対象

なかよし教室終了後、より具体的な子どもとの付き合い方、働きかけ方（日常生活面や他児とのかかわり方等）を学びたい親

ウ スタッフ及び助言者

スタッフ：保育士、保健師

助言者：保健師（親支援やカンファレンスの必要時）

エ 支援方法

(ア) なかよし教室の様子をもとに、地区担当保健師が親と話し合い（親が具体的に知りたいことや子どもが獲得するとよい力、親が獲得する育児姿勢等）、参加目的を明確化する。

(イ) 参加目的に沿った支援をする。また、親に対して自信をもって子育てできるように親自身の自己肯定感が高まるように働きかける。また、子育ての不安の緩和を図る。

① うまくいった体験を繰り返す。

② できていることをほめる。

③ 安心して参加できる場を提供する。

④ 他の親子が成功している場面・かかわり方を紹介する。

(ウ) 子ども自身が、付き合いにくさ、かかわりづらさという個性をもつため、子どもが楽しい遊びを展開できるように支援する。また、親に助言をしていく。

(エ) 参加目的を評価する機会を（継続は4か月まで）設ける。

(オ) 保育士、地区担当保健師の役割

《保育士》

- ・親子の参加目的を知り、親のかかわり（親の姿勢）に焦点をあてたアドバイスを

- ・親の育児の頑張りを認め、親の自己肯定感を育てる。

《保健師》

- ・なかよし教室での評価をもとに、おひさまサロンに参加する目的を一緒に考える。

- ・親の育児の頑張りを認め、親の自己肯定感を育てる。

オ 実施内容

自由遊び、親子遊び、課題を持った遊び、基本的な生活習慣への働きかけ、カンファレンスでのケース検討会

カ 実施状況

実施回数	30 回
実参加児数	31 人
延参加児数	72 人

キ 事業開始時と比べ、早期に療育を希望される親子が増加し、おひさまサロンの需要は減少したため、令和7年度をもっておひさまサロンを終了することとなった。

7 訪問事業

(1) 保健センター保健師による妊婦・産婦・乳幼児訪問

ア 目 的

- (ア) 親子の健やかな成長を支援する。
- (イ) 出産前後の妊婦・産婦の時期からかわりを持つことにより、信頼関係を築き、出生後の母子の健康の見守り、育児の支援につなげる。
- (ウ) 育児に悩んでいるもしくは適切な養育が困難な状況で、保健センターや他の地域資源を利用できない家族へ支援する。

イ 対 象

家族の希望や乳幼児健康診査（健康診査未受診者含む）、電話相談等で必要が感じられた親子

ウ 訪問件数

(ア) 乳 児	178件
(イ) 幼 児	231件
(ウ) 妊 婦	67件
(エ) 産 婦	64件
(オ) 精神保健福祉	98件
(カ) 難 病	0件
(キ) 要対協管理ケース	111件
(ク) その他	58件
合 計	807件

エ 把握動機及び支援内容

		(件)
事例把握動機	ケース連絡	病院から
		58
		児童相談所から
		30
		保健所から
		0
	保育園等・こども政策課から	
		20
	他市から	131
	妊娠届出時	348
	低体重児届出時	8
	助産師訪問	6
	連絡員から	0
	4か月児健診	14
	1歳6か月児健診	36
	2歳3か月児健診	14
	3歳児健診	11
	健診未受診	62
	育児相談・発達相談・電話	40
	その他	29
計		807

		(件)
支援内容	援助	児の成長確認
		421
		育児状況
		472
		身体計測
		212
		受け止め
		248
		ことば
		62
		あそび
		102
	情報提供	食事
		103
		排泄
		66
		清潔
		63
		生活リズム
		67
		授乳について
		187
		その他
		129
		育児に関すること
		376
	虐待予防	社会資源・医療機関・児童館
		277
		予防接種
		141
	計	センター事業勸奨
		219
		その他
		156
		94
		3,395

※重複記載あり

(2) 助産師による妊婦・産婦・新生児・乳児訪問

ア 目 的

相談支援が必要な者に対して、妊娠・出産、産後の不安の強い時期からかかわりを持つことにより信頼関係を築き、今後育児を進めていく上で、1人で悩まず、相談機関の活用等問題解決に向けて行動のできる親となるよう支援する。

イ 対 象

- (ア) 親子健康手帳（母子健康手帳）交付時の面接で不安の強そうな母
 - (イ) 親子健康手帳（母子健康手帳）交付時アンケートより
 - ①既往歴により精神的な疾患等問題を持つ母
 - ②母乳育児の意思をもった母
 - ③相談者、協力者のいない母
 - (ウ) 妊婦健康診査受診票より妊娠高血圧症候群、尿糖などがみられる母
 - (エ) 若年、高齢出産の母
 - (オ) 多胎児や低体重児を出産した母
 - (カ) 関係機関より継続支援依頼があった母
 - (キ) 「連絡員赤ちゃん訪問」を実施後、保健連絡員・OBを通して訪問依頼のあった母
 - (ク) その他母親からの訪問依頼のあった時
- 上記の(ア)～(カ)の対象に対しては、電話等にて母子の生活や育児状況等を確認し、必要に応じて訪問につなげる。

ウ スタッフ

助産師 8人

エ 周知方法

- (ア) 市ホームページに案内
- (イ) 市内産婦人科にポスターを設置
- (ウ) 親子健康手帳（母子健康手帳）交付時に案内
- (エ) 出生届受理時にチラシの配布

オ 実績

(ア) イ対象のうち、(ア)～(カ)の対象者への助産師電話相談実績 (人)

相談対象者数	電話相談数	つながらない等
318	313	5

(イ) 電話相談方向性内訳

(人)

助産師訪問へ	母乳相談へ	継続支援へ	電話相談で終了	計
268	0	38	7	313

カ 低体重児把握数

(人)

把握総数	500g未満	500g～ 999g	1,000g～ 1,299g	1,300g～ 1,499g	1,500g～ 1,799g	1,800g～ 1,999g	2,000g～ 2,299g	2,300g～ 2,499g
82	0	1	3	1	3	6	25	43

キ 妊婦・産婦・新生児・乳児訪問実績

(人)

	新生児	乳児	産婦	妊婦
実人数	54 (16)	743 (66)	784	0
延人数	58 (18)	1,034 (192)	1,042	0

※（ ）内は実施件数内の低体重児の人数

ク 把握動機

(人)

把握動機	人数
低体重届出書より	39
母より申し込み（電話・来所含む）	496
保健師からの電話	21
助産師からの電話	192
赤ちゃん訪問	0
病院からの連絡	22
他の保健機関からの連絡	27
前回の訪問から	295
その他	0
計	1,092

ケ 相談内容

		(件)
	内 容	件数
授乳について	母乳について	606
	ミルクについて	716
	授乳方法について	780
	乳房トラブル、ケアについて	149
	その他	15
児の体について	発育（体重増加）について	963
	児の体について	1,014
	児の疾患について	28
	その他	52
育児について	育児について	886
	環境・生活リズムについて	416
	その他	38
母について	母の疾患について	49
	母の体調について	219
	母の精神面について	221
	支援・家族関係・生活について	471
	その他	14
情報提供	情報提供（社会資源、保健事業、医療機関等）	1,097
	その他	10
合計		7,744

(3) 管理栄養士による訪問

ア 目的

実際の家庭状況や食事状況を把握することにより、親が食生活への意識を築き上げ、児の成長につなげることができるよう支援する。

イ 対象

- (ア) 家庭の事情により、保健センターに来所できない親子
- (イ) 児の食生活支援のために、実際の食事状況を確認する必要が感じられた親子

ウ 訪問件数 22件

8 中学生ピロリ菌検査事業

(1) 目 的

慢性胃炎、胃・十二指腸潰瘍及び胃がんの原因であるピロリ菌を早期に発見し、将来の慢性胃炎、胃・十二指腸潰瘍及び胃がん予防に役立てる。また、中学校で「がん予防」を学習する機会に合わせてピロリ菌検査を行うことで、生徒が健康に興味関心を持ち、その後の健康の保持・増進につなげることを目的とする。

(2) 対 象

ピロリ菌検査を受ける日時点において市内に住所を有する中学2年生であり、本人及びその保護者で検査の内容を理解し、Logoフォームにより申し込みをした者

(3) 内 容

検査内容・希望について市内中学校(チラシ配布)、広報、ホームページ、イベントPR、SNS等を通じて周知・募集を行った。

検査希望者に対し、下記検査を行った(一次・二次検査ともに無料)。

ア 一次検査…保健センターもしくは市内各市民センター・コミュニティーセンターにて回収【8～10月】

尿検査：尿中抗体検査

尿採取した検査キットを委託業者にて検査し、検査結果用紙を郵送

検査結果：陰性(今回の検査では特に感染を認めません)

陽性(ピロリ菌感染の可能性があります)

検査結果の陽性者に対し結果説明チラシと二次検査受診勧奨を行った。

イ 二次検査…市内医療機関に予約し受診【10月～2月】

便検査：便中ヘリコバクターピロリ抗原検査

市内検査実施医療機関に受診し(1)医師による問診(2)便中抗原検査を実施

検査結果：陰性、陽性

検査結果は医療機関・保健センターより説明の上返却。

検査結果の陽性者に対しては、今後消化器症状があった際は速やかに受診する事、胃がん検診を積極的に受診する事等を伝えた。

※積極的治療を希望された場合：自由診療(実費)となる旨、胃内視鏡検査等が必要となる等の説明・相談対応を行った。

(4) 実 績

区分	対象者(人)	受検者(人)	受検率(%)	陽性者(人)	陽性率(%)
一次検査	1,396	301	21.6	3	1.0
二次検査	3	3	100.0	0	0.0

9 外国人通訳の配置

(1) 目的

外国人の方々に各種健康診査、健康相談・育児相談、予防接種等通訳を通じて十分かつ、正確な情報を得てもらい、心配や不安の軽減を図る。

(2) 対象

日本語がわからない外国人

(3) 通訳人数

2人

(4) 通訳の対応言語

ポルトガル語、スペイン語、ベトナム語

(5) 通訳来所日

ポルトガル語・スペイン語：火～金（9時～16時）

ベトナム語：2歳3か月児歯科健康診査を除く乳幼児健診のある日（13時～16時）

(6) 各種健康診査外国人対象者及び受診者数通訳対応状況

(人)

健診内容	対 象 者			受 診 者				
	外国人	(再掲)	(再掲)	外国人	(再掲)	(再掲)	(再掲)	(再掲)
		ポルトガル語 スペイン語	ベトナム語		ポルトガル語 スペイン語	ポルトガル語 スペイン語 通訳対応	ベトナム語	ベトナム語 通訳対応
4か月児健康診査	87	41	20	85	38	36	16	14
1歳6か月児健康診査	140	74	35	124	69	61	27	24
3歳児健康診査	112	36	42	95	31	26	26	23
5歳児健康診査	98	26	40	72	23	18	24	21
2歳3か月児歯科健康診査	100	42	36	78	29	0	27	25
合計	537	219	173	454	190	141	120	107

(7) その他 通訳対応状況

(人)

	通訳対応	(再掲)	(再掲)
		ポルトガル語 スペイン語	ベトナム語
来所者対応	415	206	209
電話対応	389	293	96

10 産後ケア事業

(1) 目的

産後の母子に対して心身のケアや育児サポートを行い、安心して子育てができるよう支援する。

(2) 対象

市内に住所を有する産後4か月未満の母親及び生後4か月未満の乳児（アウトリーチは12か月未満）で、下記のいずれにも該当する者。

- ①産後ケアを希望する者
 - ②感染症疾患（麻疹、風疹、インフルエンザ等）に罹患していない者
 - ③母親に心身の不調があり、医療行為が必要でない者
- （ただし、医師が事業において対応が可能であると判断した者は除く）

(3) 内容

利用日数はショートステイ、デイケア、アウトリーチを合算して7日を上限とする。

ア ショートステイ（10時～翌16時：1泊2日4食（一泊延泊ごとに3食追加））

対象者を宿泊させ、休養の機会を提供するとともに、心身のケア、育児サポート等のきめ細かい支援を実施する。

イ デイケア（10時～16時：1食付）

対象者に日帰りで施設を利用させ、休養の機会を提供するとともに、心身のケア、育児サポート等のきめ細かい支援を実施する。

ウ アウトリーチ（9時～17時のうち3時間程度）

対象者の自宅等に助産師が訪問し、休養の機会を提供するとともに、心身のケア、育児サポート等のきめ細かい支援を実施する。

(4) 実績

ア 内容別

ショートステイ利用日数		デイケア利用日数		アウトリーチ利用日数	
実人数	延日数	実人数	延日数	実人数	延日数
91 組	341 日	16 組	27 日	93 組	176 日

イ 利用日数別

ショートステイ							デイケア	アウトリーチ	計 (延人数)
	1泊2日	2泊3日	3泊4日	4泊5日	5泊6日	6泊7日			
	57	37	7	3	4	7	27	176	318
(再掲) 契約外機関	1	0	0	0	0	0	0	0	1

※1人で複数回利用した人は、それぞれでカウント

(5) 契約医療機関（17機関）

- ① ショートステイ、デイケア、アウトリーチを実施
 - ・愛助産院（春日井市）
 - ・ふくろう助産院（尾張旭市）
 - ・にこ助産院（各務原市）
 - ・星野助産院（名古屋市）
- ② ショートステイ、デイケアを実施
 - ・エンゼルレディースクリニック（市内）
 - ・産科・婦人科ミナミクリニック（市内）
 - ・おおばやしマタニティクリニック（北名古屋市）
 - ・かすがいマタニティクリニック（春日井市）
 - ・まのウィメンズクリニック（春日井市）
 - ・森永産婦人科（春日井市）
- ③ デイケア、アウトリーチを実施
 - ・もりかわ母乳育児相談室（名古屋市）
- ④ ショートステイを実施
 - ・小牧市民病院（市内）
 - ・春日井市民病院（春日井市）
 - ・平竹クリニック（名古屋市）
- ⑤ アウトリーチを実施
 - ・ほのぼの助産院（市内）
 - ・澤野助産院（犬山市）
 - ・お母さんと赤ちゃんのLampo（春日井市）
 - ・助産院ふうハウス（春日井市）
 - ・山中助産院（春日井市）
 - ・唯助産所（春日井市）

(6) 産後ケア事業 利用者アンケートのまとめ（回答 162人）

ア 利用してよかった点（複数回答）

休息が取れた	89人
相談ができた	108人
母乳ケアや授乳の仕方に関する指導	107人
沐浴の仕方に関する指導	9人
その他	

- ・子どもを預かってもらえた。
- ・おしゃべり（会話）ができた
- ・医療機関選びの参考になった
- ・乳房ケアをしてもらえたこと。また今後の対応について相談ができたこと

イ 事業を利用前よりも、ゆったりとした気分でお子さんとすごせるか。

はい	132人
いいえ	3人
なんとも言えない	27人

ウ 今後、困ったことがあれば相談しようと思えるか。

はい	160人
いいえ	1人
なんとも言えない	1人

1 1 1stアニバーサリー事業

(1) 目 的

1歳のお誕生日に絵本などをプレゼントしてお子さんの成長をお祝いし、その機会に育児相談や情報提供を行うことで保護者の育児不安を取り除くことを目的とする。また、子育て世代包括支援センターや児童館を利用したことのない親子が当事業をきっかけに今後も施設を利用し、継続的な支援につながることを期待している。

1stアニバーサリー事業をセカンドブック事業としても位置付け、読み聞かせを通して、愛着形成を促し親と子の自己肯定感を育む。

(2) 対 象

市内に住所を有する1歳児とその保護者

(3) 内 容

ア 絵本

イ エプロンタオル

ウ バースデーカード兼図書館員からのメッセージカード

エ 1歳のサポートプラン

(4) 実施結果

ア 通知者数

令和6年6月生まれ～令和7年5月生まれ 919人

イ 利用者数

(令和7年4月1日～令和8年3月31日)

(人)

	子育て世代包括支援センター	小牧児童館	小牧南児童館	味岡児童館	北里児童館	西部児童館	篠岡児童館	大城児童館	合計
計	546	38	34	49	32	16	11	26	752
外国人（再掲）	72	4	1	1	0	1	1	2	82
初回利用者（再掲）	115	6	4	8	4	0	1	2	140

(5) 主な相談内容

(件)

相談なし	相談あり									処遇		
	基本的 生活習慣	育児方法	環境	発育・ 発達	医学	情報提供	支援・ 保護	その他	計	傾聴・ 共感	助言・ 指導	(再掲)
												地区担当保健師 や子育て世代包 括支援センター で継続
50	385	69	33	80	12	83	0	40	702	135	567	80

12 利用者支援事業（こども家庭センター型（母子保健機能））

(1) 目的

妊娠・出産・育児期にわたる様々な悩みに対して切れ目ない支援体制を整備することを目的として相談支援を行い、安心して妊娠・出産・子育てができる環境を作ることを目的とする。

(2) 対象

相談希望者（面接、電話、訪問、メール、オンライン、手紙）

(3) 内容

妊娠・出産・育児にわたる相談全般

(4) 実績

ア 相談方法別

(件)

面接	電話	訪問	メール	手紙	オンライン	計
329	840	135	155	10	2	1,471

イ 相談内容別

(件)

相談あり										処遇	
基本的 生活習慣	育児 方法	環境	発育・ 発達	医学	情報 提供	支援・ 保護	妊娠 SOS	流産・ 死産	その他	助言・ 指導	見守り・ 継続
69	43	550	66	71	555	0	51	4	62	236	1,235

ウ こまき妊娠SOS関係の相談（再掲）

実人数 14人、延相談件数 51件

エ 流産・死産等に関する相談（再掲）

実人数 4人、延相談件数 4件

13 すくすく子育て応援事業

(1) 目的

核家族化が進み、地域のつながりも希薄となる中で、孤立感や不安感を抱く妊婦・子育て家庭も少なくない。全ての妊婦・子育て家庭が安心して出産・子育てができる環境を整えるために、伴走型相談支援の充実と経済的支援を一体型で実施する。

(2) 対象

全ての妊婦及び子育て家庭

(3) 実施内容

ア 伴走型相談支援（面談）

- ・妊娠届出時（転入者含む） 946名
- ・妊娠8か月時（アンケートを実施し希望者に面談を行う）
アンケート回答数：765名 うち相談希望者：128名

※随時の相談受付等を継続的に実施

イ 経済的支援

- ・妊娠届出面談後
（妊婦のための支援給付金（1回目）または出産応援給付金（たまごギフト））
50,000円支給 984名
- ・出産後助産師訪問等の面談後
（妊婦のための支援給付金（2回目）または子育て応援給付金（ひよこギフト））
50,000円支給 1,016名

(4) スタッフ

保健師、助産師

(5) 周知方法

ア 妊娠届出時に事業の説明を行い、案内文を配布

イ 小牧市妊産婦・乳児健康診査受診票に事業内容を掲載

ウ 出生届出時配布チラシに相談申込フォームを掲載

エ 小牧市ホームページに事業内容を掲載

1 4 こまき巡回バス「こまくる」マタニティフリーパス配布事業

(1) 目 的

妊産婦の「こまき巡回バス」の利用料を無料とすることで、妊産婦健診や乳児健診をはじめ様々な外出時の移動手段として活用してもらい、移動手段を持たない妊産婦だけでなく、全ての妊産婦の外出支援及び巡回バスの利用促進につなげる。

(2) 対 象

妊産婦

(3) 利用期限

妊娠届出時から出産予定日の1年後の月末まで（約22か月間）

(4) 配布方法

妊娠届出時及び転入時に子育て世代包括支援センターにて配布

(5) 利用方法

マタニティフリーパスを乗車（初乗り）時に提示して乗車する。

1日のうちで2回目以降に乗車する時は、こまくる利用券を提示して乗車する。

(6) 実 績

4,335回（200円/回）

1 5 初回産科受診料助成支援事業

(1) 目 的

低所得の妊婦の経済的負担軽減を図るとともに、当該妊婦の状況を継続的に把握し、必要な支援につなげることを目的とする。

(2) 対 象

- ・生活保護世帯及び非課税世帯に属する者
- ・上記以外に、市長が必要と認める者

(3) 受診項目

妊娠判定に要する問診及び診察、尿検査並びに超音波検査

(4) 助成方法

- ・事前相談による受診票の交付
- ・償還払い

(5) 実 績

16件 （再掲）受診票の交付3件、償還払い13件

第8 齒科保健事業

第 8 歯科保健事業

1 歯科保健事業一覧

	事業名	対象	内容	回数
1	妊婦個別歯科健診	妊婦	歯科健診、個別歯科保健指導	随時
2	4 か月児歯科指導・ 母親歯科健診	4 か月児と その保護者	集団指導(乳幼児のむし歯予防及び口腔機能 の発達について)	年 36 回
3	1 歳 6 か月児健診	1 歳 6 か月児	歯科健診、フッ化物塗布、個別歯科保健指導	年 36 回
4	2 歳 3 か月児健診	2 歳 3 か月児	歯科健診、フッ化物塗布、個別歯科保健指導	年 24 回
5	3 歳児健診	3 歳児	歯科健診、フッ化物塗布、個別歯科保健指導	年 36 回
6	離乳食教室 後期かみかみ教室	9 か月以降の親子	集団指導(乳幼児のむし歯予防及び口腔機能 の発達について)	年 12 回
7	にこにこむし歯予防教室	乳幼児とその保護 者	歯みがき、歯並び等、お子さんの歯科に関す る個別相談	各保育園年 1 回
8	保育園歯みがき教室	保育園児	健康教育(むし歯予防及び口腔機能の発達に ついて、食事について) 歯みがき指導	年 1 回
9	8020 歯っぴースマイル！ 歯みがき教室	小学 4 年生	歯科健康教育、個別歯科保健指導	年 1 回
10	小学校での歯科健診	小学生	歯科健診 (『令和 4 年度 小牧市保健統計』より)	各小学校年 1 回
	中学校での歯科健診	中学生	歯科健診 (『令和 4 年度 小牧市保健統計』より)	各中学校年 1 回
11	歯周病予防個別健診	今年度 20・25・ 30・35 歳に達する 市民	歯周疾患健診、個別歯科保健指導	受診期間 6 月 1 日～ 2 月 14 日
12	いきいき世代個別歯科健 診	基準日において 40・45・50・55・ 60・65・70・75・ 80 歳の市民	歯周疾患健診、個別歯科保健指導	受診期間 6 月 1 日～ 2 月 14 日
13	ヤング健診及び結果説明 会	35 歳～39 歳の市民	個別歯科保健指導	健診 年 4 回 結果説明会 年 16 回
14	知って得する若返り講座	60 歳以上の市民	口腔機能向上に関する歯科健康教育 (介護予防事業)	年 24 回
15	防ごう誤嚥性肺炎！ これであなとも歯あわせ 講座	おおむね 60 歳以上 で構成される団体	口腔機能向上に関する歯科健康教育 (介護予防事業)	随時
16	フレイル改善個別相談	専門職よりフレイル 改善に向けた個 別相談が必要と判 断された 60 歳以上 の市民 (介護保険の介護 認定非該当者)	口腔機能向上に関する個別歯科保健指導(介 護予防事業)	年 24 回
17	歯の健康相談	市民	歯科に関する相談(面接)	毎週月曜日
18	歯科電話相談	市民	歯科に関する相談(電話)	随時
19	歯科健康教育	市民	歯科に関する健康教育	随時
20	訪問口腔衛生指導	訪問指導が必要と 認められる者	口腔ケア等に関する指導	随時
21	8020 表彰	80 歳以上でご自身 の歯が 20 本以上あ る市民	8020 達成者への表彰事業	年 1 回
22	口腔がん健診	50 歳以上の市民	問診、口腔がん健診、結果説明	年 4 回

2 各事業の内容

(1) 妊婦個別歯科健診

ア 目 的

妊娠による食事の好みや飲食回数の変化、ホルモンバランスの変化等により、う蝕や歯周疾患に罹患しやすい妊婦に対し、近隣の歯科医院において歯科健診を受診する機会を提供し、妊婦やその家族のかかりつけ歯科医の定着を推奨するとともに、妊娠を機に産まれてくる子どもも含め、家族ぐるみで歯や歯肉を健康に保つことができるよう、意識の向上を図ることを目的とする。

イ 内 容

- (ア) 歯科健診（う蝕・歯周疾患の有無、補綴歯・欠損歯・現在歯の数等）
- (イ) 清掃状態、歯列咬合、顎関節、粘膜の異常の有無等
- (ウ) 歯科保健指導

ウ 対 象

妊娠中の方

エ 実施回数

対象者 1 人につき 1 回

オ 周知方法

- (ア) 広報
- (イ) 親子（母子）健康手帳発行時に PR
- (ウ) チラシの配布及びポスター提示

カ 契約医療機関数

55 歯科医療機関

キ 健診結果

年度 \ 項目	受診者数	未処置歯		歯牙の状況（1人平均歯牙本数）				
		なし	あり	現在歯	健全歯	未処置歯	処置歯	要補綴歯
令和7年度	344人	234人 (68.0%)	110人 (32.0%)	28.1本	21.3本	0.7本	6.1本	0.06本

年度 \ 項目	歯周ポケット				歯肉出血		
	健全	浅い ポケット	深い ポケット	その他	なし	あり	その他
令和7年度	138人 (40.1%)	162人 (47.1%)	44人 (12.8%)	0人 (0.0%)	92人 (26.7%)	252人 (73.3%)	0人 (0.0%)

年度 \ 項目	総合判定		
	異常なし	要指導	要精検
令和7年度	24人 (7.0%)	84人 (24.4%)	236人 (68.6%)

※対象者数 874人 (受診率 39.4%)

(2) 4 か月児歯科指導及び母親歯科健診

ア 目的

乳歯が萌出する前のこの時期に、子どものう蝕予防について学習する場を設け、早期からの仕上げみがきの定着を図る。また、母親の口腔環境が子どもにも影響を及ぼすと考えられていることから、この健診で母親が自分の口腔内の状態について知り、歯科疾患の早期発見・早期予防ができるよう支援する。

イ 内容

- (ア) 保護者対象歯科健診（う蝕・歯周疾患の有無、補綴歯・欠損歯・現在歯の数等）、相談
- (イ) 集団指導（子どものむし歯予防、口腔機能の発達について）

ウ 対象

4 か月児とその保護者（868 人）

エ 実施回数

年 36 回

オ 周知方法

- (ア) 広報
- (イ) 親子（母子）健康手帳発行時に PR
- (ウ) 個別通知

カ 健診結果

年度 \ 項目	受診者数	未処置歯	
		なし	あり
令和7年度	811人	560人 (69.1%)	251人 (30.9%)

年度 \ 項目	歯周ポケット				歯肉出血		
	なし	浅い ポケット	深い ポケット	その他	なし	あり	その他
令和7年度	588人 (72.5%)	203人 (25.0%)	19人 (2.3%)	1人 (0.1%)	400人 (49.3%)	410人 (50.6%)	1人 (0.1%)

年度 \ 項目	歯牙の状況（値はすべて1人平均歯牙本数）					
	現在歯	健全歯	未処置歯	処置歯	要補綴歯	欠損補綴歯
令和7年度	28.2本	22.0本	0.8本	5.3本	0.1本	0.12本

年度 \ 項目	総合判定		
	健康	要指導	要治療
令和7年度	192人 (23.7%)	237人 (29.2%)	382人 (47.1%)

※対象者数 868人 (受診率 93.4%)

(3) 1歳6か月児歯科健康診査

ア 目 的

乳前歯が萌出し、子どもの歯の健康に関心が高まるこの時期に、歯科疾患の予防と早期発見・早期治療につとめ、家庭で子どもの歯科疾患の予防ができるよう、更なる知識の普及を図る。

イ 内 容

- (ア) 歯科健診、相談
- (イ) フッ化物塗布
- (ウ) 集団、個別指導

ウ 対 象

市内在住の1歳6か月児（922人）

エ 実施回数

年 36回

- オ 周知方法
 (ア) 個別通知
 (イ) 広報

カ 健診結果

区分 年度	対象者数 (人)	受診者数 (人)	受診率 (%)	う蝕本数 (本)			う蝕なし (人)		
				総本数	処置歯数	1人平均本数	01型	02・要指導	02・要観察
5	992	952	96.0	8	0	0.01	454	48	448
6	991	959	96.8	16	2	0.02	491	57	406
7	922	887	96.2	17	0	0.02	469	35	375

区分 年度	う蝕あり (人)					指しゃぶり のある者 (人)	歯列・咬合 異常のある 者 (人)	軟組織異常 のある者 (人)
	A型	B型	C型	合計	う蝕罹患率			
5	1	1	0	2	0.20%	23	89	110
6	4	0	1	5	0.50%	21	124	140
7	8	0	0	8	0.90%	20	99	144

区分 年度	その他の異 常のある者 (人)	フッ化物塗 布実施数 (人)	飲み込めない・丸飲み			食事時、足裏が床につ いている		水分を飲む時に使用するもの		
			ない	時々	いつもある	はい	いいえ	コップ	ストローマグ	その他
5	20	850	489	409	54	681	271	456	458	38
6	28	846	471	428	60	703	256	464	467	28
7	18	760	470	368	49	681	206	452	412	23

(4) 2 歳 3 か月児歯科健康診査

ア 目 的

乳臼歯が萌出しはじめ、う蝕が急増するこの時期に、歯科疾患予防のための正しい生活習慣を身につけ、歯科疾患予防に関する意識の向上を図る。

イ 内 容

- (ア) 歯科健診、相談
 (イ) フッ化物塗布
 (ウ) 個別歯科保健指導

ウ 対 象

市内在住の 2 歳 3 か月児 (930 人)

エ 実施回数

年 24 回

- オ 周知方法
 (ア) 個別通知
 (イ) 広報

カ 健診結果

区分 年度	対象者数	受診者数 (人)	受診率 (%)	う蝕本数 (本)			う蝕なし (人)
				総本数	処置歯数	1人平均本数	0型
5	995	917	92.2	84	2	0.09	893
6	944	862	91.3	49	1	0.06	845
7	930	848	91.2	47	4	0.06	834

区分 年度	う蝕あり (人)						指しゃぶりのある者 (人)	歯列・咬合異常のある者 (人)
	A型	B型	C1型	C2型	合計	う蝕罹患率		
5	16	5	0	3	24	2.61%	54	165
6	15	0	0	2	17	1.97%	46	185
7	12	0	0	2	14	1.65%	42	156

区分 年度	軟組織異常のある者 (人)	その他の異常のある者 (人)	フッ化物塗布実施数 (人)
5	64	29	774
6	97	29	729
7	86	21	683

(5) 3 歳児 歯科健康診査

ア 目 的

乳歯列完成期にあたるこの時期に、歯科疾患を予防するための生活習慣の定着状況について確認し、今後萌出してくるであろう永久歯も含めて歯科疾患の予防が家庭ぐるみでできるよう支援する。

イ 内 容

- (ア) 歯科健診、相談
 (イ) フッ化物塗布
 (ウ) 個別指導

ウ 対 象

市内在住の 3 歳児 (982 人)

エ 実施回数

年 36 回

- オ 周知方法
 (ア) 個別通知
 (イ) 広報

カ 健診結果

区分 年度	対象者数 (人)	受診者数 (人)	受診率 (%)	う蝕本数 (本)			う蝕なし (人)
				総本数	処置歯数	1人平均本数	
5	1,028	992	96.5	258	18	0.26	930
6	1,060	1,033	97.5	247	17	0.24	958
7	982	961	97.9	141	8	0.15	918

区分 年度	う蝕あり (人)						指しゃぶりのある者 (人)	歯列・咬合異常のある者 (人)
	A型	B型	C1型	C2型	合計	う蝕罹患率		
5	34	20	4	4	62	6.3%	55	179
6	56	14	0	5	75	7.3%	66	238
7	31	9	1	2	43	4.5%	65	190

区分 年度	軟組織異常のある者 (人)	その他の異常のある者 (人)	フッ化物塗布実施数 (人)	飲み込めない・丸飲み			食事時、足裏が床についている	
				ない	時々	いつもある	はい	いいえ
5	60	22	816	726	245	21	800	192
6	68	26	810	749	269	15	828	205
7	78	85	774	685	264	12	792	169

区分 年度	口を閉じて食べる	
	はい	いいえ
5	885	107
6	908	125
7	847	114

(6) 離乳食教室：後期かみかみ教室

ア 目 的

乳歯が萌出しはじめ、食事の内容が変化する時期にあたる児とその保護者に対し、口腔内に関心が高い時機を捉え、むし歯予防や口腔機能の発達に関する知識の普及を図り、歯・口腔の健康に向けた意識の向上及び行動変容を促すことを目的とする。

イ 内 容

離乳食教室内での歯科講話

ウ 対 象

市内住民登録のある9か月以降の児とその保護者

エ スタッフ
歯科衛生士(1名)

オ 参加状況 (人)

4月 25日	5月 30日	6月 27日	7月 25日	8月 29日	9月 26日	10月 24日	11月 28日	12月 19日	1月 30日	2月 27日	3月 4日
4	6	3	4	6	5	3	3	4	5	1	4

合計 48人(年12回)

(7) にこにこむし歯予防教室

ア 目的

1歳前後は、乳歯が萌出し、食事の内容が変化する時期であるため、母子ともに生涯にわたる健康の基礎となる非常に重要な時期である。育児相談を利用される保護者に対し、乳前歯が萌出し、生活習慣・歯口清掃等のむし歯予防のポイントを助言するとともに、口腔機能に関する知識の啓発を図り、歯や歯肉の健康等に対する意識の向上及び行動変容を促すことを目的とする。

イ 内容
歯科講話、個別相談

ウ 対象
市内住民登録のある乳幼児とその保護者

エ スタッフ
歯科衛生士(2名)

オ 参加状況 (年12回開催)

実施日	参加者数	相談内容(延べ)								
	(実人数)	歯みがき	歯並び	母乳	ミルク (哺乳瓶)	飲み物	フッ化物の 応用	おやつ	その他	合計
4月28日	3	3	2	1	0	0	1	2	0	9
5月26日	1	1	1	0	0	0	4	0	1	7
6月30日	3	2	2	0	1	0	0	0	0	5
7月28日	3	3	2	1	0	0	0	0	0	6
8月25日	12	12	0	2	2	0	3	3	7	29
9月29日	8	7	1	0	1	0	4	0	2	15
10月27日	2	2	2	1	1	0	2	2	2	12
11月17日	3	3	3	0	0	1	3	1	1	12
12月22日	3	3	2	1	0	0	2	0	0	8
1月26日	7	6	4	1	1	0	0	1	2	15
2月16日	3	3	1	0	0	1	1	0	0	6
3月16日	4	4	0	0	1	0	3	1	2	11
計(人)	52	49	20	7	7	2	23	10	17	135

(8) 保育園歯みがき教室

ア 目 的

第一大臼歯が萌出しはじめる時期に、自分で歯を健康に保つための習慣や知識を身に付けさせるとともに、保護者に歯科疾患予防に関して学習する機会を作り、８０２０を達成するために必要とされる『第一大臼歯』を親子で保護育成できるように支援する。

イ 内 容

- (ア) 園児への健康教育（むし歯予防のお話、食事のお話）
- (イ) ブラッシング指導
- (ウ) 保護者への健康教育
- (エ) 質疑応答

ウ 対 象

市内保育園に通園している園児とその保護者

エ スタッフ

歯科衛生士、栄養士（保健センター、幼児教育・保育課）

オ 実施状況

実施日	園名	園児数（人）
5月20日	本庄保育園	53
5月21日	岩崎保育園	95
5月27日	藤島保育園	45
5月28日	北里保育園	45
5月30日	さくら保育園	83
6月4日	小木保育園	74
6月6日	古雅保育園	43
6月9日	村中保育園	39
6月10日	陶保育園	41
6月11日	三ツ渕保育園	47
6月12日	第二保育園	66
6月16日	味岡保育園	91
6月17日	三ツ渕北保育園	37
6月18日	レイモンド小牧保育園	47
6月19日	大城保育園	62
6月20日	みなみ保育園	44
6月23日	一色保育園	48
6月24日	大山保育園	84
6月25日	篠岡保育園	70
6月26日	じょうぶし保育園	89
7月15日	山北保育園	104
計	21園	1,307

(9) 8020 歯っぴースマイル！歯みがき教室

ア 目 的

学校歯科保健活動を支援し、子どもたちが健康な歯でいつまでも健やかに過ごすことができるよう歯科健康教育等を実施し、知識の普及及び行動変容を促すことを目的とする。

イ 内 容

(ア) 歯科健康教育

(イ) 歯みがき指導

ウ 対 象

本事業を希望する市内小学校の児童（小学４年生）

エ 実施状況

実施日	学校名	児童数（人）
5月27日	篠岡小学校	40
5月30日	光ヶ丘小学校	40
6月2日	桃ヶ丘小学校	55
6月18日	三ツ渕小学校	43
6月19日	一色小学校	74
6月19日	大城小学校	47
9月3日	陶小学校	30
9月17日	小牧原小学校	124
9月29日	味岡小学校	127
10月15日	米野小学校	114
11月12日	村中小学校	42
11月13日	小牧南小学校	124
12月15日	北里小学校	65
2月6日	本庄小学校	83
計	14校	1,008

(10) 学校歯科健診

ア 小学校

区分 年度	受診者数 （人）	う歯なし （人）	う蝕のあるもの			
			未置歯あり （人）	処置完了者 （人）	計	う蝕罹患率 （％）
3	8,244	5,777	1,293	1,174	2,467	29.9
4	7,951	5,659	1,116	1,176	2,292	28.8
5	7,646	5,564	1,093	989	2,082	27.2
6	7,398	5,460	1,016	922	1,938	26.2
7	7,151	5,314	915	922	1,837	25.7

イ 中学校

区分 年度	受診者数 (人)	う歯なし (人)	う蝕のあるもの			
			未置歯あり (人)	処置完了者 (人)	計	う蝕罹患率 (%)
3	4,160	3,186	364	610	974	23.4
4	4,023	3,073	342	608	950	23.6
5	4,018	3,232	303	483	786	19.6
6	3,916	3,199	306	411	717	18.3
7	3,815	3,143	257	415	672	17.6

(11) 歯周病予防個別健診

ア 目 的

青年期の歯科疾患、特に歯周疾患を早期に発見するとともに、有益な歯科保健情報を提供することで市民の歯科保健行動の向上を促す。

また、かかりつけ歯科医による系統的な歯科保健医療との連携を推進し、市民の口腔機能の維持を図ることで、生涯にわたり自分の歯で豊かな食生活を送ることができるよう支援する。

イ 内 容

(ア) 歯科健診

(イ) 個別歯科保健指導

ウ 対 象

当該年度に 20・25・30・35 歳の誕生日を迎える市民(6,725 人)

エ 実施回数

対象者 1 人につき 1 回

(受診期間 令和 7 年 6 月 1 日～令和 8 年 2 月 14 日)

オ 周知方法

(ア) 広報

(イ) 個別通知

カ 健診結果

	受診者数 (人)	対象者数 (人)	歯牙の状況 (本)					
			1健全歯	2処置歯	3未処置歯	現在歯 (1+2+3)	欠損歯	欠損補綴歯
20歳	84	1,493	2,185	156	40	2,381	0	0
25歳	88	1,878	2,219	247	70	2,536	0	0
30歳	98	1,668	2,236	485	78	2,799	3	2
35歳	128	1,686	2,737	790	96	3,623	2	2
計	398	6,725	9,377	1,678	284	11,339	5	4

	歯周ポケット (人)				歯肉出血 (人)		
	健全	浅い ポケット	深い ポケット	その他	なし	あり	その他
20歳	50	32	2	0	30	54	0
25歳	47	35	6	0	28	60	0
30歳	51	40	7	0	37	61	0
35歳	48	71	9	0	44	84	0
計	196	178	24	0	139	259	0

	清掃状態 (人)			むし歯 (人)		要補綴歯 (人)	
	良好	ふつう	不良	なし	あり	なし	あり
20歳	17	49	18	66	18	84	0
25歳	11	63	14	58	30	88	0
30歳	26	62	10	68	30	97	1
35歳	30	84	14	93	35	126	2
計	84	258	56	285	113	395	3

	総合判定 (人)		
	異常なし	要指導	要精検
20歳	6	32	46
25歳	9	22	57
30歳	6	30	62
35歳	12	28	88
計	33	112	253

(12) いきいき世代個別歯科健診

ア 目 的

歯周疾患と全身疾患との関係に着目し、節目の年齢に該当する市民に対し、近隣の歯科医院に受診しやすい環境を作り、歯周疾患の予防と早期発見・早期治療を促すとともに、日ごろの生活習慣を振り返る機会を設け、有益な歯科保健情報を提供することで市民の歯科保健行動の向上を図る。また、かかりつけ歯科医による系統的な歯科保健医療との連携を推進することにより、市民の口腔機能の保持増進を図り、生涯にわたり自分の歯で豊かな食生活を送ることができるよう支援する。

イ 内 容

- (ア) 歯科健診
- (イ) オーラルフレイル健診
- (ウ) 個別歯科保健指導

ウ 対 象

40・45・50・55・60・65・70・75・80歳の市民(17,162人)

エ 実施回数

対象者1人につき1回

(受診期間 令和7年6月1日～令和8年2月14日)

オ 周知方法

- (ア) 広報
- (イ) 個別通知

力 健診結果

	受診者数 (人)	対象者数 (人)	歯牙の状況（本）					
			1健全歯	2処置歯	3未処置歯	現在歯 (1+2+3)	欠損歯	欠損補綴歯
40歳	123	1,767	2,503	910	81	3,494	6	12
45歳	140	1,987	2,434	1,418	64	3,916	11	29
50歳	152	2,536	2,461	1,747	47	4,255	6	34
55歳	185	2,357	2,642	2,411	87	5,140	18	88
60歳	187	1,890	2,314	673	73	3,060	13	175
65歳	175	1,589	2,076	2,334	149	4,559	37	240
70歳	147	1,493	1,569	2,104	94	3,767	47	288
75歳	174	2,026	1,772	2,362	92	4,226	125	537
80歳	111	1,517	989	1,521	43	2,553	118	431
計	1,394	17,162	18,760	15,480	730	34,970	381	1,834

	歯周ポケット				歯肉出血		
	健全	浅い ポケット	深い ポケット	その他	なし	あり	その他
40歳	59	50	14	0	42	81	0
45歳	55	73	12	0	45	95	0
50歳	59	72	21	0	45	107	0
55歳	62	92	31	0	56	129	0
60歳	64	87	36	0	71	116	0
65歳	54	74	47	0	57	118	0
70歳	42	62	42	1	48	98	1
75歳	55	68	49	1	53	119	1
80歳	32	44	34	0	38	72	0
計	482	622	286	2	455	935	2

	清掃状態（人）			むし歯		保健指導	
	良好	ふつう	不良	なし	あり	未実施	実施
40歳	43	70	10	88	35	0	123
45歳	40	86	14	104	36	0	140
50歳	37	96	19	121	31	0	152
55歳	37	124	24	149	36	0	185
60歳	41	118	28	150	37	0	187
65歳	37	114	24	116	59	0	175
70歳	36	93	18	103	44	0	147
75歳	25	132	17	130	44	0	174
80歳	16	86	9	89	22	0	111
計	312	919	163	1,050	344	0	1,394

	健診結果		
	異常なし	要指導	要精検
40歳	12	34	77
45歳	6	40	94
50歳	10	40	102
55歳	10	43	132
60歳	12	46	129
65歳	8	33	134
70歳	8	21	118
75歳	4	25	145
80歳	9	8	94
計	79	290	1,025

(13) ヤング健診及び結果説明会

ア 目的

健康と毎日の生活習慣を振り返るきっかけとして若い世代を対象に実施するヤング健診開催時にこの世代に急増する歯周病についての正しい知識を学び、歯・口腔の健康に保持増進に寄与することを目的とする。

また、後日開催される結果説明会において、その後の行動変容を確認するとともに、改善点などを確認し、歯・口腔の健康づくりに向けた支援を行うことを目的とする。

イ 内容

歯科衛生士による個別歯科指導

ウ 対象

小牧市に住民登録のある 35 歳から 39 歳までの方で、事業所等で健診を受ける機会のない方

エ スタッフ

- ・ヤング健診開催時：歯科衛生士（4 名）
- ・ヤング健診結果説明会開催時：各日 1 名（16 日開催）

オ 実施状況

- ・ヤング健診

(人)

実施日	受診者数	歯の健康づくり得点			気になる症状		お口の健康のための心がけ		定期健診の有無	
		0～10点	11～15点	16点以上	ある	ない	ある	ない	受けている	受けていない
7月16日	42	4	17	21	17	25	36	6	22	20
8月18日	49	8	14	27	26	23	45	4	28	21
9月19日	43	2	16	25	19	24	40	3	20	23
10月22日	44	8	13	23	20	24	43	1	27	17
計	178	22	60	96	82	96	164	14	97	81

- ・ヤング健診結果説明会

(人)

		男	女	計
参加者数		30	97	127
歯科健診受診の有無	あり	9	54	63
	なし	21	43	64
行動変容	あり	4	24	28
	なし	26	73	99

(14) 知って得するフレイル予防講座～おくち編～(介護予防事業)

ア 目 的

口腔機能向上や口腔ケアに関する知識の普及啓発を高齢者にとって身近な場所で実施することにより、高齢者自身が口腔の健康の保持増進に向けた健康づくりに取り組み、健康寿命の延伸に寄与することを目的とする。

イ 対 象

- ・小牧市在住の 60 歳以上の方
- ・施設を利用する老人クラブの団体及び個人で施設を利用している方

ウ スタッフ

歯科衛生士 1 名

エ 内 容

- ①講話：口腔機能について等
- ②実技：自宅で実施できる口腔機能向上トレーニング、健口体操

開催日	会場	参加者数（人）
4 月 18 日	ラピオ	12
5 月 16 日	ラピオ	13
5 月 23 日	田 県 の 郷	6
6 月 6 日	ラピオ	16
6 月 27 日	田 県 の 郷	5
7 月 4 日	ラピオ	11
7 月 15 日	サンビレッジ	4
7 月 25 日	田 県 の 郷	8
8 月 1 日	ラピオ	10
8 月 19 日	サンビレッジ	6
9 月 5 日	ラピオ	6
9 月 16 日	サンビレッジ	4
10 月 3 日	ラピオ	12
10 月 14 日	勤労センター	2
11 月 7 日	ラピオ	10
11 月 11 日	勤労センター	7
12 月 5 日	ラピオ	6
12 月 16 日	勤労センター	2
12 月 23 日	北里市民センター	12
1 月 16 日	ラピオ	9
1 月 27 日	北里市民センター	14
2 月 6 日	ラピオ	8
2 月 24 日	北里市民センター	8
3 月 6 日	ラピオ	11

(15) 防ごう誤嚥性肺炎！これであなたも歯（し）あわせ講座（出前講座）

ア 目 的

歯周疾患と全身疾患との関係に着目し、歯科疾患の予防や口腔機能の向上に関する知識の普及啓発を行い、個々に応じた取り組みを促し、生涯にわたり口腔の健康の保持増進を図るとともに、健康寿命の延伸に寄与することを目的とする。

イ 対 象

小牧市内の老人クラブの会員、保健連絡員活動、地域 3 あい事業の出前講座等、市内各地区のおおむね 60 歳以上で構成される団体

ウ スタッフ

歯科衛生士 1 名

エ 実施内容

いつまでも自分の歯で美味しく元気に食べるため、口腔ケアの方法や摂食嚥下、食事内容等についての健康教育を行い、家庭で気軽に実践できる健口体操を行う。

オ 参加者数

189 人（年 9 回）

(16) フレイル改善個別相談

ア 目 的

年齢が増すごとに生じる認知症や心身の虚弱化（フレイル）の重症化を防ぎ、市民がいくつになっても健康で生き生きとした毎日を過ごすことができるよう、個々の口腔内の状態に応じた個別指導を行い、心身の健康状態の維持増進に寄与することを目的とする。

イ 対 象

- ・小牧市在住の 60 歳以上の方
- ・専門職より、フレイル改善に向けた個別相談が必要と判断された方（介護認定非該当者）

ウ スタッフ

歯科衛生士 1 名

エ 内 容

問診を行い、状態に応じた個別歯科保健指導を実施

開催日	会場	参加者数（人）
6月2日	田県の郷	2
6月16日	野口の郷	1
7月7日	小針の郷	2
7月15日	田県の郷	4
8月4日	小針の郷	2
8月18日	野口の郷	4
9月1日	田県の郷	3
9月9日	野口の郷	3
10月6日	野口の郷	1
10月14日	小針の郷	4
10月20日	田県の郷	3
11月4日	田県の郷	4
11月17日	小針の郷	4
11月25日	野口の郷	3
12月1日	田県の郷	1
12月9日	小針の郷	3
12月15日	野口の郷	3
1月5日	田県の郷	3
1月19日	小針の郷	2
1月27日	野口の郷	1
2月2日	小針の郷	2
2月16日	田県の郷	4
3月2日	野口の郷	2
3月16日	小針の郷	2

(17) 歯の健康相談

実施日時	場所	内容	相談件数（件）		
毎週月曜日 午前9時～12時 午後1時～4時	保健センター	歯の健康相談	乳幼児	成人	計
			2	2	4

（相談内容）

【乳幼児】

- ・仕上げみがきについて
- ・歯並びについて
- ・むし歯が多い
- ・歯みがき剤について
- ・歯科医院でのフッ化物塗布について

【成人】

- ・親知らずの痛みについて
- ・歯科受診について

(18) 歯科電話相談

ア 年代別相談件数

(件)

	乳児	幼児	学童	妊婦	成人	その他	計
R4	23	17	0	0	4	0	44
R5	9	21	0	0	2	0	32
R6	2	1	1	0	8	0	12
R7	15	3	0	0	7	0	25

イ 相談内容内訳

(件)

	歯科治療	歯みがき	歯科受診について	母乳	食生活	指しゃぶり おしゃぶり	歯の生え方	フッ化物利用について	歯並び	その他
R4	5	34	0	3	0	3	3	15	9	1
R5	1	29	0	0	1	0	4	10	1	1
R6	7	2	2	1	0	0	1	1	1	3
R7	9	12	8	4	4	2	1	5	2	0

(19) 歯科健康教育

ア 成人対象健康教育

実施日時	対象	内容	参加者数 (人)
6月5日	第1回高齢者口腔機能評価推進研修会	小牧市の事業説明	100
6月11日	名古屋経済大学	小牧市の事業説明	45
6月17日	田県久保山いきいきサロン	オーラルフレイルについて	30
7月9日	東遊会	オーラルフレイルについて	41
7月15日	巾下地区保健連絡員グループ会議	歯みがき、歯科疾患、オーラルフレイル、定期歯科健診について	13
7月15日	味岡地区保健連絡員会議	歯みがき、歯科疾患、オーラルフレイル、定期歯科健診について	25
9月18日	食生活改善協議会	歯みがき、歯科疾患、オーラルフレイル、定期歯科健診について	18
10月1日	小牧地区保健連絡員会議	歯みがき、歯科疾患、オーラルフレイル、定期歯科健診について	24
10月14日	介護予防リーダー養成研修	歯みがき、歯科疾患、オーラルフレイル、定期歯科健診について	26
2月26日	東新町憩いの場ハッピースマイル	オーラルフレイルについて	15
合 計			337

イ 母子対象健康教育

実施日時	対象	内容	参加者数 (人)
5月23日	第一幼稚園	歯みがき指導、むし歯予防について	45
5月26日	市之久田幼稚園	歯みがき指導、むし歯予防について	124
5月26日	篠岡中学校	歯みがき指導、むし歯予防について	52
5月27日	北里中学校	歯みがき指導、むし歯予防について	104
6月9日	美鳥幼稚園	歯みがき指導、むし歯予防について	150
6月11日	美鳥第二幼稚園	歯みがき指導、むし歯予防について	150
6月13日	旭ヶ丘第二こども園	歯みがき指導、むし歯予防について	54
6月13日	三ツ渕小学校1年生	歯みがき指導、むし歯予防について	41
6月18日	保健主事会	むし歯予防、フッ化物洗口について	30
7月7日	北里中学校特別支援学級	歯みがき指導、むし歯予防について	10
7月8日	あおぞら幼稚園	歯みがき指導、むし歯予防について	42
7月10日	とやまこども園	歯みがき指導、むし歯予防について	151
8月7日	歯科保健関係職員研修会	むし歯予防、フッ化物洗口について	65
9月11日	子包括連絡調整会議	歯みがき指導、むし歯予防、口腔機能の発達について	15
11月18日	陶小学校特別支援学級	むし歯予防、フッ化物洗口について	6
12月3日	小木小学校	歯みがき指導、むし歯予防について	200
1月8日	応時中学校特別支援学級	歯みがき指導、むし歯予防について	15
1月15日	名北ゼンヌ	むし歯予防、フッ化物洗口について	112
合 計			1,366

(20) 訪問口腔衛生指導

ア 訪問日数及び件数

(ア) 訪問日数 0 日
 (イ) 延べ件数 0 件
 (ウ) 実人数 0 人

イ 往診手配実施件数 0 件

ウ 訪問指導内容内訳

(人)

被訪問者数	原因疾患		指導内容				
0 (実人数)	脳血管疾患	その他	歯みがきについて				洗口指導
			口腔内 チェック	歯の 磨き方	歯を磨く 回数・時間	補助具の 使用方法	
	0 (実人数)	0 (実人数)	0	0	0	0	0

(人)

指導内容						
義歯について				受診について		その他
清掃方法	保存方法	着脱方法	安定剤の使用 について	受診勧奨	往診手配	
0	0	0	0	0	0	0

エ 年齢別被訪問者数の内訳(延べ数)

(人)

項目	～49歳	50～59歳	60～64歳	65～69歳	70～79歳	80歳～	計
被訪問者数	0	0	0	0	0	0	0

オ 往診手配状況

(件)

件数	依頼元		主訴(重複あり)				
	本人・家族	ケアマネジャー	口腔内 チェック	歯石除去	歯周病疑い	義歯不適合	う蝕疑い
0	0	0	0	0	0	0	0

(21) 8020 表彰

ア 目的

8020 達成者に対し、その健康をたたえ、8020 表彰事業を行い、本人のみならずその家族、友人、来場者の口腔内の健康に関する意識の向上を図る。

また、肺炎や糖尿病、心疾患などといった全身疾患と歯周病との関係について着目し、歯科に関する意識の向上を図り、ひいては全身疾患の予防を図ることで健康寿命の延伸に寄与することを目的とする。

イ 対象

1) 昭和 21 年 3 月 31 日以前の生まれの方
(市内住民登録のある方)

2) 歯が 20 本以上ある方

※上記 1)、2)に該当される方

ウ 表彰者数
165 名

(22) 口腔がん検診

ア 目 的

口腔がんの早期発見・早期治療につなげるとともに市民の口腔がんに対する意識の向上を図ることを目的とする。

イ 内 容

- (ア) 問診
- (イ) 口腔がん検診
- (ウ) 結果説明

ウ 対 象

50 歳以上の市民（1 回の定員は 40 名程度）

エ スタッフ

1 回につき歯科医師 8 名（4 日間開催）

オ 周知方法

- (ア) 広報
- (イ) HP
- (ウ) 公式 LINE、Twitter、Facebook

カ 募集方法

インターネット、電話

キ 実施状況

(人)

実施日	開催時間	実施場所	応募者数	参加者数	要精検該当者数
9 月 18 日	13:00～16:00	保健センター	180	171	14
10 月 30 日	13:00～16:00	保健センター			
12 月 24 日	13:00～16:00	保健センター			
1 月 8 日	13:00～16:00	保健センター			

第9 地区組織活動

第9 地区組織活動

1 保健連絡員活動

保健連絡員は、地域と保健行政のパイプ役であり、自分や家族、地域の健康に関心を持ち、少子高齢化社会において健康に関する様々な問題に対応できる地域づくりの担い手として、地域の状況に応じた健康づくりにつとめることを目的に設置されている。

保健連絡員は、20歳以上の市内在住者で各区の世帯数に基づく設置基準に沿って区長推薦にて選出されている。地区の状況に応じ、個人での活動から健康づくりに関する行事の企画や、学習などに取り組んでいる。

(1) 保健連絡員設置数

129行政区中117区設置 233名

年度	設置区	人数	設置率
令和7年度	117区	233人	90.7%
令和6年度	120区	243人	93.0%
令和5年度	122区	245人	94.6%

(2) 保健連絡員会議

月日	行事名	内容	参加者数(人)
4月24日(木)	保健連絡員 総会	1 議題 ① 令和6年度保健連絡員活動報告について ② 令和7年度保健連絡員活動計画について 2 新役員紹介	179

(3) 個人活動

ア 目的

地域住民が健康で生き生きと、安心して生活できるよう、地域で見守りや声かけを行ったり、健康づくり、介護予防、健診・検診、子育てなどのサービスの利用が望ましいと思われる地域住民に事業内容を紹介したり、必要に応じて保健センターへつなげる。(介護予防、家族・育児支援など)

イ 内 容

(7) 地域での個人活動

活動内容		実施報告人数
・近所の方への声掛けや見守り		86
・近所の方の話を聞いたり、相談をうける		47
・近所の方から受けた相談や心配なことを保健センターへ伝える		8
・保健連絡員活動について区長さんへ挨拶に行く		79
・区で講座等開催するために区長や地区の人へ相談する		50
・地域活動（3あい事業、サロン、区の行事等）への参加		109
・保健連絡員活動や学習したことを家族や近所の方、友達に話したり、区の集まりなどで報告する		
話題・報告の内容	栄養・食生活について	86
	生活習慣病予防について	56
	歯の健康について	54
	こころの健康について	39
	子育て・親子の健康に関すること	16
	健康診査・がん検診について	70
	フレイル予防について	81
・がん予防に関する内容を家族や近所の方、友達へ話す		69
・保健センター事業に関するチラシの回覧や配布、掲示		88
・保健センター事業の紹介や、参加を勧める		53

(4) 市の事業の活用・参加

活動内容		実施報告人数
・健康診査または、がん検診を受診した（職場の検診も含む）		135
・ヤング健診を受けた		3
・健診やクリーニングで定期的に歯医者にかかっている		138
・フレイル予防事業への参加（知って得する若返り講座、フレイル改善個別相談など）		23
・離乳食教室に参加		0
・生活習慣病予防相談、一般健康相談に参加		20
・健康いきいきポイントを利用した		28
・ウォーキングアプリalkoを利用した		64
・ヘルスラボ・こまき（ラピオ5階）を利用した（個人で利用したものに限りです）		44
・女性の健康に関する講座に参加		14

(7) グループ活動に関すること

活動内容		実施報告人数
・グループ（地区ごと）で取り組むイベントや講座等のPR		46
・グループ（地区ごと）で取り組むイベントや講座等への参加		114
・保健連絡員対象の会議及び学習会・講座への参加（総会、説明会及び地区懇談会、健康づくり会議（地域編）、健康づくり会議（学習編）、普通救命講習などへの参加）		117

(4) 地区活動

ア 目 的

健康に関する講話などを各地で企画し、地域住民の健康意識を高める。

イ 対 象

地域住民

ウ 実施内容・参加者数(グループ別)

【Aグループ・小牧南地区】

区	時期	場所・企画内容	参加者
南外山	11月9日	三世代交流会	(測定) 約45人 (全体) 130人
桜井	9月25日	【3あい事業】 みんなで楽しもう！健康体操講座	15人
	11月15日	にこにこ赤ちゃん&パパママ友交流会	1人
大山	毎月第1木曜	(認知症カフェ) 歌の練習	約35人
	10月2日	ミニ健康まつり	50人
米野	4月23日	【3あい事業】 カゴメと健康生活を送ろう	41人 子ども1人
	6月25日	【3あい事業】 音楽の脳トレ (リトミック)	51人
	7月23日	【3あい事業】 耳の健康について、ズンドコ体操	56人
	10月15日	【3あい事業】 8・9・10・12月 ロコモ体操	50人
	1月21日	【3あい事業】 音楽の脳トレ (リトミック)	50人
二重堀	11月7日	【ミニ健康展】 健康講座「フレイルチェックって何？」講話、健康測定 (AGES、口腔機能検査、握力)	約40人

【Bグループ・小牧地区】

区	時期	企画内容	参加者
小牧原中	9月26日	【ミニ健康展】 保健師による講話、身体測定 (体組成計、血圧等)	20人
小牧原西	9月18日	【3あい事業】 出前講座「フレイルチェック」 (2/14の健康フェア周知、チラシでのお声がけ)	24人
	10月13日	秋祭りイベント	多数
小牧原北	6月23日	ミニ健康展	28人
	7月26日 8月2日	盆踊り	約100人
	8月(3日間)	夏休みラジオ体操	55人
	10月12日	お祭り	150人
	11月8日	ウォーキング	18人
	2月21日	三世代交流	30人
小牧原南	11月1日	三世代交流の参加を呼びかけ	—
懐	1月	三世代交流の案内を回覧板に掲載	—
向町	4月6日	区 役員会	約15人
	9月7日	保健センターでの活動やイベントのお知らせ	約15人

堀の内	毎月15日	サロンボランティア 地協の方とこまき山体操や脳トレ	30人
間々原	6月29日	【ミニ健康展】測定機器を利用した測定	17人
東新町	12月7日	東新町区もちつき大会 骨密度測定、体組成測定	約100人

【Cグループ・巾下地区】

区	時期	企画内容	参加者
三ツ渚	6月8日	グランドゴルフ大会	多数
	8月14日	納涼盆踊り	多数
	毎月第3 木曜日	みつぶちふれあいサロン（音楽鑑賞、特殊詐欺の情報や対策について、資源ごみの分別講座、防災・減災について、地域の子供達とゲーム遊び、クリスマスコンサート、劇団による歌・手品等、園児との交流）	30～40人
三ツ渚原団地	5月25日	【3あい事業】開校式及び出前講座「救命入門コース」	約18人
西之島	7月12日	盆踊り（総合練習、救急待機）	数10人以上
	7月12日	盆踊り	100人以上
	7月26日	盆踊り（手伝い、救護係）	約300人
	12月6日	ふれあい祭り（準備、接待）	40人
	12月7日	ふれあい祭り（接待、救急係） （豚汁、ごぼう飯、あんこ餅・きな粉餅の配布）	約300人
	3月15日	【3あい事業】ミツワ会美化活動・掃除	40～50人
	毎月第2 水曜日	ふれあいサロン 牧連体操ズンドコ実施	60～70人
村中	8月2日	玉林寺 盆踊り	100人
	9月7日	敬老会	100人
	10月12日	秋の大祭	100人
	10月19日	防災講話会	30人
	11月8日	ウォーキング大会	40人
	毎月第2 木曜日	葉の花会	40人
入鹿	9月1日	半寿会【ミニ健康展】	40人
河内屋	8月2日	盆踊り	50人
	10月25日	いも堀り	70人
	11月2日	【3あい事業】文化祭（防災のための豚汁、おにぎり作り）	80人

間々	毎月2回	高齢者のサロン “ ^{たのしめそうかい} 楽創会” こまき山体操、脳トレゲーム、ボッチャゲーム 日本の秋の唄、スイカ割り、あみだくじゲーム、クリスマスイベント、ラジオ体操、イスを使った体操、茶話会など	15～26人
三ツ渚 小学校区	7月6日	健康フェア	103人

【Dグループ・味岡地区】

区	時期	企画内容	参加者
東田中	9月18日	【3あい事業】出前講座「防ごう誤嚥性肺炎！これ であなたも歯(し)あわせ講座」	25人
本庄	7月7日	【3あい事業】ヨガ教室	13人
	11月2日	イベント「あつまれ！本庄」に活動内容の掲示)	300人
岩崎東	9月1日	(だるまの会) イベント・健康ラリーのお知らせ	30人
	9月20日	【女性の会】 イベント・健康ラリーのお知らせ	10人
	10月12日	味岡児童館イベント・健康ラリーのお知らせ	60人
	11月3日	(だるまの会) イベント・健康ラリーのお知らせ	30人
岩崎中	6月7日	芋ほり大会	120人
	7月12日	前期出前講座) スポーツ吹矢	40人
	9月14日	盆踊り (夏まつり)	多数
	10月13日	中区秋まつり	94人
	11月15日	ウォーキング	38人
	12月3日	(前期出前講座) 避難所運営と炊き出し	20人
	1月12日	三世代交流餅つき大会	170人
	2月15日	岩崎山美化運動	35人
南岩崎台	7月19日～ 7月26日	ラジオ体操	延320人
	10月24日	親子でハロウィン交流会	5人
	2月21日	ミニ健康展	41人
岩崎原	11月3日	【3あい事業】 田県神社、岩崎山 健康ウォーキン グ	16人
久保一色 中北	7月22日～ 7月25日 8月19日～ 8月22日	【3あい事業】 3世代での朝のラジオ体操を実施	各日 15～20人
	10月12日	みんなで楽しむ健康ラリー 案内を周知	50人

久保一色本 田	6月25日	【3あい事業】健康教室「防ごう誤嚥性肺炎！これ であなたも歯あわせ講座」	21人
久保山 団地	7月23日	【3あい事業】健康教室「知って得する健康教室」 ①口腔ケア②バランスの良い食事③体操	28人
	9月7日	(自治会会議) 10月、11月実施予定の健康イベン トの案内	18人

【Eグループ・東部地区】

区	時期	企画内容	参加者
野口	2月6日	【3あい事業&サロン】健康教室	30人
	毎月第1 金曜日	サロン ラジオ体操	30人
林	5月21日 10月15日	地域協議会主催「しのおかさわやかウォーキン グ」	各回 約70人
池之内	4月	グランドゴルフ大会	約30人
大草東 大草西	6月14日	【3あい事業】大草ボーリング大会	54人
	6月4日, 18日 7月2日, 16日 8月1日	【3あい事業】盆踊り練習	多数
	8月9日, 10日	盆踊り大会	多数
	8月24日～ 8月31日	【3あい事業】ラジオ体操	多数
	11月24日	【3あい事業】ふれあいウォーク	76人
	2月13日	【3あい事業】 出前講座 「人生100年時代の「食べる」を知ろう」	38人
	毎月	大草だより「保健連絡員より」 健康に関する事、行事の案内の掲載	4人
	毎月第1 火曜日	オレンジカフェおおくさ 折り紙、ゲーム、体操等	30人
	毎月第3 日曜日	陽だまりサロン大草 ゲーム、体操等	30人
高根	5月26日	オレンジカフェ設立準備会	約20人
古雅4	8月26日	東部地区いきいきウォーキング 案内、周知	25人
	毎月第3 土曜日	1か月間の保健連絡員としての活動報告	25人
桃ヶ丘1	6月12日	定例評議員会 「こまき健康いきいきポイント」配布	20人
	10月9日	定例評議員会 「いきいきウォーキング」PR	25人

光ヶ丘2	10月19日	防災訓練	23人
	11月5日	【光ヶ丘第二公園】 【3あい事業】花壇に花を	約12人
	8月12, 13日	自治会盆踊り	多数
光ヶ丘3	10月5日	(秋の運動フェスティバル) トランポリン・マット・ズンドコ体操	75人
	11月29日	(市民四季の森) 光ヶ丘ウォーク2025	300人
	12月14日	野口の郷の紹介 (パンフレットを見てもらいながら説明)	25人
光ヶ丘4	5月10日	町内会 6/11に行う市民講座「糖尿病とともに」の紹介	50人
	5月31日	【3あい事業】フラワーアレンジメント	8人
	6月7日	町内会 「ヘルスラボこまき」の紹介	50人
	11月15日	町内会 「いきいきウォーキング」の紹介	50人
	11月29日	(市民四季の森スタート) 地域協議会主催 光ヶ丘ウォーク	多数
	1月30日	町内会 「野口の郷」の紹介	50人
光ヶ丘6	7月29日, 30日	ラジオ体操	30人
	11月29日	ウォークラリー	350人
城山5	6月29日	自治会総会 「ヘルスラボこまき」の紹介	—
	毎月第1 第3月曜日	城山たまり場の会 ウォーキング	多数

【Fグループ・北里地区】

区	時期	企画内容	参加者
常普請	10月18日	認知症予防ゲーム	約13人
池新田	4月21日	ピンセットを使用して花作り	24人
	5月17日	大正琴と演奏会	22人
	9月22日	防災の講話 ガラスに保護フィルムを貼る実演等	22人
	10月20日	指先の運動を兼ねてクラフトバンド	22人
	11月17日	クリスマスリース作り	22人
小針入鹿新田	8月	(区会議) いきいきポイントの説明、希望者へチャレンジ表の配布	10人
	10月	(区会議) ラジオ体操、牧連ズンドコ体操 (Youtubeを活用)	10人

小針	6月22日	ふれあい健康まつり	32人
	11月23日	ラジオ体操、ズンドコ体操 小針区内 ふれあいウォーキング	130人
多気上	7月9日	(サロン) 明治安田生命協力 ベジチェック、血管年齢測定	20人
	9月14日	防災訓練(避難所運営)	60人
	毎月第1水曜日	(グループホームひまわり) 季節を感じるクラフト	利用者 10～12人 ボランティア 5人
	毎週水曜日	(グループホームひまわり) 季節を感じるクラフト、折り鶴作り、ズンドコ体操等	30人
多気下	7月9日	血管年齢測定、野菜摂取測定	30人
	毎週水曜日	(ふれあいサロン) ズンドコ体操	20～30人
	年4回	(グループホームひまわり) 訪問、講話	15人
小木下	第3火曜日	小木いきいきサロン	25～30人
とみづか	11月13日	【3あい事業】健康教室 「防ごう誤嚥性肺炎!これであなたも歯あわせ講座」	23人
	毎月第2日曜日	茶話会 簡単な体操・クイズ	25人
梵天藤栄	5月1日	ヘルスラボこまきの紹介	20～25人
	6月1日	出前講座「フレイルチェック」	20～25人

(5) グループ活動

ア 目的

グループで健康に関することを学び、学んだ内容を地域住民に発信し、健康意識を高める。

イ 対象

地域住民

ウ 実施内容

小牧南、小牧、巾下、味岡、東部、北里の6地区グループで活動し、会議や学習会を通して健康づくりに関する理解を深め、健康イベントやウォーキング大会等を開催することで、地域住民の健康づくりの推進に取り組む。

地区	グループの 人数	会議・学習会 開催回数 (地区懇談会含)	会議・学習会参加 延べ人数	地域への発信内容
小牧南 地区	23人	7回	93人	活動テーマ【こころの健康づくり～自分のこころに 気づき、よりよく付き合うために～】 ・小牧南地区健康イベントを開催 来場者数：115人 ・学習のまとめをふらっとみなみに展示 期間：1/30～2/15 ・回覧チラシ（健康イベント開催チラシ裏）および 健康イベント参加者へ配付したメッセージカード に学習会での学びを記載
小牧 地区	42人	9回	197人	活動テーマ【すべての年代に通じる健康づくり ～若いうちからの筋肉貯金/食生活からのカラダづく り/かめる歯をつくろう～】 ・小牧小学校区三世代交流会（ハッピーフェスタ） に健康フェアブースを出展 ブース利用者数： 250人 ・小牧原小学校三世代交流会に健康フェアブースを 出展 ブース利用者数：192人 ・他団体との連携 小牧小学校区地域協議会 小牧原小学校地域協議会
巾下 地区	22人	9回	163人	活動テーマ【楽しい食事から考える長寿のヒミツ】 ・巾下地区健康フェアを開催 来場者数：129人 ・各地区におけるイベントでの学んだことの発信 ex) 三ツ渚学区健康フェア、ふれあいのつどい、 入鹿半寿会 ・他団体との連携協力 三ツ渚学区コミュニティ推進協議会 小牧西部地区ボランティア連絡会 西之島ふれあいサロン
味岡 地区	49人	10回	248人	活動テーマ【みんなで取り組む健康習慣！】 ・味岡地区健康イベントを開催 来場者数：79人
東部 地区	60人	11回	317人	活動テーマ【生き生きとした毎日を送るための体づ くり】 ・東部いきいきウォーキングを開催 来場者数：258人 ・活動のまとめを東部市民センターにて展示 期間3月6日～13日

北里地区	37人	9回	252人	活動テーマ【地域で支える健康づくりを考える！】 ・ 小木小学校区健康まつりに参加 来場者数：94人 ・ 北里Festivalに保健連絡員ブースを出展 ブース利用者数：115人 ・ 他団体との連携 小木小学校区地域協議会 北里小学校区地域協議会
------	-----	----	------	--

エ グループ会議・学習会

(ア) 目 的

グループごとに健康に関する問題をテーマとし、学習や活動を通し、知識を高め、地区住民に広める。

(6) 地区懇談会

ア 目 的

グループの中でさらに小地区にわかれて、その地域の健康に関する状況や問題等について意見交換を行うことで、保健連絡員活動についての理解を深め、保健連絡員としての自覚を高め今後の活動につなげる。

イ 対 象

保健連絡員

ウ スタッフ

地区担当保健師

エ 実施内容

- ・ 自分たちの住む地区について健康に関する意見交換
- ・ 保健連絡員活動について
- ・ 保健センターの事業紹介
- ・ 質疑応答

オ 参加者数

6地区延べ176人

(7) 保健連絡員全体の学習

ア 目 的

健康に関する学習をすることにより、自己の健康意識を高め、健康増進を図るとともに地区の保健連絡員活動に役立てる。

イ 対 象

保健連絡員 233人

ウ 実施内容

行事名	月 日	内 容	参加者数
第1回学習会	4月24日(木) 総会后	保健連絡員として活動を始める上で大切な心構えについて学び、地域の健康づくりに向けた視点を深めた。 【講演】 「身近なところから始める健康づくり～半歩踏み出そう！～」 【講師】 愛知医科大学大学院看護学研究科特命教育教授 坂本真理子氏 【場所】 市民会館 【実施内容】 保健連絡員として活動するための心構えについて	179人
第2回学習会	5月28日(水) 5月30日(金)	正しい歩き方の指導とレクリエーションを行い、楽しく体を動かすことができました。また、令和7年1月にオープンしたヘルスラボ・こまきの見学を実施し、健康づくりのきっかけとなる身体の測定や食事のバランスチェックなどの体験を行った。 【講座】 「健康づくりウォーキング&ヘルスラボ・こまき見学」 【講師】 小牧市体操連盟健康体操部 体操指導員 宮崎加代 氏 【場所】 まなび創造館 アリーナ1/ヘルスラボ・こまき 【実施内容】 ウォーキング指導、体操など実技 レクリエーション（親睦を深めるゲーム）ヘルスラボ・こまきの見学	71人

(8) 保健連絡員養成講座

ア 目 的

活動開始にあたり、地区における保健連絡員の役割を理解する。

イ 対 象

新規保健連絡員及び過去の養成講座未受講者、受講希望者

ウ スタッフ

保健連絡員、保健師、公認心理師 他

エ 実施内容・参加者数

月 日	内 容	参加者数
4月 9日 (水) 4月11日 (金) 4月14日 (月) 4月18日 (金)	講話 「保健連絡員について」	84人
6月30日 (月) 午前・午後	コミュニケーションに関する講座 【初級編】 講師：特定非営利活動法人 ゲートキーパーTONARINO GKT理事 保健師・公認心理師 児玉裕子氏	39人
9月2日 (火)	コミュニケーションに関する講座 【ステップアップ編】 講師：特定非営利活動法人 ゲートキーパーTONARINO GKT理事 保健師・公認心理師 児玉裕子氏	25人
随時	乳がん検診 ブレスト・アウェアネス ミニ講座	41人※
随時	大腸がん検診	31人※

(※養成講座として申込みし、受診した者)

(9) 保健連絡員役員会

小牧南地区、小牧地区、巾下地区、味岡地区、東部地区、北里地区のそれぞれのグループから選出された役員9名にて運営。役員は、役員会を実施するほか、各地区のグループの意見を保健連絡員活動に反映することや保健連絡員の会議や学習会の企画を行う。

月 日	時	内 容
4月3日 (木)	午前10時～11時00分	・令和6、7年度役員挨拶・紹介 ・今年度の保健連絡員活動について
5月9日 (金)	午前10時～11時30分	・総会及び第1回学習会について ・第2回学習会（健康づくりウォーキング）について
8月5日 (火)	午前10時～11時00分	・第2回学習会（健康づくりウォーキング）について ・各地区の進捗状況について
11月7日 (金)	午前10時～11時00分	・各地区の進捗状況について ・活動のまとめについて
1月15日 (木)	午前10時～11時00分	・各地区の活動状況について
3月3日 (火)	午前10時～11時00分	・来年度の活動について

2 小牧市食生活改善協議会

家族の健康を考える食生活講座（ヘルスメイト養成講座）を修了したもの、又はこれと同等の講習会を修了したもので、下記の目的により、平成11年3月19日に小牧市食生活改善協議会が設立された。

(1) 目 的

本協議会は、超高齢化社会を迎えるにあたり、小牧市民憲章により、歴史と伝統のある健やかな町の発展をめざして、若い世代から丈夫な体づくりをし、自分らしい豊かな生涯を送るため、食生活改善協議会員として、毎日の食事の中から食べ方・作り方等の地域での実践活動を推進し、また、会員相互の連絡を密にすることで、健康で生きがいのある明るい町づくりをすることを目的とする。

(2) 会員数 13名（令和7年4月1日）

(3) 会議等

月 日	事 業	内 容	活動人数	参加者数
4 月 21 日	総会	前年度の活動報告等	全員	—
4 月 1 日他	役員会	事業計画、反省等 年 10 回	6 人	—

(4) 小牧市事業への参加

月 日	事 業	内 容	活動人数	参加者数
	小牧市広報掲載 「ヘルスメイトおすすめレシピ」	広報こまき 5、7、9、11、1、3 月号に掲載（年 6 回）	全員	—
5 月 18 日	小牧市 70 周年記念		1 人	—
6 月 11 日	味岡地区ボランティア 合同勉強会	九重みりん工場見学（碧南市）	4 人	—
6 月 23 日	小牧市健康づくり審議会	食育専門部会（1 回）	1 人	—
10 月 15 日他	自分・家族の健康を考える食生活講座（ヘルスメイト養成講座）	5 回 （10/15、11/19、1/21、2/18、3/18）	6 人	11 人
10 月 21 日	小牧・春日井タウンミーティング	食の安全・安心について	9 人	—
10 月 25、26 日	市民まつり福祉展	野菜の手ばかり栄養法 飲み物の糖分比べ ソルセイブで塩分チェック	8 人	178 組
11 月 15、16 日	いきいきこまき（農業祭）	・野菜の手ばかり栄養法 ・飲み物の糖分比べ ・ソルセイブで塩分チェック ・カリウムカードを使用して 3,000 mg 目指そう	8 人	151 組

(5) 地域活動

月 日	事 業	内 容	活動人数	参加者数
7 月 30 日	おやこの食育教室	料理を始めるきっかけとなることを目的とした講話と調理実習	8 人	20 人
10 月 16 日	生涯骨太クッキング教室	骨折や骨粗鬆症を予防することを目的にした講話と調理実習	8 人	11 人
12 月 4 日	シニアカフェ (低栄養予防教室)	楽しく食べて低栄養を予防することを目的とした講話と調理実習	14 人	6 人

(6) 愛知県食生活改善推進協議会事業への参加

月 日	内 容	活動人数
4 月 17 日他	常任理事会 計 8 回	1 人
5 月 20 日	総会	3 人
9 月 26 日	地区組織育成・強化推進会議	3 人
10 月 3 日	食生活改善推進員指導者養成研修会	2 人

(7) 他機関・団体主催事業への参加

月 日	内 容 (参加者数)	活動人数
	小牧豊山くらしのニュース掲載「健康レシピ！」 4, 5, 6, 7, 8, 9, 10, 11, 12, 1, 3 月号に掲載 (年 11 回)	全員
5 月 1 日	家庭科調理実習サポート (光ヶ丘小学校) (55 人)	6 人
5 月 2 日	ももの会 (高齢者との調理実習) (20 人)	2 人
11 月 23 日	ももの会 (高齢者との調理実習) (16 人)	2 人
1 月 31 日	篠岡地区ボランティア連絡会ふれあいのつどい (160 人)	2 人

(8) 各グループ学習会

●栄養士対応健康教育（ヘルスメイト育成）

月 日	講話内容	場所	参加者
7月17日	定例会：「エプロンシアターの使い方、デモンストレーション」	ふれあいセンター	11人

●木曜グループ

テーマ：「よい腸内環境を整えよう～善玉菌20%、悪玉菌10%、日和見70%！！」

合計9回

月 日	学 習 内 容	場 所	参加者
5月15日	「おやこの食育教室」試作	ふれあいセンター	12人
6月20日	・「おやこの食育教室」試作（2回目） ・「生涯骨太クッキング教室」試作	市公民館	12人
7月17日	・「おやこの食育教室」試作（3回目） ・「生涯骨太クッキング教室」試作（2回目）	ふれあいセンター	11人
9月18日	・学習「オーラルフレイルについて」 講師：保健センター歯科衛生士 ・「生涯骨太クッキング教室」試作（3回目）	ふれあいセンター	11人
10月9日	「生涯骨太クッキング教室」試作（4回目）	ふれあいセンター	9人
11月20日	・こまき山体操 講師：地域包括支援センター保健師 ・「シニアカフェ」試作	ふれあいセンター	8人
12月18日	簡単おせち料理 ・「シニアカフェ」試作（2回目）	ふれあいセンター	9人
2月19日	くらしのニュース掲載レシピ試作	ふれあいセンター	9人
3月12日	・認知症予防学習 講師 三宅やよい先生 ・広報掲載レシピ試作	ふれあいセンター	10人

3 牧連体操クラブ

(1) 目 的

子どもから高齢者の方まで誰でもでき、簡単に親しみやすく健康に役立つ体操「牧連体操ズンドコ」を広く地域に広め、自分たちの健康、ひいては地域の健康につなげていく。

(2) 会 員 14人

(3) 活動方法

- ・原則として毎月第2水曜日、第4木曜日を定例練習日とし、会員の技術向上の場とすること、また体操を学びたい方への場の提供を目的として実施
- ・講師派遣依頼に応じる
- ・体操を広めるための活動（PRや媒体づくり等）を考え実践していく

(4) 活動状況

ア 定例練習会参加状況（練習会20回実施）

（人）

月	ボランティア	参加者
4月	9	13
5月	18	40
6月	15	30
7月	17	23
8月	8	16
9月	18	32
10月	11	47
11月	15	38
12月	9	21
1月	14	38
2月	10	18
3月	16	37
計（延べ）	160	353

イ 地域での活動状況

- ・小牧市民まつりへの参加
- ・地域団体（いきいきサロン、老人クラブ、地域協議会など） 6回
- ・小牧市YouTube「健康チャンネル」にて配信

ウ 打ち合わせ実施状況

- ・総会1回、定例練習会と併せて実施

4 ^{がくいく} 楽育相談

(1) 経 緯

子どもの成長発達に関する支援が必要な親に対してのアプローチ方法を学ぶため、発達障がいの子どもの持つ母親（2名）を講師として招いて、平成23年度に保健センターで勉強会を実施した。

勉強会では、健診や相談などで保健師等から子どもの発達に関して支援が必要であることを告げられたときの気持ちや心配であるにも関わらず今は指摘されたくない気持ち等が出された。同時に「これまでの経験から後輩の保護者の方に役に立ちたい」との発言があり、平成26年3月「発達障がいを持つ子どもの親が行う子育てサロン」として子育てに悩む保護者を対象とした^{がくいく}楽育相談の開催に至った。

名称：「^{がくいく} 楽育相談」

楽＝楽しく 育＝育児を進めていく ことが出来るようお願いをこめて命名

(2) 目 的

育てにくい子どもの保護者や子育てに自信のない保護者に対し、相談支援者が自分の経験を生かし気持ちの共有、日常生活や就園、就学に向けての情報交換をすることで、孤独感や困難感が軽減され、気軽に相談ができ前向きに子育て出来るよう支援する。

(3) 支援内容

- ・日常生活での困難感や子育てについての不安の傾聴
- ・日常生活での対応についての助言
- ・就園、就学についての不安の傾聴と助言
- ・保護者の頑張りを認め、前向きに子育てできるよう支援

(4) 実施回数

通年、毎月1回予約なしでの開催であったが、令和6年度は、会員の都合により日程をあらかじめ設定せず、予約制で実施。

(5) 会 員

発達障がいを持つ子どもの保護者2名

(6) 相談者数

令和7年度は相談者なし

(7) 相談窓口が増え、相談者が減少。令和7年度をもって楽育相談は終了とした。

第10 救 急 医 療 活 動

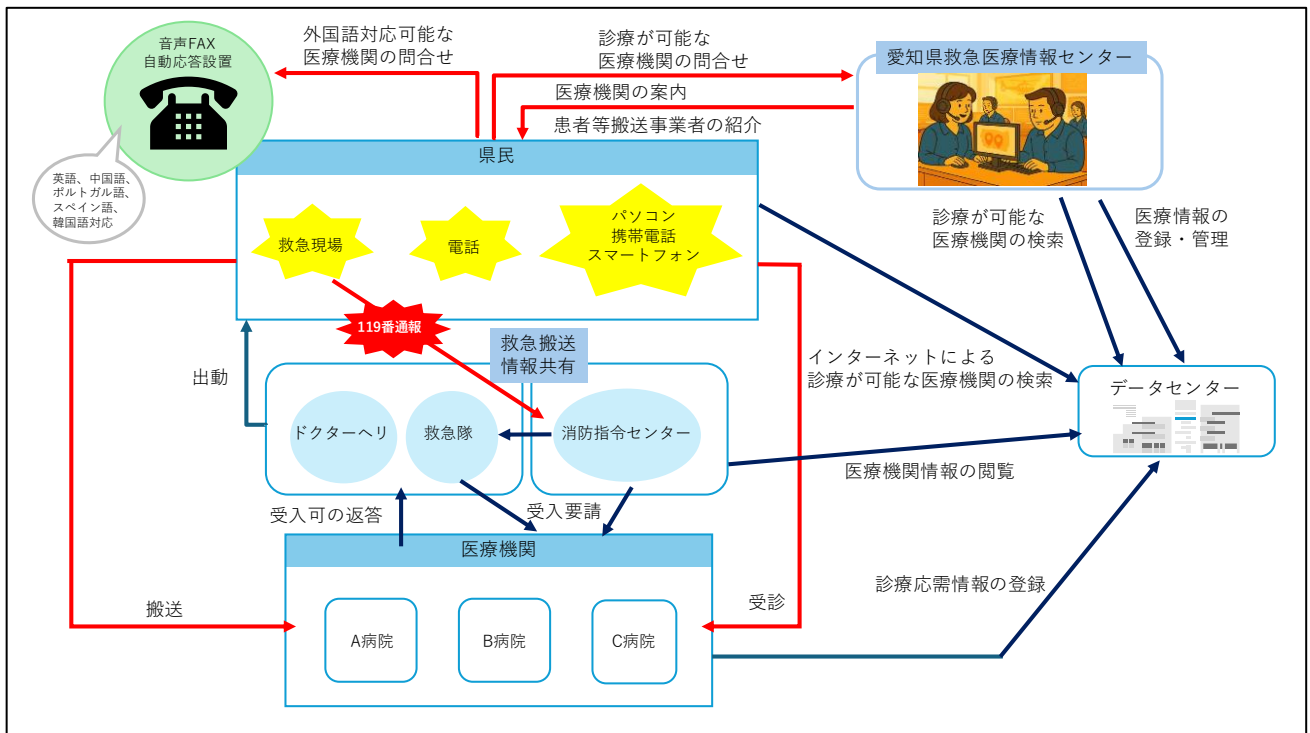
第10 救 急 医 療 活 動

1 救急医療活動

(1) 救急医療情報システム

休日や夜間などかかりつけの医者がない時でも、素早く、適切な治療が受けられる医療機関を24時間いつでも症状に応じて案内している。

(電話：(0568)81-1133)



(2) 救急医療情報センター利用状況

(人)

	市民	医療機関	消防署	警察署	計
令和6年度	1,441	2	1	1	1,445
令和7年度	1,287	3	0	1	1,291

(3) 休日急病診療所

小牧市では休日における急病患者に適正な医療を提供し、市民の生命と健康維持に寄与するため、小牧市休日急病診療所を設置している。

- ・開設 昭和53年4月1日
- ・場所 小牧市常普請一丁目318番地(平成16年4月1日に移転)
- ・電話 (0568) 75-2070
- ・診療科目 内科、小児科、外科、歯科
- ・診療日 日曜日及び国民の祝日に関する法律に規定する休日並びに12月31日、1月2日及び1月3日（令和7年度の外科診療日はゴールデンウィーク及び年末年始のみ）
- ・診療時間 午前9時～正午、午後1時～午後5時(内科、小児科、外科)
午前9時～正午(歯科)

令和7年度小牧市休日急病診療所利用者数

(人)

区別 月	診療 日数	科目別							男女別		地区別		時間別		救急車利用数					二次転送別				
		内科	小児科	外科	歯科	計	平均	再診	男	女	市内	市外	午前	午後	内科	小児科	外科	歯科	計	内科	小児科	外科	歯科	計
4月	5	57	61	0	1	119	23.8	0	71	48	100	19	70	49	0	0	0	0	0	1	3	0	0	4
5月	7	116	97	28	15	256	36.6	9	119	137	205	51	174	82	0	0	1	0	1	0	3	1	0	4
6月	5	45	35	0	0	80	16.0	0	36	44	72	8	45	35	1	0	0	0	1	5	1	0	0	6
7月	5	66	39	0	6	111	22.2	1	62	49	94	17	56	55	0	0	0	0	0	0	2	0	0	2
8月	6	95	56	0	10	161	26.8	1	85	76	132	29	104	57	0	0	0	0	0	2	1	1	0	4
9月	6	97	65	0	3	165	27.5	2	81	84	147	18	92	73	0	0	0	0	0	1	3	0	0	4
10月	5	81	56	0	5	142	28.4	0	71	71	121	21	92	50	0	0	0	0	0	2	1	1	1	5
11月	7	330	322	0	3	655	93.6	14	361	294	541	114	386	269	0	0	0	0	0	0	1	1	0	2
12月	5	223	155	9	20	407	81.4	0	196	211	364	43	266	141	0	0	0	0	0	4	1	0	0	5
1月	8	319	176	18	18	531	66.4	14	277	254	461	70	335	196	0	0	0	0	0	4	0	2	0	6
2月	6	245	236	0	5	486	81.0	0	272	214	414	72	275	211	1	0	0	0	1	1	0	0	0	1
3月	6	91	61	0	3	155	25.8	0	88	67	130	25	94	61	0	0	0	0	0	2	1	0	0	3
計	71	1,765	1,359	55	89	3,268		41	1,719	1,549	2,781	487	1,989	1,279	2	0	1	0	3	22	17	6	1	46

第11 その他

第11 その他

1 各種協議会等開催状況

(1) 小牧市健康づくり推進審議会(所管：健康生きがい推進課)

区 分	月 日	内 容
第 1 回	令和 7 年 5 月 14 日	議 題 (1)ヘルスラボ・こまきの運用の振り返りと今後の活用について 報 告 (1)令和 7 年度健康づくり関連事業について (2)糖尿病対策専門部会の設置について
第 2 回	令和 7 年 11 月 19 日	議 題 (1)小牧市健康づくり推進プランの取組の進捗状況について (2)小牧市新型インフルエンザ等行動計画の改定について 報 告 (1)令和 7 年度健康づくり関連事業について
第 3 回	令和 8 年 2 月 18 日	議 題 (1)令和 7 年度小牧市健康づくり推進審議会専門部会の取組について 報 告 (1)女性の健康づくりに関する取組について (2)高齢者の介護予防と保健事業の一体的実施に関する取組について (3)健康経営支援に関する取組について

(2) 小牧市予防接種協議会

区 分	月 日	議 題
第 1 回	令和 7 年 10 月 15 日	・新型コロナウイルスワクチン接種後健康被害給付申請者について ・令和 6 年度の予防接種実績について ・予防接種事務のデジタル化について

(3) 小牧市休日急病診療所運営協議会

区 分	月 日	議 題
第 1 回	令和 8 年 2 月 3 日	・小牧市休日急病診療所診療体制の変更について ・令和 7 年度小牧市休日急病診療所事業報告について

(4) 小牧市母子保健推進協議会

区 分	月 日	内 容
第 1 回	令和 7 年 6 月 27 日	(1) 報告 生と性のカリキュラム令和 6 年度実績報告 (2) 議題 母子保健推進協議会のあり方について
第 2 回	令和 8 年 2 月 27 日	(1) 報告 令和 7 年度 5 歳児健康診査について (2) 議題 令和 6 年度小牧市健康づくり推進プランの取組の進捗状況について～乳幼児の受動喫煙の防止について～

2 不妊治療等助成事業（一般不妊治療）

(1) 目 的

妊娠を望んでいる方々の経済的負担を軽減するために、不妊検査、不妊治療（生殖補助医療を除く）に要する費用を助成する。

(2) 対 象

次のいずれにも該当する方

- ・ 双方、またはいずれか一方が申請日において小牧市内に住民登録をしている方
- ・ 婚姻届を出されているご夫婦、または事実婚関係にある男女
- ・ 医療保険加入者、または被扶養者、若しくは生活保護法に規定する医療扶助、または中国残留邦人等の円滑な帰国の促進及び永住帰国後の自立の支援に関する法律に規定する医療支援給付対象者
- ・ 市税（市県民税、固定資産税及び国民健康保険税）を滞納していない方
- ・ 産科、婦人科、産婦人科、泌尿器科または皮膚泌尿器科を標榜する医療機関において、不妊症と診断され、不妊検査・治療等を受けられた方

(3) 補助金を受けることができる医療行為

- ・ 不妊検査
- ・ 不妊治療（生殖補助医療を除く）

(4) 補助期間及び補助金額

- ・ 1年度につき1回5万円を上限として、治療を受けた医療機関で医師が認めた治療の自己負担分
- ・ 診療日の属する月から継続する2年間（24か月）

(5) 助成件数

96件

(6) 助成件数のうち妊娠が成立した件数

25件

3 不妊治療等助成事業（生殖補助医療）

(1) 目 的

妊娠を望んでいる方々の経済的負担を軽減するために、生殖補助医療、男性不妊治療、先進医療に要する費用を助成する。

(2) 対 象

次のいずれにも該当する方

- ・双方、またはいずれか一方が申請日において小牧市内に住民登録をしている方
- ・婚姻届を出されているご夫婦、または事実婚関係にある男女
- ・医療保険加入者、または被扶養者、若しくは生活保護法に規定する医療扶助、または中国残留邦人等の円滑な帰国の促進及び永住帰国後の自立の支援に関する法律に規定する医療支援給付対象者
- ・市税(市県民税、固定資産税及び国民健康保険税)を滞納していない方
- ・産科、婦人科、産婦人科、泌尿器科または皮膚泌尿器科を標榜する医療機関において、不妊症と診断され、生殖補助医療及び男性不妊治療を受けられた方

(3) 補助金を受けることができる医療行為

- ・生殖補助医療（体外受精、顕微授精）
- ・男性不妊治療
- ・先進医療

(4) 補助回数及び補助金額

- ・治療開始から治療終了までを1回の申請とし、初回申請分の生殖補助医療の治療開始時点における妻の年齢が40歳未満の場合は6回まで、40歳以上43歳未満の場合は3回まで

(5) 助成件数（重複を除いた件数）

87件（52件）

(6) 助成件数のうち妊娠が成立した件数

28件

4 不育症治療等助成事業

(1) 目 的

医療機関において不育症の診断を受けた方々の経済的負担を軽減するために、不育症検査及び不育症治療に要する費用(保険適用外分のみ)を助成する。

(2) 対 象

次のいずれにも該当する方

- ・ 双方、またはいずれか一方が申請日において小牧市内に住民登録をしている方
- ・ 婚姻届を出されているご夫婦、または事実婚関係にある男女
- ・ 医療保険加入者、または被扶養者、若しくは生活保護法に規定する医療扶助、または中国残留邦人等の円滑な帰国の促進及び永住帰国後の自立の支援に関する法律に規定する医療支援給付対象者
- ・ 市税(市県民税、固定資産税及び国民健康保険税)を滞納していない方
- ・ 産科、婦人科、産婦人科を標榜する医療機関において、不育症と診断され、不育症検査・治療等を受けられた方

(3) 補助金を受けることができる医療行為

- ・ 不育症検査
- ・ 不育症治療

(4) 補助回数及び補助金額

- ・ 1回の治療につき15万円を上限として、治療を受けられた医療機関で医師が認めた治療の自己負担分(保険適用外)
- ・ 治療開始から治療終了までを1回の申請とし、5回まで

(5) 助成件数

2件

5 小牧市自殺対策計画の推進

(1) 目 的

自殺はその多くが防ぐことのできる社会的な問題である。誰も自殺に追い込まれることのない社会の実現を目指す上で、家庭、地域、学校、職場等、様々な場で、「いつもと違う」様子に気づき、必要に応じて専門機関等へつなぐことが重要であり、早期の段階で困っている人に気づく身近な支援者を増やし、みんなで生きることを支える地域づくりを進める。

(2) 対 象

一般市民

(3) 実施内容

ア 会議

区 分	月 日	議 題
小牧市自殺対策推進協議会	令和7年7月28日 令和8年2月16日	・自殺の現状、自殺対策計画の取り組みについて
小牧市うつ・自殺対策相談窓口ネットワーク会議	令和7年9月30日	・子どもの心の健康づくり

イ 取り組み

- ・ゲートキーパー養成講座開催

ゲートキーパー養成講座	対象：職員[新任期職員]	令和7年6月4日(44名)
	対象：職員[全職員（web研修）]	令和8年3月中（713名）
	対象：保健連絡員（初級編）	令和7年6月30日(39名)
	対象：保健連絡員（ステップアップ編）	令和7年9月2日(25名)
	対象：一般市民	令和8年2月8日(126名)

- ・ゲートキーパーについて周知、啓発(区長会、民生委員・児童委員連絡協議会、職域関係者等)
- ・自殺再企図防止講座の開催(専門職および相談窓口対応職員対象)
- ・「自殺予防週間(9月)」及び「自殺対策強化月間(3月)」に合わせた普及啓発(ポスターの掲示、啓発物品の設置、関係機関との連携によるデジタルサイネージの活用や関連図書コーナーの設置等)
- ・広報、市のホームページ等で「こころの健康」及び相談先について周知

6 骨髄提供者等助成事業

(1) 目 的

公益財団法人日本骨髄バンクが実施する骨髄バンク事業において、骨髄又は末梢血幹細胞(以下「骨髄等」という。)を提供した方や提供した方が勤務する事業所に対し助成金を交付することで、提供に要する経済的負担を軽減する。また、骨髄等の移植の推進及び骨髄バンクへのドナー登録者数の増加を図る。

(2) 対 象

次に該当するもの

ア 骨髄等の提供日において小牧市内に住所を有し、かつ居住をし、公益財団法人日本骨髄バンクを通じて骨髄等を提供した方

イ 骨髄等を提供した方が、骨髄等の提供のために要した通院又は入院した日数を通じて勤務している国内の事業所(個人事業主、官公庁、独立行政法人、地方独立行政法人及び国立大学法人を除く)

(3) 助成の対象となる行為

ア 骨髄等の提供のための健康診断や自己血貯血に係る通院

イ 骨髄等の採取にかかる通院や入院

※ただし、骨髄等の提供が完了した日から1年以内の申請による

(4) 助成金額と期間

1回の骨髄等の提供につき、通算7日が上限

骨髄等を提供した方	(1)通院又は入院1日につき2万円 (2)20万円(市独自の助成金)
事業所	通院又は入院1日につき1万円

(5) 助成者数

1名

7 がん患者医療用補整具購入費助成金

(1) 目 的

医療用補整具の購入に係る費用の一部を助成することにより、がん患者の方の心理的負担及び経済的負担の軽減を図り、治療・就労・社会参加等との両立の支援と療養生活の質の向上を図る。

(2) 対 象

次に該当する方

ア 医療用補整具を購入した翌日から助成金の交付の申請をする日までの間、本市の住民基本台帳に記録されている方

イ がんと診断され、がんの治療を受けた者又は現に受けている方

ウ がん治療に起因する脱毛又はがんの外科的治療等による乳房の変形に対応するための医療用補整具を購入した方

(3) 助成の対象となる経費

医療用補整具の購入に係る費用

ア ウィッグ(全頭用・部分用)

※ウィッグと同時申請の場合のみ、頭皮保護用ネットを含む

イ 乳房補整具(補整下着、補整パッド又は人工乳房)

※乳房補整具と同時申請の場合のみ、それらを固定する下着を含む

(4) 助成金額と期間

購入費用の2分の1(上限はウィッグ・乳房補整具ともに各2万円)

※1,000円未満は切り捨て

※助成回数は1人につき各1回限り

(5) 助成件数

ア 医療用ウィッグ 51件※

イ 乳房補整具 17件※

※内2件は両種類申請

8 若年がん患者在宅療養助成金

(1) 目 的

若年のがん患者に対し、在宅サービスの利用等に係る費用の一部を助成することにより、若年のがん患者の経済的負担を軽減し、安心して住み慣れた自宅での生活ができるよう支援する。

(2) 対 象

次のいずれにも該当する方又は市長が特に必要と認める方

ア 在宅サービスの利用等の時点及び申請の日において本市の住民基本台帳に記録されている方

イ 在宅サービスの利用等の時点において、40歳未満の方

ウ がん患者（医師に一般に認められている医学的知見に基づき回復の見込みがない状態に至ったと判断された方に限る。）

エ 在宅生活の支援及び介護が必要な方

オ 本市の市税の滞納がない方

カ 福祉用具の借用及び福祉用具の購入に係る費用の助成については、児童福祉法（昭和22年法律第164号）第19条の2第1項の規定による小児慢性特定疾病医療費の支給を受けていない方

キ 他の公的な制度又は保険による同種の助成又は給付を受けていない方

(3) 助成の対象となる経費

ア 在宅サービスの利用費用

訪問介護、訪問入浴介護、訪問看護、訪問リハビリテーション、居宅療養管理指導、夜間対応型訪問介護、その他若年のがん患者が自宅で生活するために必要と認められるサービスの利用費用

イ 福祉用具の借用費用

手すり・スロープ(工事を伴わないもの)、歩行器、歩行補助つえ、車いす、車いす付属品、特殊寝台、特殊寝台付属品、床ずれ防止用具、体位変換器、移動用リフト（つり具の部分を除く。）、自動排せつ処理装置、その他介護保険で認められるものの借用費用

ウ 福祉用具の購入費用

腰掛便座、自動排せつ処理装置の交換可能部品、入浴補助用具、簡易浴槽、移動用リフトのつり具の部分、排せつ予測支援機器、その他介護保険で認められるものの購入費用

(4) 助成金額

1か月ごと、対象経費の合計のうち9割（上限54,000円）

※1,000円未満は切り捨て

(5) 申請・請求期限

助成対象のサービス等を利用した年度内

(6) 助成件数

0件